

平成 26 年度
事 業 報 告 書

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報	1
1	法人の概要	1
(1)	事業内容	1
(2)	所在地.....	1
(3)	教員及び職員の数.....	1
(4)	沿革	1
(5)	設立に係る根拠法.....	1
(6)	主管省庁名	1
(7)	組織図.....	2
2	役員の状況	3
(1)	役員・監事	3
(2)	理事	4
(3)	評議員.....	11
II.	業務実績報告	13

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

(2) 所在地

メインキャンパス 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919-1
シーサイドハウス 沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542

(3) 教員及び職員の数（平成 27 年 3 月 31 日現在）

教員： 50 人

職員（研究員含む）： 591 人

(4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

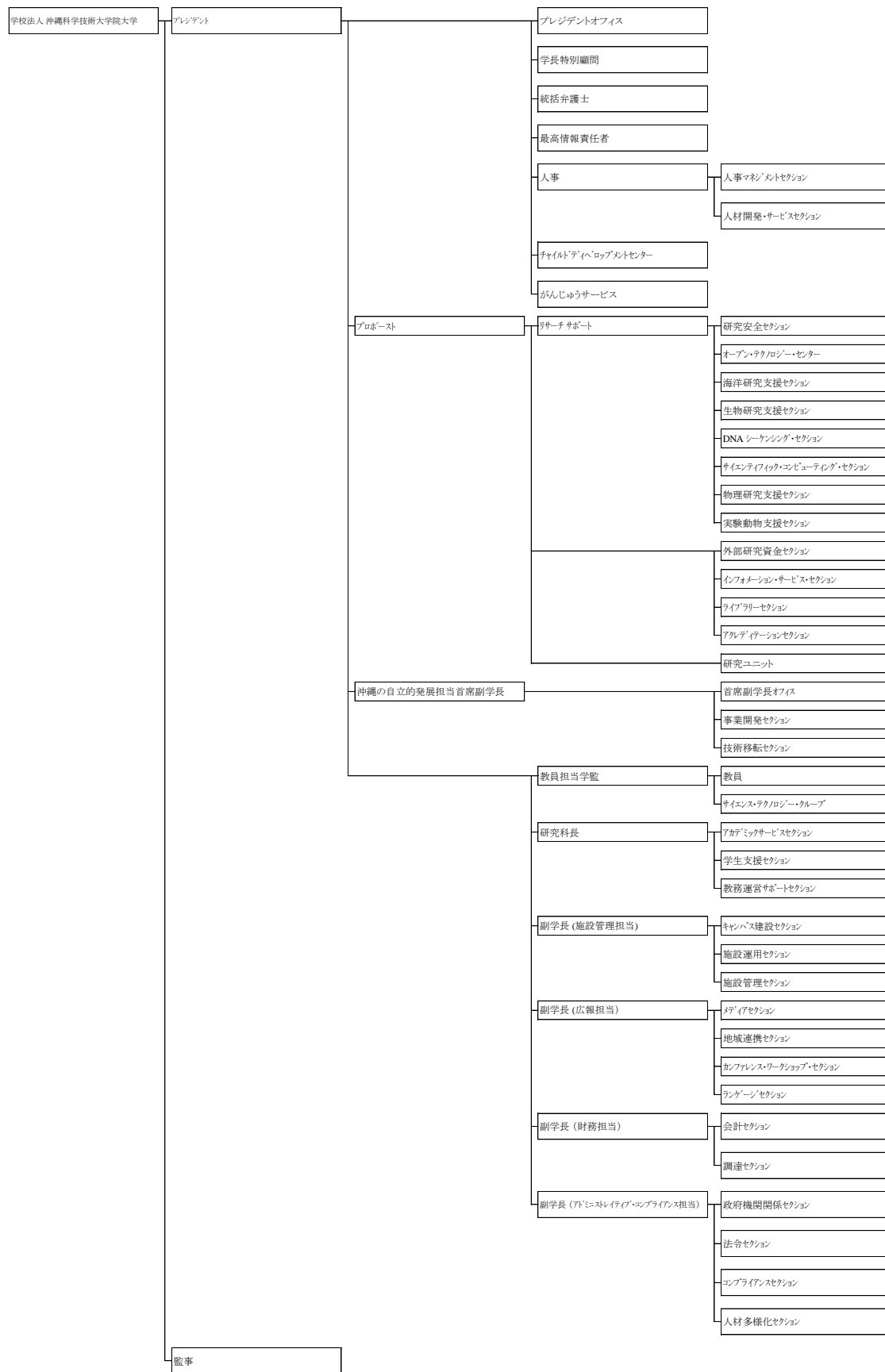
(5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

(6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (平成 27 年 3 月 31 日現在)



2 役員状況（平成 27 年 3 月 31 日現在）

定数：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第 5 条第 1 項、第 7 条、第 19 条第 2 項の定めるところによる。

任期：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第 9 条第 1 項及び第 24 条第 1 項の定めるところによる。

(1) 役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴	
理事長・ 学長	ジョナサン・ ドーファン	2011 年 11 月 1 日 ～ 2015 年 8 月 31 日	1976 年	カリフォルニア大学アーバイン校（米国）博士号 （素粒子物理学）
			1999 年	スタンフォード大学スタンフォード線形加速器 センター所長
				スタンフォード大学エグゼクティブ・キャビネッ ト・メンバー
			2007 年	スタンフォード大学学長スペシャルアシスタ ント
			2009 年	オックスフォード大学（英国） ジョン・アダ ムズ加速器科学研究所アドバイザー・ボード・メ ンバー
			2010 年	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 （大学院大学学長予定者） 独立行政法人沖縄科学技術大学院大学学園設立 委員
			2011 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
副理事 長・プロ ボースト	ジョージ・ イワマ	2014 年 6 月 23 日 ～ 2019 年 12 月 31 日	1986 年	ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）博士号 （動物学）
			1996 年	ブリティッシュコロンビア大学動物科学科教授
			2000 年	カナダ国立研究機構海洋生物科学研究所所長
			2003 年	カナダ国立研究機構栄養学・衛生研究所所長
			2004 年	アカディア大学理学部長
			2006 年	アカディア大学学部担当副学長代理
			2007 年	カールトン大学理学部長
			2009 年	ノーザンブリティッシュコロンビア大学学長兼 副総長

			2014年 1月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園上席副学 長
			2014年 6月	同 副理事長 沖縄科学技術大学院大学プロボースト
監事	相馬 清貴	2013年 6月26日 ～ 2017年 10月31日 (再任・2 期目)	1985年 2007年 2010年 2012年 2013年 6月	総務庁入庁 総務省人事・恩給局恩給企画課長 総務省大臣官房政策評価広報課長 内閣府公益認定等委員会事務局総務課長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
監事	當眞 嗣吉	2014年 6月9日 ～ 2017年 10月31日 (再任・2 期目)	1971年 1999年 2001年 2003年 2005年 2006年 2007年 2011年 2013年 2014年 6月	琉球電力公社入社 沖縄電力(株)取締役火力部長 沖縄電力(株)代表取締役副社長 沖縄電力(株)代表取締役社長 (財)沖縄マリンレジャーセイフティービューロー 代表理事 沖縄セルラー電話(株)監査役 沖縄電力(株)代表取締役会長 沖縄経済同友会代表幹事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 沖縄経済同友会特別幹事 沖縄電力(株)取締役相談役 九州経済連合会顧問 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事

(2) 理事

氏名	任期	主要経歴	
安仁屋 洋子	2014年 11月1日 ～ 2017年 10月31日	1980年 1970年 1983年 1986年 1990年 2001年	鹿児島大学博士号 (医学部) 琉球大学医学部助手 ロチェスター大学メディカルセンター ポストドクト ラルフェロー 琉球大学医学部准教授 琉球大学医学部保健学科教授 琉球大学産学官連携推進機構長

			琉球大学評議員 2002年 琉球大学医学部保健学科長 2003年 琉球大学大学院医学研究科教授 2007年 琉球大学医学部保健学科教授 2011年 琉球大学名誉教授 2014年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 11月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
有馬 朗人	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1958年 1971年 1975年 1989年 1993年 1998年 1999年 2000年 2005年 2006年 2009年 2010年 2011年 11月	東京大学博士号（理学） ニューヨーク州立大学ストーニーブルク校（米国）教授 東京大学理学部教授 東京大学総長 理化学研究所理事長 参議院議員 文部大臣 科学技術庁長官 財団法人日本科学技術振興財団会長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員会 共同議長 学校法人根津育英会武蔵学園学園長 ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム評 議員会会長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員会共同議長 公立大学法人静岡文化芸術大学理事長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会副議長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
カーティス・ カラン	2014年 11月1日 ～ 2017年 10月31日	1964年 1964年 1965年 1967年 1969年 1972年 1986年 1995年	プリンストン大学（米国）博士号（物理学） プリンストン大学 3Mポストドクトラルフェロー プリンストン大学物理学部講師 ハーバード大学物理学部助教授 プリンストン高等研究所長期メンバー プリンストン大学物理学部教授 プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学 ディスティンクイッシュトプロフェッサー

		2014年 11月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
リタ・ コルウェル	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1961年 1991年 1998年 2004年 2006年 2007年 2011年 11月	ワシントン大学（米国）博士号（海洋学） メリーランド大学（米国）生命工学研究所所長 全米科学財団 11 代理事長 国家科学技術会議（米国）共同議長 キャノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席副社長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別教授 キャノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会長 米国生物化学研究所所長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ジョナサン・ ドーファン (理事長/学長)	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1976年 1999年 2007年 2009年 2010年 2011年 11月	カリフォルニア大学アーバイン校（米国）博士号（素粒子物理学） スタンフォード大学スタンフォード線形加速器センター所長 スタンフォード大学エグゼクティブ・キャビネット・メンバー スタンフォード大学学長スペシャルアシスタント オックスフォード大学（英国） ジョン・アダムズ加速器科学研究所アドバイザー・ボード・メンバー 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（大学院大学学長予定者） 独立行政法人沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 沖縄科学技術大学院大学学長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長
ジェローム・ フリードマン	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1956年 1967年 1977年 1983年 1990年	シカゴ大学（米国）博士号（物理学） マサチューセッツ工科大学（米国）教授 米国大学研究協会 URA ボード委員 同 ボード副議長 マサチューセッツ工科大学物理学部長 ノーベル物理学賞

		1997年 1999年 2001年 2005年 2009年 2011年 11月	高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 経営協議会委員 米国物理学会会長 米国科学学会代表者評議会議長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ティム・ハント	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1968年 1990年 1991年 2001年 2005年 2006年 2009年 2011年 11月	ケンブリッジ大学 (英国) 博士号 (生化学) 英国癌研究基金(ICRF)クレアホール研究所主任研究者 ロンドン王立協会会員 ノーベル生理学・医学賞 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 ヨーロッパ分子生物学研究機構評議会議長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ジョージ・イワマ (副理事長/ プロボースト)	2014年 6月23日 ～ 2017年 10月31日	1986年 1996年 2000年 2003年 2004年 2006年 2007年 2009年 2014年 1月 2014年 6月	ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ) 博士号 (動物学) ブリティッシュコロンビア大学動物科学科教授 カナダ国立研究機構海洋生物科学研究所所長 カナダ国立研究機構栄養学・衛生研究所所長 アカディア大学理学部長 アカディア大学学部担当副学長代理 カールトン大学理学部長 ノーザンブリティッシュコロンビア大学学長兼副総長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園上席副学長 同 副理事長 沖縄科学技術大学院大学プロボースト
小谷 元子	2014年 11月1日 ～ 2017年 10月31日	1990年 1990年 1993年 1997年 1999年 2001年 2004年	東京都立大学理学研究科 博士号 (理学) 東邦大学理学部講師 マックスプランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所 (IHES) 客員教授 東北大学大学院理学研究科教授

		2008年	東北大学大学院理学研究科ディスティンディングイッシュト プロフェッサー
		2011年	東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教授
		2012年	東北大学原子分子材料科学高等研究機構長
		2014年	総合科学技術・イノベーション会議議員（非常勤）
		2014年 11月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ヴィジェイ ラガバン・クリシ ユナスワミ	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1983年	タタ基礎化学研究所（インド）博士号（分子生物学）
		1984年	カリフォルニア工科大学（米国）リサーチフェロー
		1986年	カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー
		1988年	タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター 入所
		1998年	タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長
		2005年	首相府（インド）科学諮問委員会委員
		2011年 11月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		2012年	ロンドン王立協会会員
		2013年	タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディスティンディングイッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局長
黒川 清	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1967年	東京大学大学院博士号（医学博士）
		1979年	カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（米国）医学部内 科教授
		1989年	東京大学医学部教授
		1993年	文部省科学官
		1996年	東海大学教授 同 医学部長
		1998年	東海大学総合医学研究所所長
		1999年	紫綬褒章
		2001年	内閣府沖縄大学院大学構想検討委員会委員
		2003年	日本学術会議会長
		2005年	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員
		2006年	政策研究大学院大学政策研究科教授
		2007年	内閣特別顧問（科学、技術、イノベーション担当）

		2009年 2011年 11月 2014年	沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 政策研究大学院大学政策研究科アカデミックフェロー 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 政策研究大学院大学客員教授
チェリー・マレイ	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1978年 2001年 2002年 2007年 2008年 2009年 2011年 11月	マサチューセッツ工科大学博士号（物理） ルーセントテクノロジー ベル研究所（米国）上級副社長（物理科学・ワイヤレス研究担当） 米国科学アカデミー評議員・理事 ローレンス・リバモア国立研究所 科学技術担当プリンシパル・アソシエイト・ディレクター 全米研究評議会工学・物理学部門議長 米国科学振興協会（AAAS）ボードメンバー 米国物理学会会長 ハーバード大学（米国）工学・応用科学研究科長 ハーバード大学工学・応用科学教授（John A. and Elizabeth S. Armstrong Professor） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
西田 厚聰	2014年 10月1日 ～ 2017年 9月30日	1970年 1975年 1984年 1992年 1995年 1997年 1998年 2000年 2003年 2005年 2009年 2014年 2014年 10月	東京大学法学部政治学研究科修士課程修了 東京芝浦電気入社 東芝ヨーロッパ上級副社長 東芝アメリカ情報システム社社長 東芝パソコン事業部長 東芝取締役 東芝常務 東芝上席常務 東芝取締役執行専務 東芝取締役代表執行役社長 東芝取締役会長 東芝相談役 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
尾身 幸次	2013年 10月1日 ～	1956年 1956年 1970年	一橋大学商学部卒業 通商産業省入省 外務省在ニューヨーク日本国総領事館領事

	2016年 9月30日	1976年 1979年 1981年 1983年 1995年 1997年 2001年 2006年 2013年 10月	通商産業省大阪通商産業局総務部長 科学技術庁長官官房総務課長 通商産業省中小企業庁指導部長 衆議院議員初当選（以来当選八回） 衆議院大蔵委員長 国務大臣経済企画庁長官 国務大臣沖縄及び北方対策・科学技術政策担当 特定非営利活動法人STSフォーラム理事長 財務大臣 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
尚 弘子	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1972年 1982年 1991年 1994年 1995年 1996年 1997年 2004年 2005年 2009年 2011年 11月	琉球大学教授 九州大学 博士号（農学） 沖縄県副知事 放送大学沖縄学習センター所長 内閣府沖縄振興開発審議会委員 NHK 経営委員会委員 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー理事 沖縄国際大学理事 NHK学園評議員 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 財団法人沖縄県文化振興会理事長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
トーステン・ ヴィーゼル	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1954年 1968年 1973年 1981年 1991年 2000年 2004年 2005年 2009年	カロリンスカ研究所（スウェーデン）医学士 ハーバード大学医学部（米国）神経生物学部教授 同 神経生物学部長 ノーベル生理学 ロックフェラー大学（米国）学長 ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム事務局長 イスラエル-パレスチナ・サイエンス機構設立メンバー 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員共同議長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員共同議長

		2011年 11月	旭日大綬章受章 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会議長
--	--	--------------	-----------------------------------

*再任・2期目

(3) 評議員

氏名	任期	所属
*安仁屋 洋子	2014年11月1日～ 2017年10月31日	琉球大学名誉教授
新川 智清	2013年5月9日～ 2017年10月31日	学校法人沖縄アミークス国際学園園長・校長
有馬 朗人	2011年11月1日～ 2017年10月31日	元財団法人日本科学技術振興財団会長 学校法人根津育英会武蔵学園学園長 公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
ロバート・バックマン	2014年11月1日～ 2017年10月31日	沖縄科学技術大学院大学 沖縄の自立的発展担当 首席副学長
ニール・コールダー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（広報担当）
モンテ・カセム	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	学校法人立命館総長特別補佐
ジョン・ディキソン	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（施設建設・管理担当）
土肥 義治	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	公益財団法人高輝度光科学研究センター理事長
ラルフ・アイヒラー	2014年11月1日～ 2017年10月31日	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
フレデリック・ ギルマン	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	カーネギー・メロン大学（米国）理学研究科長
平澤 冷	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	公益財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014年11月1日～ 2017年10月31日	スタンフォード大学化学学部長
梶山 千里	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	公立大学法人福岡女子大学学長・理事長 前九州大学総長
小林 誠	2011年11月1日～	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構

	2017年10月31日*	特別荣誉教授
久保 真季	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当）
松本 良	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知・財戦略機構特任教授
松島 恵美	2014年11月1日～ 2017年10月31日	沖縄科学技術大学院大学統括弁護士
アン・ミウラ・コー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	Floodgate 共同設立パートナー
長浜 善己	2015年2月19日～ 2017年10月31日	恩納村村長
ケン・ピーチ	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	オックスフォード大学量子治療癌研究所名誉教授
ヘルマン・シュンク	2014年11月1日～ 2017年10月31日	前ドイツ連邦教育科学研究技術省基礎研究局長
瀬名波 榮喜	2014年11月1日～ 2017年10月31日	名桜大学名誉学長 大学コンソーシアム沖縄代表理事
白井 克彦	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	放送大学学園理事長 前早稲田大学総長 前沖縄振興審議会会長
諸喜田 茂充	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	公益法人沖縄科学技術振興センター評議員
尚 弘子	2011年11月1日～ 2017年10月31日	公益法人沖縄科学技術振興センター評議員 沖縄国際大学理事
ウルフ・ スコグラント	2012年10月4日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学 前教授会議長
菅原 寛孝	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学 学長特別顧問&ディステイングイッシュトプロフェッサー
デイヴィッド・ スウィンバンク	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	ネイチャーパブリッシンググループ マネージング ディレクター
高安 藤	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	元在沖米国総領事館広報・文化担当補佐官
田中 信明	2014年11月1日～ 2017年10月31日	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
ゲイル・トリップ	2013年5月9日～ 2016年5月8日	沖縄科学技術大学院大学 元教授会副議長

浦崎 唯昭	2015年2月19日～ 2017年10月31日	沖縄県副知事
アルブレヒト・ ワグナー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	ドイツ電子シンクロトロン名誉所長
ジェフ・ ウィッケンス	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学科学技術研究科長
山本 雅	2014年11月1日～ 2017年10月31日	沖縄科学技術大学院大学 教授会議長
山崎 秀雄	2014年11月1日～ 2017年10月31日	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系理学部長
フィリップ・ヨー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	シンガポール中小企業育成標準政策庁 (SPRING) 長官

*理事兼任者

*再任・2期目

II. 業務実績報告

別紙「平成26年度業務実績報告」のとおり。

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
	<p>第1章 教育研究に関する事項 1.1 博士課程 1 平成25年のフィードバックを受け、第3期学生の円滑な受入れと、計画通りの研究トレーニングの開始に万全を期し、取組の更なる改善を図ります。</p>	<p>(授業科目) ・引き続き、新しく採用された教員が担当する授業を含め、カリキュラムを拡充するとともに、平成26年6月に追加の授業に関する申請書を文部科学省に提出します。 ・引き続き、博士論文研究開始前のトレーニングやラボ・ローテーション、個々の学生への指導教員(アカデミックメンター)の配置等を含め、個々の学生のニーズに応じたプログラムを提供します。 ・引き続き、グループ活動やプレゼンテーションの技術等に重点を置いたトレーニング等を内容とする「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を提供します。 ・博士論文研究の進捗状況の審査を行います。 ・入学予定の学生(特に3月に日本の大学を卒業する学生)に対し提供する、研究活動で必要となる語学力等を習得する準備プログラムの充実を図ります。</p> <p>(教育環境) ・引き続き、学生の研修、単位互換、ティーチング・アシスタント等の交流を目的に連携協定を締結する等、他大学との協力関係を強化します。 ・履修状況、成績、単位等のデータを管理する学生記録システムを引き続き運用し、拡充を図ります。 ・実験授業、教材、講義室や指導室、AV機器、コンピューター・ラボ等を管理するための仕組みや、教員と事務部門との連絡窓口を強化します。</p> <p>(学生支援) ・入学後の学生に対するオリエンテーション・プログラムを改良します。 ・引き続き、本学の博士課程に入学する学生に対し、本学が優れた学生の獲得を巡って競合する世界水準の大学と同程度の生活水準において、研究活動等に専念できるような環境を提供します。 ・学生が巻き込まれた事故の発生や対応、結果等を記録する事故報告の仕組みを作ります。 ・引き続き、外部の奨学金等の情報を収集し、学生に対し情報を提供できるよう努めます。 ・プロフェッショナル・ディベロップメント／キャリアアドバイザーを配置し、学生の卒業後のキャリア形成を支援するための方策を実施します。これらの支援には、他大学等でのティーチング・アシスタントの機会の付与、国内外の大学・研究機関のリーダー層とのネットワークの構築の促進、ポスドク等のポジションの就職情報の積極的な提供、沖縄のベンチャー企業におけるインターンなど起業家活動のサポート等が含まれる予定です。 ・引き続きリソースセンターは学生とその家族に対し直接的な支援を向上させます。 ・身体的及び精神的な健康に関する学生のニーズに応じ、4月にはクリニックとカウンセリングルームが設置されます。外国人と日本人の学生及び職員の間方に対応するため、バイリンガルなスタッフを配置します。また、ストレスマネジメントやストレスの前兆に関する一連のセミナーを開発・提供します。 ・スポーツやレクリエーションの機会を増加させることにより、環境を改善します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績優秀な学生の博士課程への応募者数(日本人及び外国人) ・合格者数(日本人及び外国人) ・入学者の水準(出身大学等) ・外部の奨学金等を獲得した学生数の増加 	<p>(授業科目) ・6月から、文科省から許可を受けた2つの新しいコースがカリキュラムに加わりました。また、同時期に教員2名の新規雇用が同省により承認され、2014年12月には更に2つのコースの導入および2名の教員の雇用を新規で文科省の承認を得ました。 ・2014年9月には、世界中から集まった27名の学生が入学しました。全学生は、割り当てられたOIST指導教員のもと、ラボ・ローテーションやクラスの受講を開始しました。 ・職業上の科学的技能習得を目的としたプロフェッショナル・ディベロップメント・コースを引き続き提供しました。当期コースは、主にチーム活動を中心とした内容となっています。 ・2014年度には、第一期生(2012年度入学)による論文研究の進捗確認を開始しました。審査委員の任命や、カリキュラム審査委員会による審査業務の監督等の体制が整備されました。 ・ギャップターム中におこなわれる語学研修の内容をさらに充実させ、4名の学生(うち3名が日本、1名が中国の出身)がイギリスのオックスフォード大学で英語のクラスを受講、ヨーロッパ出身の学生1名が東京で日本語のクラスを受講しました。</p> <p>(教育環境) ・世界各国の大学と協定を締結するための取組を引き続きおこない、現在はクワズルー大学、スタンフォード大学、テキサス大学オースティン校、ハワイ大学エネルギー研究所との合意形成が進められています。国内の連携に関しては、既にOISTと琉球大学、沖縄工業高等専門学校との間で、OISTの学生によるティーチングの機会提供や、語学学習、その他の交流プログラムが始まっています。 ・学生の成績記録システムの大幅な改善がおこなわれ、審査委員や審査そのものに関わる機能が加わりました。また、教員や学生、保険センターや図書館のユーザーを対象にした新たなインターフェースが加わりました。 ・ティーチング・リソース・コーディネーターの採用により、とりわけ研究室に関する支援において、ティーチング・サービスが大幅に向上しました。教室に設置されているAV(音響・映像)システムの改善や、高性能なサイバースペースおよびテレビ会議システムの導入により、必要に応じて遠隔教育が可能になりました。</p> <p>(学生支援) ・沖縄での生活に関する学生サポート・インフォメーション・パッケージと学生トラベル・ハンドブックを、新入生向けに更新するとともに、税理士による日本の課税制度や国民健康保険、国民年金に関するセミナーを開催しました。また、沖縄県警察から講師を招き、防災・防犯・交通安全に関するセミナーを学生向けに開催しました。 ・学生支援セクションは、学生が学業に集中できるように、年末調整や所得税確定申告、在留期間更新許可申請、出生届等の書類作成・管理業務を、各種期限に合わせて代行しました。奨学金の応募については、申請書類の作成や翻訳など、必要な支援を提供しました。 ・学生が巻き込まれた事故の報告手順を確立しました。内容は以下の通りです。 1. OISTヘルプラインまたは学生支援セクションが、事故について学生支援セクションのアシスタント・マネージャー、および(健康に関わる問題の場合)保健センターに電話連絡する。 2. 学生支援セクションもしくは(健康に関わる問題の場合)保健センターの職員が事故に遭った学生に対応し、事故とその結果について詳細を報告する。 3. 学生支援セクションのアシスタント・マネージャーが研究科長に報告し、事故の記録をファイルに保存する。 4. 必要に応じて、学生支援セクションのアシスタント・マネージャーが研究科長に補足報告を行う。 ・引き続き、外部の奨学金やフェロシッププログラムに関する情報を収集し学生に対し提供しました。学内で周知し学生の応募を奨励したほか、出願の際には適宜サポートを行いました。 ・プロフェッショナル・ディベロップメント／キャリアアドバイザーが採用され、平成27年2月1日付で着任しました。 ・リソースセンターが2013年10月に開設し、OISTコミュニティの支援を開始しました。2014年度に同センターに足を運んだ人数の合計は1099名(OISTメンバー/訪問者592名、OISTメンバーの家族507名)でした。相談内容で上位を占めたのが、レクリエーション関連、イベント情報、翻訳・通訳サービス、事務手続、でした。2014年度のリソースセンターによる活動については、コミュニティメンバーの関係強化に役立つグループでの外出、文化的ワークショップ、および週一回の語学交流を開催しました。また、OISTおよび沖縄の暮らしに適應できるようにするために、OIST職員の配偶者を対象とした「ファミリー・オリエンテーション」プログラムを開始しました。 ・昨年9月に英語を母国語とする臨床心理士が2名加わり、ヴィレッジセンターにてカウンセリングサービスを開始しました。11月には、予約手順やカウンセリングサービスに関する規定および方針を策定し、ウェブサイトを開設しました。これに加え、非常勤の日本人カウンセラーが引き続きヘルスセンターで勤務し、最初の半年で39回のセッションを持ちました。ヘルスセンターにおいて2014年10月までに対応したコンサルテーションの数は、クライアント単位の計算で1254件でした。その中には、精神的支援を必要としている、あるいは精神状態を理由に病気休暇中のクライアントも含まれています。沖縄で子どもを持つ学生や職員の数が増えていることを鑑み、ヘルスセンターでは、恩納村役場との共同で子育てに関するオリエンテーションを6月に開催しました。</p>	<p>A</p>

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価																																
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄美ら海水族館や今帰仁城跡、ナゴパインアップルパーク、首里城、国際通りなどへの見学をおこないました。また、県内の留学生による交流会にも参加しました。 																																	
2	<p>引き続き、科学技術分野における世界最優秀の学生を選抜し、本学の博士課程に受け入れます。学生の少なくとも半数は外国人とします。</p>	<p>・ これまでの学生募集・選抜の状況について適切な検証を行い、その結果を最近の取組に反映させ、計画的かつ効果的な募集・選抜を実施します。</p> <p>・ 平成27年9月に本学の博士課程(科学技術専攻、科学技術研究科)に入学を予定する第4期学生として、科学技術分野における世界最優秀の学生の獲得を目指し、以下のとおり、国際的な募集・獲得活動を展開します。</p> <p>- 入学定員：約20人 - 募集期間：平成26年6月～8月、平成27年1月～3月 - 主な募集活動：</p> <p>> 募集ツールとして、引き続き、研究科のウェブサイトを整備します。更に、正確で分かりやすい学生募集パンフレットを発行します。</p> <p>> 国内の主要都市でOISTカフェを開催し、本学の募集情報や英語講習を提供します。</p> <p>> 日本の学部生を対象とした英語でのサイエンス・ビデオ・コンテストを開催し、勝者には本学での英語でのプレゼンテーション・トレーニングを授与します。</p> <p>> ターゲットとなる国に本学の教員を派遣し、本学に関するセミナーを開催します。</p> <p>> 物理や神経科学などの分野からの募集のために、ターゲットを絞ったパンフレットを発行します。</p> <p>※本学の教育環境の特色を学生に紹介する取組において、引き続き特に日本人学生に留意して募集活動を行います。いくつかの国内大学における説明会や、平成25年度に実施したビデオコンテストのようなイベントを開催するなど、ターゲットを絞った取組を通じ、日本人学生の参加の機会を増やすよう努めます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年9月の入学者数：日本人学生6名(そのうち5名が国内大学の出身)を含む合計27名の学生を受け入れました。27名中10名(37%)が女性です。 <p>添付資料#1.1-1_博士課程学生情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的な募集・獲得活動を展開し、平成27年9月から入学する第4期学生として、世界最優秀の学生を獲得しました。 <p>1名の学生が日本学術振興会特別研究員(DC-1)に採用されました。</p> <p>主な募集活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッションサイト(学生募集ウェブサイト)を新たに作成し立ち上げました。また、全く新しいデザインのパンフレットを日英両言語で作成し印刷しました。 ・ OIST Café およびmini OIST Caféを東京や神戸市をはじめとする各地で開催しました。 ・ 「サイエンスが導く私の未来とは？」をテーマに英語による審査が10月から1月までおこなわれ、入選者が「OISTサイエンスチャレンジ2015」と題するワークショップに参加しました。ワークショップの参加者は、英語のトレーニングを受けて最終発表を英語でおこなったほか、ラボの活動に参加し、OISTの教員や研究員による講演を聴講、またOISTの学生と交流しました。 ・ OISTの教員は、ジョゼフ・フリエ大学(フランス)にてOISTを紹介しました(シーレ・ニコーマック准教授、山本雅教授、ファデル・サマテ准教授)。 <p>OISTの教員は、海外へ出張する際は、大学院大学のパンフレットや資料を活用して、本学・博士課程についての認知度向上を高めるように努めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物理学、神経科学、分子細胞学、生態・進化学等の分野別に日英両言語で紹介資料を作成しました。 <p>* OISTの教員は、東京で開催されたOIST Café で講演をおこなったほか、OISTサイエンスチャレンジにおいて講演し、ラボ活動を担当しました。</p>	A																																
3	<p>1.2 研究活動に関する事項</p> <p>引き続き、世界最高水準の学際的な研究を推進します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の研究設備・機器の導入と活用、厳格な研究評価制度等により、優秀な教員を支援するとともに、その高いモチベーションを維持していきます。</p> <p>更に、政府による「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき、多様性に富んだ海洋環境に近接している等の強みを活かし、本学は知的・産業クラスターの推進に関連した研究を加速させます。</p>	<p>(学際的研究の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、共用施設や優れた技術スタッフの活用等により、分野を超えた交流研究協力を推進します。引き続き、物理や海洋科学等の分野における研究支援活動のために、経験のある技術スタッフの採用を行います。(平成26年2月時点の研究ユニットの一覧については、別紙1-1を参照。また、主な研究内容について別紙1-2を参照。) ・ 引き続き、研究や社会活動を通じ、研究者間のフォーマル・インフォーマルな交流や連携の機会を拡げます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究者の数(教員、ポスドク、技術者及び学生) ・ 研究成果の発表論文数(インパクトファクター別) ・ 研究成果についての記者公表及び記者会見数 ・ 研究に関する受賞数 ・ 研究評価を実施した研究ユニット数 	<p>(学際的研究の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OISTにおけるあらゆる研究活動において、リサーチサポートディビジョンによるサポートを向上できるよう、リサーチサポートディビジョンの組織構造及びその機能について積極的に検証を行いました。 <p>リトリート、ディスカッショングループ、プランニングを通じて、リサーチサポートディビジョンの組織再構成を行いました。主なポイントは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数のセクションで中心部分を再点検し、名称を適切に変更しました。 2. 「エンジニアリング・サポートセクション」「イメージング・機器分析セクション」を新設しました。 3. 各セクションにおける教員の参加を確保することにより、各セクションで科学的側面からのアドバイスとリーダーシップを確保できるようにしました。 4. 新たな研究担当ディーンに着任に合わせた措置として、リサーチサポートディビジョンのスペースの刷新に向けた計画を開始しました。 5. 研究担当ディーンが副プロボースト(研究担当)に代わり、専任でリサーチサポートディビジョンのリーダーとして、OISTにおける全ての研究をサポートすることになりました。 6. 各セクションリーダーに対して、スタンダードやネットワークという視点についてグローバル思考を奨励しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き毎週地域で木曜日の午後にティータイムを開催しました。様々なワークショップも引き続き開催し、様々なアイデアや人々の交流を促進する環境を提供しました。 <p>学内のウェブサイトTIDAを通じて、引き続き研究員と職員同士の交流を深める機会を提供しました。また、毎週地域で開催されるイベントの情報も掲載しました。社会活動や交流の機会を提供するリソースセンターにより学内における情報提供サービスが強化されています。</p> <table border="1" data-bbox="1774 1690 2288 1900"> <caption>研究者の数 (人数)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年3月31日 (平成25年度末)</th> <th>平成27年3月31日 (平成26年度末)</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>47 (32)</td> <td>50 (34)</td> <td>3 (2)</td> </tr> <tr> <td>サイエンス・テクノロジー・プロジェクト</td> <td></td> <td>11 (9)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リサーチスペシャリスト</td> <td>グループリーダー 22 (8)</td> <td>2 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフサイエンティスト</td> <td>研究員 156 (92)</td> <td>81 (33)</td> <td>34 (29)</td> </tr> <tr> <td>ポスドク/オラルスカラー</td> <td></td> <td>118 (85)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術員</td> <td>71 (29)</td> <td>79 (33)</td> <td>8 (4)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>296 (161)</td> <td>341 (196)</td> <td>45 (35)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※() うち外国人</p>		平成26年3月31日 (平成25年度末)	平成27年3月31日 (平成26年度末)	増減	教員	47 (32)	50 (34)	3 (2)	サイエンス・テクノロジー・プロジェクト		11 (9)		リサーチスペシャリスト	グループリーダー 22 (8)	2 (2)		スタッフサイエンティスト	研究員 156 (92)	81 (33)	34 (29)	ポスドク/オラルスカラー		118 (85)		技術員	71 (29)	79 (33)	8 (4)	合計	296 (161)	341 (196)	45 (35)	A
	平成26年3月31日 (平成25年度末)	平成27年3月31日 (平成26年度末)	増減																																		
教員	47 (32)	50 (34)	3 (2)																																		
サイエンス・テクノロジー・プロジェクト		11 (9)																																			
リサーチスペシャリスト	グループリーダー 22 (8)	2 (2)																																			
スタッフサイエンティスト	研究員 156 (92)	81 (33)	34 (29)																																		
ポスドク/オラルスカラー		118 (85)																																			
技術員	71 (29)	79 (33)	8 (4)																																		
合計	296 (161)	341 (196)	45 (35)																																		

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		<p>(知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究) ・ 研究を総括するプロボーストの下、研究計画に基づき、適切な運営を行いながら、知的・産業クラスターに関連した下記の研究を推進するとともに、知的・産業クラスター形成への更なる貢献に向け、事業開発等の関連する学内部局と連携します。(1.5も参照)</p> <p>-海洋科学 世界有数の生物多様性を誇るサンゴ礁、マングローブなど、沖縄の優位性である海洋環境の長期的な活用、保全に向け、新たに整備する「臨海実験施設」、第3研究棟内の「海洋科学研究センター」を含む本学の施設等を一体的に活用します。海洋環境観測・モニタリングの強化と、近海海洋生物の生態・有用性把握を目標として、学問的成果とともに、海洋関連産業、製薬業、バイオ産業等への移転が期待できる技術移転を進めます。また、世界の優秀な海洋科学者と共同研究を行い、「OISTと沖縄の海」における研究成果を世界に発信します。引き続き、平成25年に策定された政府の「海洋基本計画」に基づきながら、ウッズホール海洋研究所やウッズホール海洋生物学研究所、琉球大学、海上保安庁、美ら海水族館等とのネットワークや協働を通して、沿岸及び海底の海洋循環、海洋流体力学、海洋生物ゲノミクス、海洋生物学、生物多様性、生体イメージング、インフォマティクス及び計算生物学等の分野の研究活動を推進します。</p>		<p>(知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究) ・ 海洋、環境、エネルギー、先端医療のR&Dクラスター運営委員会が組織されました。</p> <p>海洋科学 [御手洗ユニット] 1. OISTの観測システムを利用した最初のパイロットプロジェクトは成功を収めました。観測場所における年間のプランクトンタイムシリーズは記録されました。私たちは、米国ウッズホール海洋研究所(WHOI)と協力し、台風(あるいは将来的な地球温暖化)により、沖縄のサンゴ礁に群生するプランクトンにどのような影響するかを明らかにし、その内容を、『Journal of Oceanography』に発表しました。このモニタリングの拡充計画については現在、スタンフォード、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の研究者が検討を行っており、彼らはOISTに設立予定の海洋科学技術センターを頻りに訪れることになると予想されます。</p> <p>2. 観測システムを改善するための技術的側面は、海中ロボットを専門に扱う日本企業が担当しています。より柔軟な対応が可能となり、大幅に改善されたシステムが、平成27年度末までに利用できるようになる予定です。衛星技術で事業展開しているカナダ企業との協議も進展中です。このような活動は、OISTと沖縄における海洋関連技術の蓄積に貢献します。</p> <p>3. 海洋ワークショップ活動は継続中です。ブレーンストーミング形式のワークショップが、トップクラスの海洋科学者6名を招き、2014年10月28日から30日にかけて行われました。この分野における最近の動向を踏まえ、OISTにおける海洋科学の今後の方向性について話し合いが行われました。OISTとNSF(米国国立科学財団)の資金援助により2013年4月に開催された前回のワークショップ後に、私たちは「Marine and Freshwater Research」に論文を発表したほか、別の論文についても現在レビューが行われています。ワークショップ参加者と共に、過去数十年間における造礁サンゴのグローバルトレンドについて明らかにしました。さらに別のワークショップでは、東南アジアの群生連鎖についてまとめる準備が進められています(2016年3月21日-25日)。</p> <p>4. 海上保安庁との契約が2015年3月21日に終了します。OISTは、海上保安庁から提供された詳細な等深線データを利用した、高解像度の海洋循環モデル(10の分潮を含む空間分解能200メートル)を海上保安庁に提供しました。これにより沖縄沿岸における救命救助活動の改善が期待されます。このモデルによる予測については、OISTの海上浮遊ブイを使い、正確性が証明されました(論文作成中)。この契約は、すべて滞りなく進めば、近く更新されることになっています。</p> <p>5. JAMSTEC(海洋研究開発機構)の研究者と共同で、沖縄トラフにある熱水噴出孔周辺の深海水循環パターンを明らかにしました(論文作成中)。この成功により、JAMSTECの「研究開発センター」との4年契約が実現しました。これにより、OISTは、JAMSTECの調査船や遠隔操作無人探査機を利用して、沖縄トラフの深海熱水噴出孔にアクセスできるようになります。</p> <p>6. OIST初のR&Dクラスタープロジェクトによる研究観測隊派遣が2015年3月下旬に実施されました。私たちは、499トンの調査船を使って、沖縄の南東沿岸、沖縄トラフの中心、慶良間海裂の東端における、上部1000メートルの水柱を中心として、プランクトンの多様性、分布状況、群生構造、メソスケール不均衡について研究を行ないます。</p> <p>7. 地元の方々とも充実した協働・協力関係を展開することができました。たとえば、沖縄県恩納村の地元の漁師の方々の協力を得て、「Marine Biology」に論文を発表しました。この論文は、沖縄県でしばしば大量発生する、サンゴを捕食するオニヒトデの群生動態を分析したものです。これは、この種の調査ではもっとも長期にわたるものの一つとなっており、24年を超えるデータが使われています。このほかにも、たとえば、琉球大学工学部の藤井智史教授と協力して、沖縄のサンゴ礁に特化して設計された、高周波海洋レーダーのプロトタイプを開発しました。</p> <p>[佐藤ユニット] 1. サンゴの個別のコロニーを、特定のゲノムマーカーで遺伝子同定することは、将来的なサンゴ生物学研究やサンゴ礁の保存においても不可欠なものです。そのような方法はこれまでに開発されたことはありませんでした。また私たちのユニットは、2011年に解読に成功した、「コクビミドリイシ」遺伝子を利用して、全「ミドリイシ」種を個別に識別できる14全てのマイクロサテライトマーカーの特定に成功しました。この新たな方法は、A. teniunsの群生を、沖縄県による移植による保存のために、適切に選択する際に適用され、成功を収めました。</p> <p>2. セルロースは、地球上でもっとも豊富に存在する生体高分子です。従って、セルロースを将来的にどのように活用していくかが、産業界において最も重要な課題の一つとなっています。しかしながらセルロース生合成に関係する分子構造は、その原形質膜内の構造が複雑なため、まだ明らかにされていません。被囊類は、セルロースを自ら合成できる唯一の動物類です。カタユウレイボヤは、セルロースシンターゼ遺伝子の単一コピーを有していますが、この機能は、その生合成に不可欠のものとなっています。私たちは、この単純なモデルを利用して、酵母システムにおいてセルロース生合成を人工的に誘発させる方法を確立しました。これにより将来的に、この分子構造に対する理解が高まることが期待されます。</p>	

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		<p>-エネルギー 電力の安定供給強化は、離島を含む沖縄に産業誘致を進める上で重要なポイントです。風力や太陽光より安定性を期待できる海流発電技術を沖縄近海の黒潮を活用して開発します。また、発電ロスが少ない新しい太陽電池材料の開発や、分散電力マネジメントを行う知的電力システムの開発より、沖縄に適合した次世代エネルギー技術の原理試作を進め、事業化につながる成果を得ていきます。</p> <p>-環境及びバイオ 世界的な課題である生物多様性保全には、広範囲での継続的で緻密なサンプル収集と迅速な解析を進める技術開発が不可欠です。本学では、サンゴ礁など近海の水質にも大きな影響を与える陸地の生物多様性の観測・解析技術に着目し、マングローブ群生地を含む多様な観測地点をカバーするフィールドリサーチをより自動的に進めるシステムを整備してサンプリングを進めるとともに、X線CTなどの画像の自動認識ソフトウェアにより、採取した大量のサンプルを効率よく数値化、可視化する技術開発を進めます。</p>		<p>エネルギー [新竹ユニット] エネルギー研究分野における2014年の業績として以下のことがあげられます。 「海流発電開発プログラム」の一環として、海流発電システムに関して詳細な工学的研究を行ない、2種類のエアフォイル(NACA0030, NACA0015)についてエネルギー効率試験を行い、性能を確認しました。さらに海流エネルギー変換装置の適応角度ブレードの新しいコンセプトに関する試験を行いました。 また、このようなハードウェア面におけるR&Dの研究と並行して、浮遊ブイを沖縄本島近海の深度100メートルの海底から深さ30メートルの位置に係留しました。 潮流のモニタリングはこれから本格的に開始されますが、これを基に、潮流により利用できる電力が推計されることとなります。</p> <p>[北野ユニット] 1. ソフトウェア開発 私たちは、コアOESエミュレータを開発しました。これは、一連のハードウェア(太陽光発電システム、リチウムイオンバッテリー、DCグリッド)とその挙動をシミュレートするソフトウェアです。 この分散「オープンエネルギーシステムハードウェア」のエミュレータとコントローラには、交換規則を定義付けるための、柔軟性の高いユーザーインターフェースが搭載されています。 さらにOISTのサーバー室のデータ収集サーバーのインフラ整備を行いました。これには、データベース、エンドユーザーインターフェース、マネジャーインターフェースが対象となっています。 これらを合わせて、OESに対する計算処理研究の初期ベースが構築され、様々な規模・構成の多様な挙動に対して、調査が行えるようになります。</p> <p>2. ハードウェア設計 OESと連動して大型システムの一部となるように設計された、「電気自動車」のための一連の設計作業を開始しました。 これには以下の各項が含まれます。 (1) 電気自動車メーカーとの交換可能バッテリーパックの設計。 (2) 交換可能バッテリー充電ステーションの設計。 (3) 2015年度に装置を設置するためのクレイファクトリーのインフラの設計。このような一連の作業を通じて、私たちは、OESを拡張エネルギー伝達アーキテクチャーとして拡充させる可能性について研究を進められるようになります。</p> <p>3. 協力関係 協力関係構築に向けた様々な協議を行った結果、一連の合意(覚書や非開示契約)や、新たなイニチアチブが実現されました。 (1) ハワイ大学ハワイ自然エネルギー研究所との協力関係について協議を進め、上記のR&Dアウトプットが、ハワイ側の予算でココナッツ・アイランドに設置される予定です(覚書作成)。 (2) 交換可能バッテリーシステムに関して電気自動車メーカーとの協働を開始しました(非開示契約)。 (3) 焼却炉タイプの発電設備の設置に向けて、沖縄の地元企業と2015年度における協力事業について協議を開始しました(非開示契約)。 (4) 持続可能な生活設計を研究対象として、住宅会社との2015年度共同プロジェクトの協議を開始しました(非開示契約)。</p> <p>契約締結状況としては現在ハワイ大学ハワイ自然エネルギー研究所と北野ユニットで非開示契約を予定しており、現在その準備段階にあります。さらにハワイ大学とOISTとの覚書も現在締結へ向け準備中です。</p> <p>住宅会社と覚書を締結しました。さらに電気自動車メーカー及び沖縄の企業とも非開示契約を締結しました。</p> <p>環境及びバイオ 高スループットの「エコロジカル遺伝子パイプライン」の立上げに成功しました。これにより、大量の環境サンプルのDNA塩基配列決定が可能となります。このプロジェクトには、プロトコル開発、技術員の雇用、液体取扱い用ロボットの調達、バイオインフォマティクスパイプラインの開発が含まれていました。またパイロットプロジェクトのシーケンス決定も行われました。 1) 環境関連サンプルについて、サンプルマネジメント、データベース、サンプル作成プロトコルの開発を行いました。 2) GISスペシャリストを採用し、沖縄の陸環境における総合的なGISレイヤーセットを作成させ、沖縄のマングローブ環境の評価等を含むGISベースのプロジェクトを開始しました。 3) フィールドネットワークをサポートする、公的機関と民間企業が連携するコンソーシアムの開発に取り掛かりました。フィールドネットワークについては、過去のプロジェクト、センサ技術、将来的な展開を検討しました。</p>	

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		<p>ー先端医療 国家プロジェクトである粒子線治療技術の開発では、装置・施設の小型化が重要課題の1つです。本学では、その加速器技術及びイメージング技術の専門家を中心に、琉球大学、放射線医学総合研究所、筑波大学、高エネルギー加速器研究機構、スタンフォード大学との共同研究(粒子線を活用したがん治療技術・装置の技術開発)を立ち上げ、国家プロジェクトへの貢献も果たすように取組を進めます。本学は、優位性のある加速器開発、イメージング技術開発等を担う予定です。</p> <p>(研究活動の支援) ・物理・海洋を含むリサーチサポートディビジョン全体の共用・共有機器をサポートする専門の技術スタッフの採用及びトレーニングを継続します。 ・研究機器データベースと予約システムを引き続き整備拡充して、研究資源の管理体制の整備と利用状況の確認を含む効率的な運用を促進します。 ・沖縄海洋環境観測システムの運用及び改良を行います。当システムを使用する研究者を対象としたトレーニングを実施します。 ・第3研究棟に設置する新たな共用施設を企画します。 ・オープン・テクノロジー・センターを通じ、内部の優先利用を確保しつつ、他大学や民間企業等による本学の研究施設の利用を促進します。 ・電子顕微鏡、質量分析計などの研究機器の運用を検討し、新規の機器・サービスの導入を計画するアドバイザー・コミッティを設置します。 ・新規のHPC用クラスター及びDNAシーケンサーを導入します。これらの施設は知的・産業クラスター形成に向けた関連研究をサポートします。</p> <p>(研究内容・成果の発信・公表) ・引き続き、厳格な研究評価の実施等を通じて、インパクトファクター(平均引用度)の高い国際的な学術誌への論文投稿や国際学会への参加を奨励します。 ・引き続き、研究内容や研究成果について、ウェブサイトにおける発表、記者公表、記者会見、OIST便り(電子メールニュースレター)、パンフレット、テレビ番組やOISTソーシャルメディア等を活用して、国内外への分かりやすい情報発信に努めます。 - 本学のウェブサイトを最大限活用するとともに、引き続きコンテンツの大部分を日英両言語で提供しよう努めます。 - 県内外のプレスによる視察の機会や説明会等を設けるなど積極的なメディア戦略を実施します。 - 地域・国内・海外メディアに対して電子メールや国内の記者クラブを介して本学の研究成果を発信します。 - 拡大しているソーシャルメディアをコミュニケーションの場として活用します。 ・より多くの他機関とのミーティングを通じ、技術支援やビデオ会議設備の改善を図ります。</p>		<p>先端医療 この全国レベルのR&Dプロジェクトの初年度において、私たちは次のような成果を挙げました。 (1)中期プロジェクトの計画立案に取り掛かりました。(2)BNCTシステムと各コンポーネントのスペックを設計しました。 (3)画像技術開発を推進するために必要となる機材/機器の選定を行いました。 (4)2名の客員教授、物理学者(それぞれBNCTと画像技術を専門とする)を任命しました。 (5)ポスドク研究者採用の準備を進めました。 (6)一連のセミナーを開催し、BNCT、画像処理、薬物投与、CSC、物理学全般の各分野のスペシャリストと協議を行いました。</p> <p>(研究活動の支援) ・2014年度に追加採用された専門技師スタッフは次の通りです。動物MRIに1名、質量分析法に1名、海洋科学に1名、電子顕微鏡法に1名、DNA塩基配列決定に1名、ナノファブリケーションに1名。 安全スタッフが、各種専門家の資格を取得し、研究を受講しました。例えば、バイオセーフティ、組み換えDNA、IATAの危険物規則書対応ディプロマ、放射線、高圧ガス、労働安全衛生、緊急対応等です。 サイエントフィック・コンピューティングセクションでは新規に2名のスタッフを採用しました。これらのスタッフは、OISTの高性能コンピュータ施設の利用に関して、研究者に支援を提供し教育活動を行っています。 ・新規に購入した研究機器はそのほとんどがデータベースに登録されています。オペレーションのロギング機能の開発が進められており、現在試験中です。このデータベースは、一日に40人超のユーザーから150回以上アクセスされています。詳細スペック等の内容改善や、資産データベースや購入システムとの連携を強化するには、専任のスタッフ増強が不可欠です。 ・2014年度は、OCOOSのメンテナンスに関して、現場におけるメンテナンスのための潜水(10日毎)、キャリブレーションや修理、関連当事者や地元機関から出された許可証の更新等を行いました。また現地サポートや管理上のサポートを含むサービスを、既存ユーザーに提供するとともに、潜在的なシステムユーザーからも要望を受け付けました。 ・新規採用された教員や第1研究棟や第2研究棟から移動となる教員がリーダーとなる研究ユニットのために、第3研究棟では、組織培養ルームや化学ラボを含む新たな共用研究スペースが計画されました。 ・OISTと沖縄プロテントモグラフィ(OPT)(OIST初のベンチャー)による、「研究施設外部利用契約」が締結されました。この契約を締結するために、OTCは以下のように「基本方針・ルール・手続き」(PRP)の条項を改訂しました。 PRP 4.9 研究設備及びサービスの学外への提供 PRP 21.3.7 内部コスト管理委員会 ・本件に関する本学の方針は、CRAC(コモンリソース諮問委員会)閉鎖を受けて変更されました。諮問委員会を複数設置するのではなく、リサーチサポートディビジョン(RSD)のセクションリーダーが、教員「サイエンス・アドバイザー」と協力し、ユーザーのニーズや意見を調整することにより、研究資源の運用や編成を改善していくという新たな仕組みが構築されつつあります。(2014年度には、電子顕微鏡4基、質量分析計1基が購入され、電子顕微鏡と質量分析計それぞれにつき1名、計2名の技師を追加雇用しました。) ・新規の高性能計算機(HPC)の入札・購入が行われ、現在委託プロセスが行われているところです。OISTの高度化するHPCニーズに対応するには、既存の演算処理能力の数倍、保存能力は3倍のシステムが新たに必要となっています。この新しいシステムは、2015年3月中旬から利用可能となりました。</p> <p>(研究内容・成果の発信・公表) ・(Calendar year 2013 or FY13 numbers in []) 年間を通して、OISTの教員及び研究員は、高い評価を得ている学術紙に学術論文を掲載してまいりました。前会計年度中に発表された論文は292[176]に上りました。 教員メンバー及び研究員による学会、ワークショップ、セミナーでの論文発表は657[553]に至り、1[2]冊の書籍出版がありました。詳細については別添資料に掲載されています。 12000誌以上の最も影響力のある学術雑誌を記録しているトムソン・ロイター社のWeb of Science Core Collectionでの掲載は、2014年度は177[136]に上り、そのうち32[33]は高い影響力のある学術雑誌における掲載でした。(IF>5) 添付資料#1.2-1_平成26年度 OIST論文・発表数</p> <p>・平成26年度は、OIST研究成果に関する国内外への情報発信の一環として、日英両言語で46のウェブ記事を本学ウェブサイトに掲載、7件のプレスリリースを発表、そして4つの記者会見を東京と沖縄において開催しました。また、報道機関によるOIST訪問を35件受けたほか、毎月電子版ニュースレターを日英で発行するとともに、日英でパンフレットを発行しました。これらの活動はOISTソーシャルメディアで情報発信するとともに、内部サイトにも掲載することで、学内のコミュニティと情報共有しました。また、テレビ番組プロデューサーやディレクターにOISTの研究をアピールするため、東京で開催の2つの発表会にメディアセクションリーダーが参加しました。 ・オーディオビジュアルスペシャリスト1名を雇用し、テレビ会議システム、プロジェクター、マイクなどの機器を整備するとともにSkypeやWebEXを含むテレビ会議を用いた他機関との会議やミーティングの開催を65回サポートしました。</p>	

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		<p>(研究評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究評価については、機構による先行的研究事業において、世界の著名な科学者等からなる外部の評価委員会が、世界的に最も高いレベルの基準に基づく評価を行ってきました。本学においても、その評価手法を引き継ぎ、研究の成果、独自性、今後の可能性やその他の要素について、公平性と透明性の確保を重視した基準により、厳格な評価を実施し、教員の昇進や任用継続の判断等に活用します。(平成26年度に評価を予定する研究ユニット数: 8ユニット) 評価結果については、研究事業に投じられた公費について国民に対する説明責任を果たす観点から、その概要について、結果の活用後できるだけ速やかに公表します。 		<p>(研究評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2名の教員はそれぞれ権威ある賞を受賞いたしました。山本雅教授は日本癌学会より吉田富三賞を受賞、新竹積教授は、光学・量子エレクトロニクスでの業績により公益社団法人応用物理学会(JSAP)賞及び、第16回光・量子エレクトロニクス業績賞(宅間宏賞)を受賞いたしました。加えて、事業開発・技術移転セクション主任の市川尚齊博士は、日本植物細胞分子生物学会より技術賞を受賞いたしました。マリンゲノミクスユニットの安岡有理博士研究員は、東京大学での博士号論文により、井上研究奨励賞を受賞し、佐藤矩行教授のマリンゲノミクスユニットのメンバーはライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS)によりオープン・サイエンス・アワードを授与されました。また、ロバートシンクレア教授の数理生物学ユニットに所属する井上潤博士は、オープン・サイエンス・アワードのウェブ部門で3位となりました。最後に、研究安全セクションの金本絵里さんは、研究実験施設の安全教育におけるアジア会議(Asian Conference on Safety and Education in Laboratory)において、最優秀ポスター賞を獲得いたしました。 <p>教員主導の7つの研究ユニットの評価を実施しました。その内、6研究ユニットについては、国際的に認知されている各分野のエキスパートで構成されている外部委員会によって評価され、残る1研究ユニットは書面による外部評価に基づき、内部委員会によって評価が行われました。6研究ユニットは、傑出している(上位5%)もしくは優れている(上位10%)という評価がなされました。そして、残る1研究ユニットは良い(上位15%)と評価されました。これらの7研究ユニット全てに資金提供の継続を推奨されました。</p> <p>2名のテニュアトラック教員の評価も行われ、国際的に認知されている専門分野のエキスパートからのサポートレター、学長による審査、学園理事から構成される学術・研究委員会による審査及び全理事会員からの支持を得て、1名が推薦されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究ユニット及びテニュアトラック教員の評価結果についてウェブ上で公開する準備が完了しました。 	
4	<p>1.3 教員募集</p> <p>これまでに実施した教員採用の結果は、優れた教員を巡る国際的な競争において、本学が世界トップクラスの大学・研究機関に伍していけることを示しています。次段階の教員採用では、特定分野での経験が豊富な研究者、及び学際的研究を進める将来性を持った若手研究者を含め、国内外の卓越した研究者を対象とします。日本人と外国人のバランスも考慮します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 将来的な拡充に向けた議論を踏まえ、次段階の教員採用のあり方を検討します。その際、大学の認可申請審査の際に指摘されたように、学際的研究とアカデミックプログラムのバランスを考慮します。 第3研究棟や他の場所に、教員の研究活動に合うスペースを提供し、新規採用の教員の円滑な着任を図ります。 		<ul style="list-style-type: none"> 教員採用については、生物学、コンピューターサイエンス、海洋科学、医学物理学等の分野で、少なくとも7名の候補者の選考が進行中です。医学物理学の選考は完了していますが、採用には至りませんでした。 教員の研究活動をサポートするため、第3研究棟のA階を実験および研究機器の設置スペースとしました。 	A
5	<p>1.4 世界的連携</p> <p>世界の科学コミュニティとの緊密なネットワークの構築に向けた取組を継続し、他大学や研究機関との連携協定の締結やワークショップの開催等を通じて、国際的な知名度の向上を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生の研修、単位互換、その他の交流を目的に連携協定を締結する等、他大学との協力関係を強化します。(再掲。1.1 参照) 優れた学生や若手研究者等が、最先端の科学を学ぶとともに、相互に交流する機会を拡大するため、引き続き、国際性に富んだ世界的にもトップレベルの国際コース又は国際ワークショップを開催します。また、世界規模の国際ワークショップを本学に招致し、本学の研究者や学生が他の研究者とネットワークを構築する機会を拡大します。新たに着任した教員の要望に応じ、平成26年度におけるイベント数は増加する見込みです。ワークショップや会議の数は増加しますが、広報ディビジョンにおいて、参加者に対する旅費支援の低減、他の機関からの資金援助や、宿泊の手続きを更に効率化し、各ワークショップに係る経費を減らすよう努めます。 引き続き、物理学、細胞生物学、神経科学等の分野において、国内外のトップレベルの学部学生等を対象とした滞在型の研究室体験コースを開催します。 短期・長期の学生受入制度を継続し、引き続き、国内外の他大学から学生を受け入れ、研究ユニットにおいて実践的なトレーニングを提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学や研究機関等との連携協定の数 国際ワークショップ及びコースの数 ワークショップ・コース・セミナーへの参加者数 国内外の大学より受け入れた学生数 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、世界中の大学との連携関係の構築に取り組んでおり、新たにクワズルー大学ネイトル校、スタンフォード大学、テキサス大学オースティン校、およびハワイ大学ハワイ自然エネルギー研究所と連携協定の締結を現在進めています。 生物研究支援セクション(BRS)では、生体イメージングを対象とした国内の組織間ネットワーク創出に向けた協議(基礎生物学研究所が主導)に参加しています。これは、顕微鏡検査法のトレーニングコースおよび/またはシンポジウムの共同開催やEuro-Biolmaging(欧州分子生物学研究所が主導)との連携を目的としています。 生物研究支援セクション(BRS)は、米国ABRF(分子生物学資源施設協会)に参加し、同協会を他のABRF国際メンバー(米国外)に国際展開するための協議に参加しています。これは、海外の研究資源の運用管理を改善するための措置となっています。 <p>添付資料#1.4-1_学術交流協定一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> コンファレンス・ワークショップ・コミティによる厳格な審査を経て認められた世界トップレベルの水準を保つ12件のOISTワークショップと7件のミニシンポジウムを開催し、計571名が参加しました。 <p>リサーチ・インターン: 学年暦で平成25年度中に登録し平成26年4月からインターンシップを開始したリサーチ・インターンが43名、平成26年の新学期開始のリサーチ・インターンが41名、合わせて84名のリサーチ・インターンを平成26年度に受け入れました。(インターンシップを平成25年度に開始し、平成26年度中に終了したリサーチ・インターンの人数は含めていません。)(国内からの6名を含みます。)</p> <p>大学院生や学部生はOISTで開催されている国際ワークショップおよび国際コースに参加することができます。</p>	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
6	<p>1.5 産学連携の推進</p> <p>研究から生み出される成果を社会に還元するよう努めます。平成23年度に企業との連携協定を初めて締結し、また平成25年度には他の大規模な企業と新しく連携を結ぶことができました。また、エネルギー、ナノテクノロジーや創薬等の分野での共同的研究開発プロジェクト等を通じて、産業界との連携を拡大してきました。引き続き、産業界との連携を維持・強化するとともに、研究成果から創出される知的財産を適切に管理・活用します。これらの活動は、沖縄における知的・産業クラスターの形成にも貢献します。</p>	<p>(研究交流・共同研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者の相互訪問や市場・産業ニーズ分析等の取組により、引き続き、大手企業とベンチャー企業の双方を含む産業界との研究交流や共同研究を推進します。 本学の研究者の発明に基づく起業活動を促進します。 基礎研究を追求しつつ、起業や特許取得に向けた活動を奨励する環境を確立するために、規則や規程を策定します。 「起業家精神育成ワークショップ」について、琉球大学や沖縄工業高等専門学校、沖縄県、県内の農業教育研究機関等の県内関連機関と連携し、実施します。 引き続き、本学が保有する先端的な研究設備・機器について、ウェブサイト等を通じて広く情報提供を行い、他大学や企業の研究者との供用を促進します。(1.2を参照) 第2回の知的・産業クラスター形成に関する国際ワークショップ(平成24年3月開催)や平成26年1月に開催したオープン・エネルギー・システム国際シンポジウムの成果及び外部の専門家からの意見を踏まえ、ターゲットとなる産業分野を定め、企業との間で効果的なコミュニケーションを展開します。 本学の研究者の発明に係るビジネスプランの作成や事業開発を支援する外部の有識者のネットワークを強化します。 特定の企業との交流や「バイオジャパン2014」や「ナノテックジャパン2015」等の産業イベントを含む国際的なイベントを通じて、本学の研究者による研究成果と産業界のニーズとのマッチングを促進します。 将来性の高い企業研究者との双方向の研修プログラムを検討します。 文部科学省が実施している大学発ベンチャー創設の実現可能性研究を支援する「START(大学発新産業創出拠点プロジェクト)」の下、産業界のパートナーと協働で研究プロジェクトを推進します。 <p>・沖縄県が実施している「知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業」、「バイオ産業活性化事業」及び「亜熱帯・島しょ型エネルギー基盤技術研究事業」の下で、本学は、沖縄の生物資源を活用した研究開発や新エネルギー供給システムの研究開発等、県内ベンチャー企業や学術機関等との共同研究5件を引き続き実施します。また、それらの事業による学術的会合やシンポジウムにも積極的に貢献していきます。</p> <p>・沖縄県との共同研究プログラムの下、新たな連携の機会を提案します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 産業界との連携事業数(連携協定、共同研究契約、特許活用件数等) 	<p>(研究交流・共同研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業開発セクションおよび技術移転セクションは、産学連携や知的財産権利化の機会を促進することに注力しました。 連携協定及び研究契約を継続分も含め、合計18件締結しています。 大手企業との機密保持契約が締結され、さらに新規の委託研究の準備を整えました。上記の大手企業の研究者と学内の研究者との情報交換が行われ、グループ企業の研究開発部門との連携の機会を模索しています。 2014年度の実績として、連携・共同開発の可能性を検討するため、新たに民間企業55社と議論を行いました。 新たに34件の特許出願を行いました。 ソニーCSLとの再生エネルギーに関する連携はさらに強化され、第二回国際シンポジウムを開催し、111名の国内外の専門家がOISTに集まり、同分野での将来的な連携の可能性について議論を行いました。(知的・産業クラスター形成に関連するセクションも参照ください) <p>添付資料#1.5-1_受託研究等及びイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者の発明を基にした、起業家活動を支援する仕組みとして下記を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> (1)技術開発に向けた外部資金の特定、申請、管理を支援(文科省START事業など) (2)OIST知財のベンチャー企業への技術移転に向けた、ライセンス契約の条件を整備 上記の結果、スコグランド教授の発明を基とした、OISTベンチャー第一号「沖縄プロテイントモグラフィー株式会社」が設立されました。 OISTは研究者の発明を基にした、起業家活動を支援する仕組みとして「事業化可能性評価委員会」を招集し、研究者より開示された発明と事業計画の評価を行うため、評価委員会による会議を13回開催しました。 起業家育成および学生の起業家教育のため、第二回となる、起業家人材育成プログラムを開催しました。今回は、OIST、琉球大学、沖縄高専の学生(9名OIST、5名他機関)を対象としたプログラムを行いました。3か月のプログラム期間中、デザインシンキングやビジネスアイデアのピッチ(プレゼン)について学び、また国内の起業家や投資家からメンタリングを受けました。 <p>添付資料#1.5-2_特許状況</p> <ul style="list-style-type: none"> (再掲)OISTと沖縄プロテイントモグラフィー(OPT)(OIST初のベンチャー)による、「研究施設外部利用契約」が締結されました。この契約を締結するために、OTCは以下のように「基本方針・ルール・手続き」(PRP)の条項を改訂しました。 <p>PRP 4.9 研究設備及びサービスの学外への提供 PRP 21.3.7 内部コスト管理委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスイベントや会議への参加をとおして、重点産業分野が特定され、企業との情報交換が行われました。第2回の知的・産業クラスター形成に関する国際ワークショップの成果等を踏まえ、持続可能なエネルギー管理システムに関連するオープン・エネルギー・システム(OES)技術の発展を目指し、ソニーCSLと第2回目の国際シンポジウムを共催しました。111名の国内外の専門家が参加した本シンポジウムは、特定の技術分野における産学連携を促進する試みでもあります。このシンポジウムをきっかけとし、産学連携へ向けた数多くのコミュニケーションが一層深まりました。 研究者の発明の商業的可能性について、助言を得るために、外部専門家や経験豊かな起業家のネットワークを構築しました。今年度は6名の専門家を招集しました。 BioJapanへの参加は4度目となります。BioJapanへの参加は非常に有効で、国内外の民間企業とコンタクトを取ることができました。ナノテックジャパン(平成27年1月)にも引き続き参加しました。ナノテックジャパンではソーワン教授のプロトタイプの展示を行いました。展示会でマッチングや情報交換を行った企業とは、研究連携の可能性を引き続き検討しています。 研究員の相互インターンシップ研修について大手製薬会社に続き、大手診断測定器製造企業とも検討を始めました。 文部科学省の補助事業である大学発新産業創出拠点プロジェクトを無事終了させ、OIST知財を基としたベンチャー企業、沖縄プロテイントモグラフィー株式会社を設立しました。 「知的クラスター事業」、「知的産業クラスター事業」、「バイオ産業活性化支援事業」、「亜熱帯・島しょ型エネルギー基盤技術研究事業」の下、民間企業と県内学術機関とのプロジェクト4件が継続して行われました。加えて「知的産業クラスター形成推進事業(ベンチャー創出支援事業)」をはじめ、沖縄県の助成を受け新規共同契約事業が3件開始されました。研究分野には、化学、海洋生物学、植物生物学、システムバイオロジーが含まれます。「バイオ産業活性化支援事業」では、泡盛醸造所から出る廃液の浄化を工場に隣接した現場において成功し、評価委員会から高い評価を得ました。この微生物燃料電池技術を用いて、畜産場から出る廃棄物を処理するために、県内機関との連携を進めています。 	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		<p>(知的財産管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究成果について有益な特許となる可能性等を検討するため、学外有識者を含む委員会を設置するとともに、英語での特許申請や本学の研究分野に専門性を有する弁理士を活用する等、外部の専門家の知見を有効に活用することにより、効率的かつ戦略的な知的財産管理を行います。 新たな知的財産マネジメントシステムによる効果的な特許管理を強化します。 知的財産の保護・権利化を積極的に進めるため、引き続き、研修の機会の提供等により、教員やポスドク等の意識啓発に努めます。 <p>(更なる知的・産業クラスター形成に関連する活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究を総括するプロボーストの下で行われる知的・産業クラスター形成の推進に関連した基礎研究について(1.2も参照)、それぞれの研究分野において設置される運営委員会の助言に基づく予算支出状況や研究実施状況を監督する機能を強化します。また、知的・産業クラスター形成に関連する政策やプログラムについて関係機関との連絡・調整等を担う機能を強化します。 平成24年に行われた第2回知的・産業クラスター形成に関する国際ワークショップで得られた提言の実施状況についてモニタリングを行い、取組を加速し、県内経済団体等の関係者と共有します。「経済財政運営と改革の基本方針」及び上記の国際ワークショップの結果を受け、知的・産業クラスター形成において本学が重要な役割を担うことが期待されることから、平成25年度に引き続き、産学官の関係機関及びクラスター形成に関する専門家からなる沖縄R&Dクラスター推進組織設立準備タスクフォースにおいて、事務局機能を提供するとともに、議論を牽引します。 過去2回の知的・産業クラスター形成に関するワークショップ及び科学技術を促進するためのシンポジウムに続き、沖縄や本学に関連した特定のテーマを中心とした産学官のワークショップを企画します。 		<p>(知的財産管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発明評価会議及び新たに導入された特許出願プロセスは順調に運用が進められ、発明評価と34件の特許出願を行いました。新たに特許分野における経験豊富な外部有識者2名が既存の有識者ネットワークに加わりました。高い専門性と英語力を持つ、米国特許代理人と契約を新たに結び、OISTの専門家ネットワークに加わりました。 <p>添付資料#1.5-2_特許状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術移転セクションでは、発明開示と特許関連のやり取りの増加に効率的に対応するために、知的財産案件管理システム(Sophia)を国内の大学で始めて導入し、順調に運用を進めています。(http://www.wellspring.com/sofia) システムの特徴は、イノベーションの全プロセス(技術探索からライセンスまで)を管理でき、さらに資料や担当者管理も行うことができます。 米国のコロラド州立大学技術移転機関CSU Venturesの協力を受け、学内研究者を対象に知的財産セミナーを開催しました。また、米国特許代理人による特許セミナーを開催し、教員や研究者の知財活用に関する理解を深めました。 <p>(更なる知的・産業クラスター形成に関連する活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 知的・産業クラスター形成の推進に関連した基礎研究について、それぞれの教員と密に連絡を取りながら、予算支出状況や研究実施状況の監督を強化しました。 平成26年度、学園根拠法に規定されている設立の目的である沖縄の自立的発展への寄与を反映し、知的・産業クラスターの形成推進のために、沖縄の自立的発展担当オフィスを立ち上げました。沖縄の自立的発展担当オフィスは現在知的・産業クラスター形成のための活動の中心となっています。 当オフィスでは、ステークホルダー間のコミュニケーションと調整を強化するために、以下の職員を追加しました:知的・産業クラスター形成に関する新事業の企画・運営を行う准副学長、戦略的なパートナーシップのサポートや十分なバイリンガルコミュニケーションのためのコーディネーター、そしてイノベーション、産業、市場や経済に関するデータ集積や分析のためのプロジェクトアシスタント。 知的・産業クラスター推進組織設立のためのタスクフォース(以後「知的・産業クラスタータスクフォース」)が全員出席の会議を開き、沖縄における世界的に優位性のある知的・産業クラスターの形成、発展、そして持続可能性を推進する、自律した推進組織を特色付けるために、サブワーキンググループで取り組みました。 OISTは継続して事務局を務め、タスクフォース活動のサポート強化のために新職員(詳細は前述)を追加しました。 知的・産業タスクフォースは会議を開き、自立した知的・産業クラスター推進組織の基本概念を特色付けるために、サブワーキンググループで話し合い、中間報告をまとめ、平成27年度に新組織設立に向けての新たな計画を立てました。 第2回の知的・産業クラスター形成に関する国際ワークショップの成果等を踏まえ、持続可能なエネルギー管理システムに関連するオープン・エネルギー・システム(OES)技術の発展を目指し、ソニーCSLと第2回目の国際シンポジウムを共催しました。これは、特定の技術分野における産学連携を促進する試みでもあります。このシンポジウムをきっかけとし、産学連携へ向けた数多くのコミュニケーションが一層深まりました。 	
7	<p>第2章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項</p> <p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制</p> <p>学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことにより、特色あるガバナンスを実現します。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう厳格な監査を行います。</p>	<p>(基本的な運営)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例の理事会を5月、9月、2月に、定例の評議員会を5月及び2月に開催します。5月の理事会においては、平成25年度の業務の実績を報告し、評価を行います。10月下旬に、多くの理事及び評議員並びに監事の任期が満了になることから、新規及び継続するメンバーの任命に関して、資質や本学の運営に関する貢献も踏まえ議論をし、適切な手続きを行います。 理事会及び評議員会は、その機能を十分に発揮するため、委員会(分科会)を設置しました。分科会の活動について、十分な事務的サポートを行います(理事会には、運営委員会、事業・財務委員会、研究・学務委員会、監査・コンプライアンス委員会及び地域連携に関する特別委員会を、評議員会には、大学運営分科会、予算・会計分科会、学術・研究分科会及び沖縄の自立的発展分科会を設置。)。なお、理事会及び評議員会の審議は、引き続き、ウェブ・電話会議システムを活用し、効率化を図るとともに、遠隔地の理事・評議員の積極的な参加を促します。 理事長・学長は、引き続き、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。 監事は、引き続き、事前に作成する監査計画に基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況を始め、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時的監査を行います。監事は、引き続き、適切な形で中立性を維持しつつ、担当副学長を通じて、他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的サポートが提供されます。監査結果については、理事会での報告等を通じて、その後の業務運営に反映します。 		<p>(基本的な運営)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例の理事会を5月、10月、2月に、定例の評議員会を5月及び2月に開催しました。5月の理事会において、平成25年度の業務の実績を報告、評価を行った後最終報告書が内閣府に提出され公開されました。その他5月理事会及び評議員会では、新理事の選任(理事会)・監事の任命(理事会)が行われ、マスター・プランナーの任命に関する報告、「枠組み文書II」(案)の提示、2022年までの建設計画が述べられました。10月の理事会に於いては、数々の審査や議論の末の「枠組み文書II」及び「成果報告2014年」の発行が報告されました。また、人事に関しては、理事及び評議員の再任、監事の選出という重要な決定を行った上、沖縄の自立的発展オフィスの新規設立、また5名の新教員任命に関して発表しました。 理事会及び評議員会の審議は、引き続き、ウェブ・電話会議システムを活用し、効率化を図るとともに、遠隔地の理事・評議員の積極的な参加を促しました。 理事長・学長は、引き続き、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施しました。 平成26年度の本学の業務運営の状況について、平成26年9月、12月及び平成27年3月の3回の定期監査を実施しました。毎回の定期監査の実施結果については、報告書を作成し、学長等に説明を行うとともに、関係する各VPにも伝達し、業務運営の改善を促しました。 平成26年度を通じての監事の監査報告は、5月に開催されるBOG及びBOCに提出を予定しています。 <p>また、監事は、定期監査の活動以外に、VPACとの定例ミーティングを通じて、また、必要に応じて学長、プロボースト及び各VPから業務運営の状況を聴取し、本学の運営状況について把握に努めています。</p>	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		(将来の拡充に向けた計画の検討) ・理事会において、教員300名規模に向けた短・長期的な学術・研究・教育活動の拡充のための枠組み案を作成します。 ・理事会メンバー及び執行部メンバーから構成される計画委員会において、教員300名規模に向けた基本構想(サイト・マスタープラン)を検討します。また、本計画の作成支援を外部の専門家に依頼します。		(将来の拡充に向けた計画の検討) ・教授300名規模へ向けた拡充の具体的なビジョンとして「枠組み文書II」を発行しました。この文書には2023年を目標として大学の規模を現在の2倍に拡充(教授100名)していくための計画について詳細に説明されています。「枠組み文書II」は、大学拡充へ向けた正式な指標を示す文書として、理事会ヴィーゼン議長からのレターを添えた上で山本大臣に贈呈されました。 ・教授300名規模のマスター・プラン作成を担当するマスター・プランナーには、2014年5月にペリ・クラーク・ペリが選ばれ、第4・第5研究棟の立地場所の決定を最優先に進めました。選定後、理事会将来計画委員会はマスター・プランナーと詳細に渡る議論を継続して行い、2014年12月末にマスター・プランの完成版が提示されました。	
8	引き続き、世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。	・学生の採用、受入れや研究支援に必要なインフラの拡充を図ります。研究及び事務部門向けのITリソースの整備も引き続き行います。インフォメーションサービスセクションとITサービス・支援コミッティとの間で連携が図られるよう努めます。IT関連の調達、サポート、セキュリティに係るポリシーを見直し、サービスの向上と経費の効率化を図ります。より充実したヘルプデスクサービスを提供します。また、予算の進捗管理を強化するために、ERP(統合業務システム)の運用とレポート機能の改善を図ります。 ・引き続き、理事長・学長、副理事長・プロボースト、副学長、教授会議長等による定期的な会合(日常的、週次、月次)を開催し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、必要に応じてオールハンズ・ミーティング(全員会議)を行います。 ・政府機関との連絡調整を担当する副学長の下、内閣府と密接なコミュニケーションを確保していきます。毎月、予算執行状況について内閣府に報告するとともに、四半期毎に開催される定例協議会を通じて、内閣府と連絡調整を行い、事業計画の実施状況等について報告を行います。また、平成27年度の概算要求に係る打合せを前広かつ綿密に行うとともに、当初の構想に基づく教員300名規模に向けた検討状況についても適宜共有します。		・ITサービスの品質改善及び重点的なサービス対象の向上に関するプロセスは2014年度も引き続き行われました。ITサービスおよびサポート委員会は会議を開き、OISTを短期で訪れるビジターのIT機器使用に関する方針やソフトウェア購入を含む様々な案件について協議しました。これらの会議の結果を受けて、「基本方針・ルール・手続き」の情報技術に関する規定の改訂版が作成され、現在ITサービス・サポート委員会と執行部による検討・承認を受ける段階となっています。 2014年には、研究者を対象としたクラウド型およびバックアップ用の保存インフラを含む、様々な新しいサービスが開発されました。ITサービスの開発や改善も継続されています。 ITサポート・サービスのマネジャーが採用され、ヘルプデスク効率化に向けて、既にいくつかのITプロセスの検討と修正を行っています。 特に教員を対象とした、効率化された予算トラッキングおよび管理機能の開発作業が行われました。この機能については、教員担当学監の協力のもとでテストが行われ、2015年度に実施される予定です。 研究関連プロトコルの申請、検討、承認通知を効率化するために、「電子申請システム(EAS)」が開発されました。このシステムにより、対象プロトコルを、より機密性の高い状態で管理できるようになりました。 (「電子キー管理システム」が採用され、管理対象エージェントのセキュリティを高めることができるようになりました。) ・理事長/学長、副理事長/プロボースト、副学長、教授会議長等による定期的な会合(日常的、週次、月次)を開催し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認しました。運営に関する重要な変更に関しては、学長やその他適切な幹部から職員に対して説明を行い、研究ユニットの職員に係る職務分類の変更に関しては、学長がオールハンズ・ミーティング(全体会議)を開催しました。 教授会の役割について、学校教育法改正に合わせて諸規程を整備しました。 ・4月、7月、11月及び1月に定例協議会及び必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、平成26年度事業計画の実施状況、枠組み文書IIの進捗状況、規模拡充に向けたマスター・プランの検討状況、平成27年度概算要求、平成27年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。 また、定例協議会とは別に、概算要求に関する打ち合わせを開催するなど、平成27年度の概算要求に係る打合せを前広かつ綿密に行うとともに、当初の構想に基づく教員300名規模に向けた検討状況についても適宜共有しました。	A
9	2.2 予算配分と執行 国による補助金を始めとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、更には国民に対する説明責任を果たすため、引き続き、適正かつ効果的な予算の配分及び執行を実現する手続や体制を活用します。特に一般管理費については、効率的な予算の執行により抑制を図ります。	・引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分します。 ・各部署に配置された予算を分析する担当者に対して継続的なトレーニングを行うことにより、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化します。また、施設整備費補助金を含め、適切かつ一体的な予算管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行います。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。 ・科研費等の競争的資金等については、引き続き、研究担当の副プロボーストの下で、会計担当部署とも連携しつつ、それぞれの資金のルールに則った適切な管理を行います。 ・一定額を超える個々の支出について、コンプライアンスを担当する副学長が審査することを含め、引き続き、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続きを行います。 ・適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。 ・入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者による委員会において、学園が締結した契約の点検・見直し等について審議を行います。また、大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。 ・コモンリソース諮問委員会(CRAC)は、引き続き、共有・共用機器の提案について評価し、共有資源に関する最も効率的な予算利用を学長に提言します。 ・大規模かつ先端的な教育研究機器の導入について、リース契約を活用し、適切に管理します。リース契約の期間は4年以内とします。(なお、平成26年度の新たなリース契約については、今後、調達に際し、対象機器の費用対効果等の観点から検討することとします。)		・引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。 ・各部署に配置された予算を分析する担当者に対して継続的なトレーニングを行うことにより、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含め、適切かつ一体的な予算管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行いました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。 ・科研費等の競争的資金等については、研究者およびリサーチアドミニストレーター向けに適切な執行のためのセミナーを行い、また会計担当部署とも連携しつつ、それぞれの資金のルールに則った管理が行われました。 ・一定額を超える随意契約については、その内容がほぼ類型化してきたので、500万円未満の購入案件はコンプライアンスセクションリーダーが、500万円を超える案件はさらにアドミニストレイティブ・コンプライアンス担当の副学長(VPAC)と同准副学長(AVPAC)及び学内の委員会がその適切性を審査しました。随意契約の上限額について、調達方法の効率化とリスク管理の観点から、昨年度と同額の500万円とし、契約金額の削減、契約手続きの軽減等を図りました。 ・適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。財務省会計センターが開催している政府関係法人会計事務職員研修や九州地区国立学校会計事務研修に会計職員を参加させ、担当職員の育成に努めました。 ・入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者で構成される契約監視委員会を2回開催し、学園が締結した契約の点検・見直しについて審議を行い、その助言に基づき、調達の手続きを改善しました。 大型研究設備・機器の調達に関する仕様策定および技術審査委員会は、12回開催されました。 ・コモンリソース諮問委員会(CRAC)は2014年11月に正式に閉鎖され、当該委員会の役割については、今後RSDセクションリーダーがその任に当たることとなりました。各セクションでは、セクションのRSDリーダーと、1名または2名のサイエンスアドバイザー(教員)がリーダーを務めます。 新しいリサーチサポートディビジョンの組織管理体制のもと、次年度に向けて、新たな共有・共有研究機器の優先順位付け及びその申請手続について現在策定中です。 ・昨年度までに契約された既存のリース契約15件については、適切な管理および会計処理に努めました(今年度の新規のリース契約の実績はありませんでした)。	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
10	2.3 事務事業の効率化 業務運営における効率化を図るための取組を継続して行います。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、研究設備・機器の共用・共有化の推進(1.2参照)や、研究資材や試薬等の単価契約や一括購入等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。 研究資材や試薬は価格交渉を行い、コストの抑制を図ります。 研究機器の保守費修繕費は、メーカーごとの保守契約の統合化、保守内容の見直し及び価格交渉を行い、コストの抑制を図ります。 学内のプロジェクトチームにより、事務手続の効率化について見直し、改善をすることで、事務運営の合理化を図ります。パイリンガルでの制度等の実施マニュアルや研修ツールの作成等による利用者への明確で分かりやすい説明、組織や業務の分担の見直しによる事務機能の強化、超過勤務時間の削減等が取組の目標となります。 学園の契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から、定期的に見直しを行います。本年度は、随意契約の調達手続の効率化を図ります。 消費税率の変更等について、十分な手続を行うための適切な取組を実施します。 調達コストの抑制を図るため、研究資材や機器等の国内外の価格比較データを取りまとめ、メーカー、代理店、業者との価格交渉に活用します。 	<ul style="list-style-type: none"> 単価契約や一括購入による経費の削減 学内の研究資材ストアの利用数の増加 競争入札や他の競争的な手法による契約の比率(件数及び金額) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究機器の保守契約管理を共通支援部門に集約し、一括契約および共通部品の一括購入等を促進しました。 単価契約および一括購入による経費削減に取り組みました。 <p>単価契約件数: 27件</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究機器の保守契約について、メーカーごとの保守契約の統合化、保守内容の見直し及び価格交渉を行い、コストの抑制を図りました。保守契約において、契約先が一つに限られるものは、調達審査委員会の決定を経て随意契約を行うことにより効率化を図りました。 業務マニュアルを整備し、研究者を始めとした職員全てが閲覧できるよう内部的に公開しています。それらの情報は基本的にすべて日英両方の言語で提供されています。 人事研修担当により開催されている新入職員へのオリエンテーション、および財務事務に関わる職員への実務者研修により、調達・購買業務についての説明機会を確保しています。また、不定期に必要なに応じて説明会等を実施し、業務手続の詳細やルールの変更、決算スケジュール等を関係者に共有しています。 部署内の担当業務を整理し、また分担の配置換えを行うことで、適材適所を目指した業務体制の構築に努めました。 パーチェシングカードを導入し、クレジットカードによる支払が必要な購入の事務手続を効率化しました。 入札・契約を適正かつ効率的に執行するため、外部有識者を含む委員会を設置し、学園が締結した契約の事後的な点検・見直しを行いました。今年度は第6回(平成26年7月25日)及び第7回(平成27年1月30日)の2回にわたり開催しました。前回までに委員より寄せられた意見や提言について、契約事務手続に反映された点、継続して取り組まれている事項について報告を行いました。 内部の委員による調達審査委員会を開催し、52件の契約の点検を行いました。 調達価格が500万円を超える大型研究機器の購入については、案件毎に、外部有識者を含めた仕様策定委員会および技術審査委員会を設置し、入札およびその準備手続における公平性・透明性が確保されるよう努めました。 委員会の開催件数: 12件 一定額以上を支出する契約(工事250万円、物品160万円、役務100万円、リース80万円)について、当該契約に関する情報公開を適切に行いました。 随意契約の手続については、適正な審査を担保しつつ、決裁ルート、予定価格調書の作成基準金額、契約書の作成基準金額を見直しすることにより契約手続を簡素化し、契約業務の効率化を図りました。 コンプライアンスの厳格な確保、業務効率化および他規則との整合性を保つ観点から、基本方針・ルール・手続28章の見直しを定期的に行いました。 契約書ひな形(物品売買/役務/リース)の見直しを行いました。 保険契約の見直しによりコスト削減を図りました。火災保険は競争性を高めることによりレートを20%節減しました。 他の研究施設と情報交換を行い、調達職員の知識・スキル、コンプライアンスの向上を目的とする交流を実施しました(理化学研究所、高エネルギー加速器研究機構、東北大学、情報・システム研究機構、宇宙航空研究開発機構等)。 消費税率が変更されたことに伴い、留意点および消費税転嫁対策特措法についての学内説明を実施しました。 昨年度に引き続き研究資材や機器の国内外価格比較データを取りまとめ、契約金額の交渉に活用しました。 <p>比較データ追加: 121件</p> <ul style="list-style-type: none"> * 大型機器や試薬を含む比較データは、全体で155件(昨年度まで34件+追加121件) <p>また、集められたデータを活用して交渉を行い、年末の円安傾向による定価上昇を抑制する効果を上げています。</p> <p>学内研究資材ストアの利用の増加 調達金額: 41,247,376円 (2013年度に比べ16,258,471円の増加) 利用者数: 1,915人(773人の増加) また文具ストアについても外部委託の準備を整えました(2015年度より開始)。</p> <p>入札および他の競争的手続によって締結された購入契約の割合(契約の件数と金額) 契約件数: 203(30.9%) [2013年度128(31.2%)] 契約金額: 7,563百万円(77.1%) [2013年度6,391千円(86.7%)]</p>	A
11	学園の施設・設備を最大限有効に活用します。	<ul style="list-style-type: none"> 講堂や他の施設の管理及びモニタリングを行い、引き続き、外部利用の促進を図ります。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度は講堂や他の施設を利用し、イベントが54件開催されました。内訳は、18件が外部イベントで、残り36件がOIST主催のコンサートや他のイベントでの利用となっています。引き続き、外部利用の促進を図ります。 	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
12	<p>2.4 人事管理</p> <p>国際的に競争力のある処遇や教育訓練の機会を提供することにより、大学院大学の目的達成に不可欠な優れた人材を獲得し、維持していきます。それと同時に、国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。また、職員の給与水準については、「特殊法人等・独立行政法人の給与水準の見直しについて(平成24年12月7日閣僚懇談会)」の指摘も踏まえた取組を引き続き着実に進めるとともに、「特殊法人等における役職員の給与について(平成25年11月22日内閣官房行政改革推進本部事務局)」に対する取組を具体化し、納税者の理解が得られる合理的な水準とし、それらに関する説明責任を果たします。</p>	<p>(職員の採用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な大学経営を行う上で重要な役職(CIO(情報化統括責任者)、事業開発担当者等)について、引き続き、早期に優れた人材を採用・配置できるよう検討します。特に、民間からの資金調達関係や今年度設置予定の海洋科学研究センターを統括する役職が重要となることから直ちに体制を構築します。 学生関係や研究支援等、新規に立ち上げる業務や拡充すべき業務に対応するため、内部の人材の活用や組織編成を行いつつ、即戦力となる職員の採用を進めます。特にOIST等を核とした知的・産業クラスターの形成を推進させるための体制整備や職員の採用を進めます。 他方、簡素で効率的な管理部門を実現すべく、国内外の大学等の動向を踏まえつつ、教職員数については予算で定められた教職員数の範囲内とし、なおも必要なニーズについては外部資金の活用を図るなど適正な管理を行い、組織の肥大化を防ぎます。 職場における多様性を促進し、全ての職種・職位における男女比率を改善するため、機会均等に関する方針を徹底します。 男女共同参画委員会を開催し、大学経営全般における男女共同参画の推進、特に女性研究者・女性職員に対する支援を引き続き実施します。また、多様性に関するタスクフォースを設置し、理事会への提言をまとめます 均等な雇用機会を提供するための障壁を取り除き、障がいを持つ方の雇用を促進します。 利用者のフィードバック及びキャンパスの人口の拡大に基づき、新規採用及び既存の職員や学生のために、保育サービス、ファミリーサポート、フードサービス、健康・医療サポートや生活におけるニーズのサポートに関連したサービス機能を強化します。子弟教育の機会を拡げるため、引き継ぎ、地域の学校との連携を図ります。配偶者の雇用機会を更に拡大するために、沖縄県、雇用サービスセンター(ハローワーク)や潜在的な雇用者とのネットワークを構築します。 	<ul style="list-style-type: none"> 職位毎の職員数(職種、国籍別、性別) 全職員に対する事務部門の職員の比率 運営費に占める人件費の割合 職員の給与水準(職種別の平均給与) 研修の受講職員数 	<p>(職員の採用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業開発に関わる人材など、国際的な大学の運営に重要となるポジションに適格な人材を雇用しました。また、OIST教職員およびその家族を対象にキャンパスにおいてヘルスケアサービスを提供する臨床心理士2名および医師1名(2015年度より始業予定)を採用しました。 <p>添付資料#2.4-1_職位毎の職員数</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアの変更に興味のある研究者らに対し、引き続き学内外で雇用機会の提供を行いました。国際的な経験を有する新卒採用活動の一環として、複数の国際キャリアフォーラム(シドニー、ロンドン、ロサンゼルス、ボストン、サンフランシスコ)に参加した他、東京で開催された2つのキャリアフォーラムにも参加しました。東京での2つのイベントに関しては、それぞれ平均100名の学生と接触することができました。新卒雇用および博士課程の学生募集を同時におこなうため、学生支援セクションとの連携を開始しました。これにより、サーチを拡大し、優秀な学生により多くの選択肢を提供することができます(昨年はこのような方法で博士課程の学生を1名獲得)。 公共職業安定所(ハローワーク)や地元紙の広告を通じて、沖縄出身の候補者に対し新規ポジションの募集をおこなったところ、2015年3月末までに33名の沖縄県出身者の雇用につながりました(事務職全体の雇用率のうち23%)。これは、前年2013年度の21名(全体の16%)から大幅な増加となりました。 運営管理および研究の両方の領域において人件費番号を付し、慎重に採用活動を行った結果、職員数を一定範囲内に抑えることができました。 <p>全職員に対する事務部門の職員の比率:26.8% 運営費に占める人件費の割合:25%(決算前のため概算値)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場における多様化を推進するため、男女共同参画に関する文書の改訂をおこない、機会均等の方針を強化しました。 OISTにおける男女共同参画に関わる全てのイニシアチブの実施、監督、および評価を総括する男女共同参画担当副学長を雇用しました(2015年度より就業予定)。学生支援セクションと連携し、雇用担当チームは東京で開催された2つのジョブフェアに参加し、科学分野の知識を有する新卒女子を対象とした募集活動を行いました(2015年1月および2月)。 男女共同参画タスクフォースにおいて、OISTにおける男女共同参画の総合的な方針・施策をとりまとめ、学内の周知を図りました。 男女共同参画委員会を7回開催し、男女共同参画の観点に立ったキャリアパスの推進等、タスクフォースの提言の具体化を図りました。 施設管理ディビジョンのスタッフを新規で2名雇用し、障害者雇用数が増加しました。 すべての職員に向けて学内外の仕事および生活に関する支援をおこない、HRのアウトリーチサービスを提供するため、スタッフリレーションズ・サービスチームが発足しました。同チームは、計画を策定するためヒアリング調査を実施しただけでなく、既にOISTカフェテリアのサービスに関する調査や改善措置などのサービスの提供を始めています。保健センターでは、新たに定期健康診断のフォローアップセミナーの提供を開始したほか、引き続き一次救命処置訓練やOISTメンバーとその家族を対象とした情報セミナーを提供しています。保健センターが医療・健康管理関連のサポートを提供する一方で、10月には、英語を母国語とする臨床心理士2名と日本人カウンセラー1名により「がんじゅうサービス」の提供が開始されました。クリニックの医師の採用活動は無事完了し、2014年度内に準備を整え2015年にバイリンガルの総合診療医が就任する予定です。リソースセンターは、OISTメンバーの配偶者・パートナーを対象に積極的な雇用支援を行って来ました。同センターは、外国語指導助手(ALT)のポジションに関する情報を得るため、恩納村、読谷村、北谷町、およびうるま市石川の教育委員会に働きかけているほか、人材派遣会社の代表者と雇用機会について話し合いを持ちました。また、ビザ関連書類(「資格外活動許可申請書」)の作成補助も行っていきます。さらに、リソースセンターのウェブサイトを作成し求人情報を掲載しているほか、ファミリー・オリエンテーションで就職の可能性について紹介を行い、求職者に個別に関連情報を送り、OISTメンバーの配偶者複数名にハローワークを紹介しました。8月にチャイルド・ディベロップメント・センターの収容可能児童数が倍増したことに合わせて、リソースセンターは公立学校およびインターナショナルスクールのリストを公開しました。 	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		<p>(処遇・給与水準)</p> <ul style="list-style-type: none"> 給与体系、年度評価及び職務等級制度を再検討し、改善します。その際、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえます。また、「特殊法人等における役職員の給与について(平成25年11月22日内閣官房行政改革推進本部事務局)」に対する取組を具体化し、実行します。 職員、学生やその家族など、より多くの人が本学に来訪するにあたり、ビジター・サポート・プログラムなどの提供サービスの拡大に向けた新たなシステムの導入を検討します。(5.2参照) キャンパス内宿舎(ビレッジゾーン)の整備に合わせて、家賃や住宅手当を見直し、必要に応じて改定を行います。 <p>(研修・業務実績評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度に実施した職員研修のニーズに関する検討・分析に基づいた方針を踏まえ、特定の業務に関する研修に加え、組織的な研修プログラムを引き続き構築・実施します。 研修機会の提供や人事ローテーションの実施等、事務職員に対するキャリア・ディベロップメントの取組を引き続き行い、バックアップの確保及び後継者育成に向けた取組を実施します。 1日で行われていた職員オリエンテーションを拡充し、ユニットやセクションの受け入れに関する支援を含めた入校手続きもカバーします。 職員及び学生に英語及び日本語の研修を提供します。 引き続き、職種の特性に応じ、能力評価及び期首に設定した目標等の達成度に係る業績評価を含む評価制度を、自己評価及び評価者の審査を介して、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施します。また、評価の結果について個々の給与等に反映させます。その際、報酬検討委員会のアドバイスを受けて、引き続き、評価の質及び信頼性のあるプロセスを確保します。また、新しいマネージャーにプロセスの説明を行うため、定期的に研修を実施します。 		<p>(処遇・給与水準)</p> <ul style="list-style-type: none"> 給与体系、年次評価、および評価制度の見直しおよび再構築を行った結果、評価分配に柔軟性を持たせた3段階の評価、管理職と専門職両方の方向性を確保した複線型の人事制度、評価およびメリット昇給におけるジェンダーバランスを図るためのガイドラインが導入され、年次業績評価において実施されました。以上の整備は、これまでと同様に国内外の公務員や学術機関の職員の給与水準等を参考にしつつ行われました。さらに、「特殊法人等における役職員の給与について(平成25年11月22日内閣官房行政改革推進本部事務局)」を踏まえて、総人件費抑制に向けた報酬検討等の取組を具体化し実施しました。 <p>添付資料#2.4-2_職員の給与水準</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員や学生、その家族を迎えるにあたり、リソースセンターでは、新たな生活サポートプログラムを策定し、また、社会・家族イベントを考案しました。それに加え、2名のスタッフが常駐する「レジストレーション・デスク」が2月に開設し、OISTスタッフと非スタッフの両方に対して支援を提供しています。(5.2を参照) 家賃や住宅手当の包括的な見直しは、平成27年度に第1期キャンパスハウジング整備が完成次第、行うこととしました。 <p>(研修・業務実績評価)</p> <p>添付資料#2.4-3_研修の受講職員数</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度に策定された研修計画を基に、平均毎月3回のペースで計56回の研修をおこなった結果、686名の参加者がありました。新たに14の研修コースが導入され、2015年3月末までの間に計186名が参加しました。これらの新規セミナーは主に、口頭および書面による理論的なコミュニケーションの方法と英語でのライティングスキル向上などを中心テーマに据えたものでした。最も参加率の高かったマイクロソフトエクセルとアクセスのセミナーには、多くの財務管理スタッフおよびリサーチアドミニストレーターが参加しました。 全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修(アドミニストレイティブ・コンプライアンス部門主催)については、月次で新入職員向けの研修を実施しました(12回、研修参加者数179名)。さらに、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」(平成26年2月18日改正)の基準に沿うよう研修教材を改訂し、全教職員向けに平成27年3月からe-learning研修を開始しました。 新たに導入した複線型の人事制度は事務職員に対して専門職へのキャリアを積むにあたって魅力的な選択肢を提供するものです。また、キャリア開発に役立つさまざまな研修の機会を提供しました。その中には、マナー研修や、マイクロソフトの使い方ならびにコミュニケーションの方法などをテーマとした研修、学生向けのセクハラ研修、健康管理法、基本的なライフサポート、英語のメールの書き方などが含まれます。また、メンタルヘルスや、税申告、安全運転、サイエンス・ライティング、英語に関するその他のセミナーも開催しました。 新規雇用職員に対し、より完成度の高い充実したオリエンテーションと新人研修を引き続き行いました。平成26年度は、既存のオリエンテーション・プログラムの内容強化に重点的に取り組みました。新たに「がんじゅうサービス」と職員向けのサービスが導入されたほか、学長あるいは他の幹部職員による歓迎挨拶が定期的なプログラムの項目として新規職員向けオリエンテーションに組み込まれるようになりました。 英語講師を1名新規で雇用しました。今年度OISTでは、9つの英語コースが提供され、総受講者数は231名でした。研究科との協力のもと開催されたサイエンス・チャレンジ・ワークショップでは、補完的コースとして22名の学部生に対し英語のトレーニングを提供しました。また、渡米を控えた名護高校の生徒3名に対し、プレゼンテーション技能の向上に役立つ授業を行いました。その他にも、完ぺきなEメールの書き方(Write Perfect Email)を教授する研修セミナーを2度開催し、80名が参加しました。日本語クラスの2014年度の総受講者数は248名でした。日本語クラスは1~4月、5~8月、9~12月の3期に分けられ、初級が6クラス、中級が2クラス、上級が1クラスその他、サバイバルコース、漢字クラス、ストーリーライティングのコースが提供されました。11月から新しい講師が加わり、日本語プログラムは現在3名の講師がそれぞれコースを担当しています。 報酬検討委員会(SRC)からの助言を受けながら、評価システムの改善がなされました。柔軟な評価配分が可能な3段階の評価システムは、管理職員と非管理職員の両者にとってより柔軟で分かりやすいものです。また、複線型の人事制度により、専門職を極めたい職員には管理職のポジションと同レベルの給与が与えられる機会が提供されています。管理職と専門職における昇進基準が見直され、スタッフレベルを対象とした新たな点数制の導入と管理職と専門職を対象としたSRCによる個別レビューが実施されることになりました。これに加え、評価配分および昇給において男女の均等が慎重に考慮されました。最新情報の提供と、個別の目標設定方法の説明を目的としたセミナーが開催されました。第一評価者に対して、評価の際にすべきことと、すべきでないことについての研修を実施しました。 	

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
13	<p>2.5 コンプライアンスの確保</p> <p>大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副学長(アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当)において、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行うこととします。 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ適時適切に制定・改正するとともに、PRP審査委員会を定期的に開催し、規則類全体の整合性を維持します。 業務運営上の意思決定及びその過程については、公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号)及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書化するとともに、その管理・保存等を徹底します。 監事による監事監査や上記副学長の下で行う内部監査によって、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況について、厳格なチェックを行い、その結果に基づき必要な見直しを行います。 本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、毎年度、書面による開示を実施します。 研究活動が関連法令や規制に準拠して実施されることを確保するため、引き続き、研究担当の副プロボストの下で、関連規則を実施・運用します。 		<ul style="list-style-type: none"> 副学長(アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当)において、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行いました。 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ適時適切に制定・改正するとともに、PRP審査委員会を11月に開催し、規則類全体の整合性を維持しました。 業務運営上の意思決定及びその過程については、公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号)及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書化するとともに、その管理・保存等を徹底しました。平成26年4月に電子文書管理システムを導入し、文書の電子化を進めることにより、文書管理の効率性と透明性を向上させました。 (再掲)適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。 学内向けホームページにおいて、コンプライアンスに関する資料、Q&A等を掲示しました。 (再掲)一定額を超える随意契約について、500万円未満の購入案件はコンプライアンスセクションリーダーが、500万円を超える案件はさらにVPAC/AVPAC及び学内の委員会がその適切性を審査しました。 (再掲)全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修(アドミニストレイティブ・コンプライアンス部門主催)については、月次で新入職員向けの研修を実施しました(12回、研修参加者数179名)。さらに、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」(平成26年2月18日改正)の基準に沿うよう研修教材を改訂し、全教職員向けに平成27年3月からe-learning研修を開始しました。 昨年度に引き続き、OISTの全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、書面による公式な開示を求め、その管理と運用を行ないました。 研究活動における不正行為の対応及び公的研究費の管理・監査に関し、文部科学省のガイドラインに沿って体制及び諸規程を整備しました。(VPAC法令S) <p>研究担当ディーンが、リサーチサポートディビジョン及びOISTにおける全研究活動を統括するディーンとなります。専門の衛生担当職員が採用され、研究安全セクションに配属されました。業務は、沖縄労働基準監督署の実務指針に従い、2015年1月13日より開始されました。</p>	A
14	<p>2.6 情報公開及び広報活動</p> <p>本学が急速に成長にし、また平成26年度予算が大幅に増加したことを受け、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組の強化がより一層必要となります。国内外から幅広いサポートを得るとともに、国際的な認知度を高めるため、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図り、本学のブランド化に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本学は引き続き、学校教育法(昭和22年法律第26号)や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開します。 本学のウェブサイトが日英両言語で提供される質の高いアカデミックなウェブサイトとして評価されるよう引き続き整備に努めます。 本学に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、引き続き、県内外で記者説明会や記者会見等の機会を積極的に持つよう努めます。 本学の写真やビデオ、その他のマルチメディアの利便性を高めるために、ウェブサイトのニュースセンターを改善します。 Facebook、TwitterやYou Tube等のソーシャルメディアや電子メールニュースレター(OIST便り)を更に活用し、本学のホットトピックを発信します。 潜在的な寄附者や海外機関とのコミュニケーションを向上させるため、財務書類について、国際基準を踏まえた様式で概要を公表することを検討します。 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、改善を図ります。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校教育法や独立法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開しました。 OISTは日本でも有数の日英完全バイリンガルのウェブサイトを活用しています。そこには本学の研究成果や様々なイベントの様子がウェブ記事として週に1～2回のペースで掲載されました。平成26年度は、OISTウェブサイトの閲覧数が前年度比で13.25%増加しました。 <p>ユーザー数: 平成23年度:272,173 平成24年度:487,736 平成25年度:506,471 平成26年度:573,594</p> <p>平成26年度の国内の閲覧者数は、前年度比で9.65%増加し、76.81%でした。米国からの閲覧者数は前年度比で34.77%増加し、7.6%でした。その他、インド2.03%、英国8.85%、ドイツ5.81%、フランス19.47%、豪州64.44%、中国5.27%、台湾34.90%、カナダ16.39%とそれぞれ閲覧者数が増加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度は4件の記者会見(東京と沖縄)を開催するとともに、35件の報道機関による取材を受け、新聞やテレビ、雑誌、ウェブ媒体などでとりあげられました。 OISTウェブサイトのニュースセンターでは、ジャーナリストや業者、OIST職員が自由にダウンロード可能な写真やビデオを掲載しています。平成26年度は2つの写真集を追加しました。1つがピーター・ギンター氏で、もう1つがチャーリー・マリー氏の写真集です。OISTビデオやスライドショーはこれまで通りYouTubeにアップロードし、誰もがいつでもどこでも視聴できるようにしています。 OISTウェブサイト上で公開した研究成果に関する記事に加え、高校生の訪問や文化イベントの開催に関する記事もOISTフェイスブックページに掲載しました。平成27年4月6日時点で、OISTフェイスブックの「いいね」の数は3,876件でした。平成26年度は前年度に比べて積極的に記事をツイートしたことで、これがリツイートされ、中にはOISTの研究成果に関する海外メディアによる報道につながりました。また、OISTウェブサイトアクセスする会員の数を増やすことを目的に平成25年10月に配信サービスを開始した電子ニュースレター「OIST便り」は、平成26年4月1日時点で購読者数が英語版で1,529人(前年同月時748人)、日本語版2,016人(同1,639人)となっています。 また、メディアセクションでは平成27年3月に国際科学広報に関するワークショップをOISTで開催しました。全国の大学や研究機関から広報担当者が参集し、2日間にわたり国際社会をターゲットとした日本の研究成果の発信力強化について活発な議論を行いました。ワークショップには90を超える参加者が集い、国内の学術・教育界におけるOISTの認知度向上にも貢献しました。 財務に関する諸活動から効果的に財務書類を作成する方法について、新ERP開発を通じて検討しました。 引き続き、学内規則集をウェブサイト(バイリンガル)に掲載しました。 	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価															
15	<p>第3章 財務に関する事項</p> <p>平成25年度(平成25年4月から平成26年1月末までの10か月)の外部資金獲得額は、前年の平成24年度と比較して3.5%微減の3.85億円となりました。特筆すべき点は、採択件数が30%増加しており、総額の減少は、大規模な2件のプログラムについて、1件は終了し、1件は複数年の間での予算配分の変化によるものです。外部資金獲得に係る中期戦略に基づき、引き続き、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄附金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。特に、学生支援等、当初、国費を含め財源について例外的な扱いが必要となる経費については、外部資金の割合を高めていきます。</p>	<p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得や産学連携のための組織機能を強化します。 外部資金の内部サイトやE-mailを通じて、国内外の研究助成金に関する基礎情報及び時期についての情報を引き続き提供します。その際、日本語のみの情報については英訳を行います。 引き続き、科研費、JST戦略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ)やヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム等の各種研究資金に係る様々なセミナーを開催します。また、競争的資金の申請書作成に関する実務的なセミナーも開催します。 申請書のレベル向上のため、外部資金セクションのスタッフや関連した研究者により、申請書案の添削や校正等といった支援サービスの強化に努めます。必要に応じて、外部資金セクションにより、外国人研究者のために、研究概要や申請書の様式一式の翻訳等のサービスを提供します。 さらに、国内外の資金提供機関のウェブサイト定期的に確認し、文部科学省の諮問機関等による新規の助成金の案内につながる先行活動についての情報収集を引き続き行います。 本学の研究に基づく新規事業の開発を支援するため、産業界の助成金に対する申請を奨励します。 <p>(産学連携の取組については、1. 5参照)</p> <p>(寄附金)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学への寄附に関して、文部科学省により特定公益法人の認定を受け、日本私立学校振興・共済事業団の受配者指定寄付金制度を利用できることを周知します。これにより、寄附者が、国立大学法人等に寄附を行う場合と同程度の優遇措置を受けることができるようになります。 資金調達諮問委員会の設置を議論するとともに、外部資金獲得に係る中期戦略の実施を開始します。 引き続き、様々な機会において、外部資金獲得の取組を進めます。また、米国に寄附の受け皿として創設された財団を活用した取組を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 競争的資金の申請件数(確認中) 競争的資金の採択状況(件数及び獲得額) 外部資金の伸び(総額及び内訳) 	<p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得や産学連携のための基礎的な情報や国内外の公募機会のスケジュールなどについてカレンダーとセクションホームページでの提供を強化しました。 研究助成金に関する情報について、日本語のみでの情報の場合には英訳を行って提供した。 科研費、JST戦略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ)の研究資金に係るセミナーを開催しました。併せて競争的資金の申請書作成に関する実務的なセミナーも開催しました。 申請書のレベル向上のため、申請書案の添削や校正等といった支援サービスを強化しました。英語版の“GUIDELINES FOR WRITING KAKENHI PROPOSALS”(日本語版の原題は「科研費申請書の教科書」)を京都大学の学術研究支援室と共同で出版しました。 <p>2015年4月時点、(平成27年度)科研費申請数67件のうち、新規採択数は13件でした。採択率は現時点で13/67 = 19.4%</p> <p>大型の研究種目8件については、現在審査中(6月以降に結果通知予定)であり、上記申請数には含みません。大型研究種目を含む平成27年度科研費申請総数は75件です。(=結果通知済み67件+結果通知待ち8件)</p> <p>この3年間の推移は下の表の通りです。2014年度分については4名による6件の申請と4件の採択は新学術領域の領域代表である銅谷教授分への銅谷ユニットメンバーからの申請で、当年度に特有の「かさ上げ」と見なすべきものではありません。</p> <p>2014*のカラムはこれを除いた場合の数字(申請数:84-6=78, 採択数:22-4=18)。</p> <table border="1" data-bbox="1584 714 2285 798"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成26年度*</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請数</td> <td>54</td> <td>84</td> <td>78*</td> <td>67(75)</td> </tr> <tr> <td>採択数</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>18*</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の資金提供機関のウェブサイト定期的に確認し、文部科学省や内閣府の諮問機関等による新規の助成金の案内につながる先行活動についての情報収集を引き続き行いました。 文科省大学発新産業創出プログラム(START事業)を無事終了しました。START事業は知財戦略や大学発技術の事業化を支援するプログラムです。スコグランド教授によって研究開発された技術は、当該事業をとおして、事業化(ベンチャー設立)することができました。この経験によって、ベンチャー設立を支援する外部資金獲得に向けた効率的な仕組みを開発する機会となりました。 <p>(寄附金)</p> <ul style="list-style-type: none"> この目標に関しては、特に今年度は具体的な活動はありませんでしたが、このような情報は、有望な潜在的資金援助者に適宜伝える予定です。 外部資金獲得に係る中期戦略の内容は、現在準備中の「ファンドレイジング・アクションプラン」に含まれることとなっています。 当該基金内の全ての資金は弁護士費用で消費され、具体的な活動は行われませんでした。米国の当該基金については、閉鎖の手続きを進めています。 <p>資金調達に関する本学の活動というのは、本学のミッションやビジョンを推し進める活動となることから、資金調達の活動は、本学においては「アドバンスメント」と呼ぶこととしました。</p> <p>今年度より資金調達という専門分野において実績のある国内外企業2社を利用しています。一社は北米の企業で、もう一社は日本企業です。これら2社と適宜調整をはかり、本学で優先される活動のために、補助金以外の資金の積極的な調達活動を今後開始します。本年度の重要な成果としては、資金調達に関する今後の活動計画「アクションプラン」の検討と、資金調達担当のディレクター/副学長(アドバンスメント担当)の採用を支援するサーチ会社の推薦の2点が挙げられます。</p> <p>また、プロボーストオフィスの職員一名に対して、北米タイプの大学資金調達トレーニングを受講させています。この職員が本学における本件に関する全てのコミュニケーションについて、連絡担当者となります。</p>		平成25年度	平成26年度	平成26年度*	平成27年度	申請数	54	84	78*	67(75)	採択数	13	22	18*	13	A
	平成25年度	平成26年度	平成26年度*	平成27年度																
申請数	54	84	78*	67(75)																
採択数	13	22	18*	13																

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
16	<p>第4章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項</p> <p>平成24年度には新たな沖縄振興策が実施されました。また、政府による「経済財政運営と改革の基本方針」において、知的・産業クラスター形成が求められており、本学が重要な役割を担うこととされています。本学は、学園法により本学に与えられた使命を果たすため、産学官の密接な連携の下、様々な活動を通じて沖縄の振興及び自立的発展に寄与していきます。また、琉球大学、沖縄工業高等専門学校を始めとする沖縄の大学・研究機関との連携についても更に進めていきます。引き続き、地域コミュニティや地域の学校との連携・交流を深めるとともに、キャンパスを地域の文化的活動やコミュニティ活動の拠点としても発展させます。</p>	<p>(研究の推進、知的・産業クラスターの形成に関する事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究を総括するプロボーストの下、適切な運営を行いながら、知的・産業クラスター形成に向けた関連基礎研究(海洋科学、エネルギー、環境・バイオ、先端医療)を推進します。(1.2参照) 引き続き、共用施設や優れた技術スタッフの活用等により、分野を超えた交流研究協力を推進します。(1.2参照) 引き続き、市場・産業ニーズ分析等を実施しつつ、健康や生物資源、エネルギー等の分野において、地元の企業との共同プロジェクトを推進します。(1.5参照) 知的・産業クラスターの形成に関する国際ワークショップで得られた提言の実施状況についてモニタリングを行い、取組を加速し、県内経済団体等の関係者と共有します。(1.5参照) <p>(研究及び産学連携に関する他の事項については、1. 2及び1. 5をご参照ください。)</p> <p>(地域連携に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学はこれまで琉球大学や沖縄工業高等専門学校、海上保安庁及び沖縄県を含む複数の県内の機関や組織と覚書や連携協定を結び、連携を進めてきました。今後も引き続きセミナーの拡大、共同研究及び学生、インターン、教員の交流を通じて、県内の機関との連携を推進します。 県内の高等教育機関との交流プログラムを推進するとともに、琉球大学や名城大学、沖縄工業高等専門学校、沖縄県立総合教育センターとの訪問プログラムを実施します。 中部病院や南部医療センター、琉球大学医学部等地域の核となる医療機関との新たな交流プログラムを開始し、科学講演会を開催します。 引き続き多くの訪問者(県内の企業や各種協会等を含む団体も含む)を得られるよう努めます。同時に、訪問者数の増加により本学の主目的である教育と研究に支障がないよう配慮します。 ビジターセンターを改善し、訪問者に対し本学に関する適切な情報を提供します。 恩納キャンパスで5度目となるオープン・キャンパス(一般開放)を実施します。 沖縄県内の児童・生徒に、世界最先端の研究環境を体感し、科学技術分野での進学又は就職への関心を高めてもらうことを目的として、学校からのキャンパス訪問を積極的に受け入れます。特に、沖縄県教育委員会や県内各高等学校と緊密に連携し、県内の全ての高等学校を対象とする訪問プログラムを推進します。平成26年度内には、県内高校20校からの訪問を受け入れます。 県や観光組織との連携により、本土のスーパー・サイエンス・ハイスクールの本学への訪問を引き続き実施・強化します。 引き続き、全ての学年の児童・学生に対して、本学の教員や外部の著名な科学者による講演会を開催します。 恩納村と協力して、第5回こども科学教室を開催します。 地元の人々に本学に訪問してもらうために、デモンストレーションや科学フェア、コンサート、展示等の文化的なイベントを行う際に、本学の講堂や他の施設を活用します。 地元教育委員会による英語教育に関する会議及び学校で実施される英語講座へのOIST関係者の参加促進等により、子供達の英語力及び異文化理解を深めるために、地元の学校に協力をします。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内機関との連携事業の数 視察や来訪者の数(オープン・キャンパスへの来訪者数を含む) キャンパスを訪れた県内児童・生徒数 県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数 沖縄出身の職員数(研究者、事務系職員等) 	<p>(研究の推進、知的・産業クラスターの形成に関する事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> 知的・産業クラスター形成の推進に関連した基礎研究について、それぞれの教員と密に連絡を取りながら、予算支出状況や研究実施状況の監督を強化しました。 引き続き、分野を超えた交流研究協力を推進するよう、OISTにおけるあらゆる研究活動において、リサーチサポートディビジョンによるサポートを向上できるよう、リサーチサポートディビジョンの組織構造及びその機能について積極的に検証を行いました。 (再掲)「知的クラスター事業」、「知的産業クラスター事業」、「バイオ産業活性化支援事業」、「亜熱帯・島しょ型エネルギー基盤技術研究事業」の下、民間企業と県内学術機関とのプロジェクト4件が継続して行われました。加えて「知的産業クラスター形成推進事業(ベンチャー創出支援事業)」をはじめ、沖縄県の助成を受け新規事業が3件開始されました。研究分野には、化学、海洋生物学、植物生物学、システムバイオロジーが含まれます。「バイオ産業活性化支援事業」では、泡盛醸造所から出る廃液の浄化を工場に隣接した現場において成功し、評価委員会から高い評価を得ました。この微生物燃料電池技術を用いて、畜産場から出る廃棄物を処理するために、県内機関との連携を進めています。 本学は平成22年、24年の知的・産業クラスターワークショップでの提言を実行します。 沖縄の自立的発展担当オフィスは、知的・産業クラスター発展活動の中心を担うため、平成26年度に設置されました。 知的・産業クラスター推進組織設置のためのタスクフォースは、知的・産業クラスター形成のための推進組織の基本的な要素や特徴についてまとめました。 <p>(セクション1.5研究交流・知的・産業クラスター発展をご参照ください)</p> <p>(地域連携に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄県内の機関や地域とのネットワークを強化するために、沖縄県内11の各大学の学長およびワーキンググループの委員によって、平成26年9月26日、一般社団法人大学コンソーシアム沖縄が設立され、11機関の学長間での意見交換や情報交換の場を提供するために学長会議をOISTで開催しました。 平成26年12月23日には、11機関間の連携促進および財団の活動への理解を深めるために、設立記念シンポジウムが沖縄コンベンションセンターにて開催されました。 平成27年3月7日-8日には、11機関間の交流を深めるために、沖縄学生サミットが琉球大学にて開催されました。 学術交流を促進するために、平成26年8月17日～23日の日程で、国内トップの国立および私立大学を訪問するスタディーツアーを開催しました。2012および2013年にOIST博士課程に入学した学生たちは、(1)九州大学、(2)大阪大学、(3)早稲田大学及び(4)東京大学医科学研究所を訪問しました。学生は、各大学の最先端の研究施設を視察し、また企業や地方自治体と連携した地域社会に寄与する産学官が協力した共同研究の取り組みについて説明を受けました。 南部医療センターにおいて矢崎杉山陽子准教授による講演会「生後の経験に左右される脳の発達 - 鳥の歌の研究から分かること」を実施し、約100名の医師、看護スタッフ等が聴講しました。 プログラムに改良を重ね実施、年間40,426名がキャンパスを見学しました。 2015年5月にポスター、統計データを更新し、また顕微鏡によるデモを導入する等、ビジターセンターの展示内容を改善しました。 約230名の教員、研究スタッフ、事務スタッフの協力を得て、新規出展項目も含め昨年以上の充実した内容で開催し、5,000名が来場しました。 前年度にひきつづき訪問を奨励し、県内27校、1,812名の高校生が訪問しました。また、小学生は665名、中学生1,392名でした。 全てのSSHにOIST訪問案内を送付し、また東京等で開催された修学旅行フェアに参加し見学を奨励しました。今年度は2校の訪問がありましたが、更に複数校から2015年度の訪問の予約をとりつけました。 山崎直子宇宙飛行士の講演、ノーベル物理学賞受賞の益川敏英氏の講演等約30件の講演会をOIST内外で開催しました。また、沖縄こどもの国、沖縄県立博物館等他機関との共催による科学プログラムも開催しました。 第5回恩納・OISTこどもかがく教室を開催し102名の児童が参加しました。第1回開催からの参加者は通算で384名となりました。 フリオゴヤ氏のアート展、大嶺實清氏陶芸展等を開催しました。また、講堂等にて県立芸大、京都大学とのコラボによるコンサート、オペラレクチャーコンサートも開催しました。 アート展 3件、コンサート7件。 恩納小学校にてインターナショナル・クラスの実施を継続することにより、地元児童の英語能力および文化的意識の向上に引き続き貢献しました。英語での読み聞かせプログラムを同校で新たに実施しました。 	A

目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
	<p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、優秀な県内出身者の雇用に努めます。 「起業家精神育成ワークショップ」について、琉球大学や沖縄工業高等専門学校、沖縄県、県内の農業教育研究機関等の県内関連機関と連携し、実施します。(1.5参照) 「沖縄産業まつり」や「沖縄MICEコンテンツトレードショー」等に参加したように、引き続き、沖縄での主な文化的、産業的、学術的イベントに参加します。また、沖縄県及び米国総領事館と連携し、高校生を対象とした起業を目指した科学イベント「SCORE」を引き続き実施します。 沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューローと連携し、より多くの外部主催の国際会議・ワークショップが本学で開催されるよう図ります。 		<p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広告や派遣会社、公共職業安定所(ハローワーク)等を通じて、沖縄県出身の優秀な人材の雇用を引き続き行いました。 起業家育成および学生の起業家教育のため、第二回となる、起業家人材育成プログラムを開催しました。今回は、OIST、琉球大学、沖縄高専の学生及び研究者を対象としたプログラムを行いました(OISTから9名、他機関から5名、計14名が参加)。3か月のプログラム中、デザインシンキングやビジネスアイデアのピッチ(プレゼン)について学び、また国内の起業家や投資家からメンタリングを受けました。 事業開発セクションと連携し、「沖縄の産業まつり」に出展しました。また、沖縄県教育委員会及び在沖米国総領事館と連携し、第3回SCOREIを開催しました。今回は14校31チームが応募、書類選考の結果14校21チームが参加しました。 沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューローと連携し、沖縄県宜野湾市や東京などで開催されるMICE誘致イベントに積極的に参加するとともに、沖縄観光コンベンションビューローが企画した国際会議キーパーソン(会場視察ツアー)を受入れ、OISTの会場を紹介しました。この結果、26件の外部主催による学術的国際会議・ワークショップ・シンポジウムがOISTで開催され、1,800名以上が参加した。 	
<p>第5章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項</p> <p>5.1 キャンパス整備</p> <p>17 引き続き、本学は、計画通り、キャンパスの整備を進めます。</p>	<p>引き続き、既存建造物の管理・維持を行うとともに、第3研究棟の建設を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本設のCDC施設を引き続き建設します。 産学連携活動を推進し、知的・産業クラスター形成に貢献するホールを建設します。 臨海実験施設を設計し、シーサイドキャンパスにおいて建設します。 民間事業者とのパートナーシップも活用し、引き続き、教員や学生向け宿舎等を中心とするビレッジゾーンの整備を需要に沿って進めます。(フェーズ3-1として、平成26年に24戸の1LDKが完成し、最終フェーズ3-2の建設は平成26年度に進め、平成27年度に完成する予定です。) 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律(平成12年法律第127号)に基づき、引き続き、入札スケジュールや結果等の入札及び契約に係る情報の事前・事後の公開等を行い、透明性の確保を図ります。 		<ul style="list-style-type: none"> 既存施設は重大な事故や問題もなく、順調に管理・維持されています。また第3研究棟が竣工しました。 平成26年8月に本設のチャイルド・ディベロップメント・センター(CDC)が竣工し、供用を開始しました。 R&D クラスターホールの整備は、工事入札時に難しい状況があったものの、無事に着工し、平成27年5月に竣工する予定です。 臨海実験施設の建設地については、モズク養殖業者から懸念の声があったため、シーサイドキャンパスから瀬良垣漁港に変更されました。施設の設計が完了し、建築許可申請を行い、平成27年度初めに着工を予定しています。 キャンパス内の住宅整備は計画通りに進んでいます。 透明性確保のため、入札及び契約に係る情報の事前・事後の公開等を引き続き行いました。 	A
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上</p> <p>18 職員及び学生やその家族を含む大学コミュニティの発展は、大学運営を成功させる上でも重要であることから、引き続きその推進に努めます。人員及びサービスの拡大や、リソースセンターや本設のCDC施設の整備により、教職員の教育及び保育環境の向上を図ります。</p>	<p>(大学コミュニティの形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生施策の充実、内部コミュニケーションサイトの充実、生活関連情報の提供、職員やその家族による活動(OIST Welcome Club等)やイベント等への支援等、職員を始め、その家族も含む大学コミュニティの生活水準の向上を図る取組を引き続き進めます。 本学では、社会的交流を促進するため、サッカー、武道、日本文化等のクラブが設立されてきました。平成26年度においてもOIST公認クラブ運営グループによる適切な管理の下、新しいクラブが形成される予定です。 本学の雇用者でないが短・長期にわたり本学に滞在する者及びその家族を対象とするビジター・サポート・プログラムを検討し、開始します。 <p>(子弟の教育・保育環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡大された近代的な本設のCDC施設を活用し、引き続き質の高い、完全なバイリンガルの保育及び学童保育を、適切な受益者負担のもと提供します。夏頃には、児童数も増加が見込まれます。既に設置されたCDC運営委員会が、四半期に一度会議を行い、CDCの更なる発展につなげます。 沖縄県や恩納村等の関係する地方公共団体と連携・協力し、英語による教育を受ける機会の拡大等、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図るための取組を進めます。 恩納小学校との共同プログラムにより、職員の子弟に対して日本の教育システムの下での英語による教育を提供します。 引き続き、本学の職員と学生に対して英語及び日本語のクラスを提供します。 		<p>(大学コミュニティの形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2014年8月に施設管理ディビジョン、広報ディビジョン、人事、教員担当学監から成るタスクフォースによる「レジストレーション・デスク」の設置についての数回にわたる討議が行われました。その結果、エグゼクティブ・コミッティからの承認を受け、レジストレーション・デスクが設置されました。同デスクは人事の所掌業務として2015年4月1日に開設しました。 2014年度も引き続きOISTクラブの数および種類が増加しました。これらのクラブ活動の承認・監督はOIST公認クラブ運営グループによりおこなわれています。クラブ活動を通じて社会性やチームワークの形成がもたらされます。現在OISTにはクラブが19あります。 2014年8月に施設管理ディビジョン、広報ディビジョン、人事、教員担当学監から成るタスクフォースによる「レジストレーション・デスク」の設置についての数回にわたる討議が行われました。その結果、エグゼクティブ・コミッティからの承認を受け、レジストレーション・デスクが設置されました。同デスクは人事の所掌業務として2015年4月1日に開設しました。 <p>(子弟の教育・保育環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> OIST CDCプログラムは、若手教員・研究員・職員の採用および維持に必要な不可欠だということは明らかです。2015年度に同センターが増強され始めてから、職員のワークライフバランスの向上、保護者および児童のストレスの緩和、職員のコミュニティ帰属意識の高まりが確認されています。また、沖縄での外国人児童の養育を支援するため、CDCでは、日英両言語で文化的に多様なプログラムを提供しています。 2014年度初めに、てだこプレスクールプログラムに入園した児童数は47名でした。36世帯中35世帯が、同プログラムの内容に非常に満足しているという報告がありました。2014年度終りには、同プログラムの児童数が47名から73名に増えました。7月には、100名収容可能なてだこの恒久施設が完成しました。同施設は、現在25か国から集まった児童の保育ニーズに合わせた設計となっています。 2014年度の学童保育およびホリデープログラムには合計26名の児童が参加しました。これらのプログラムを通じてOIST職員である保護者の勤務中に、児童たちに英語を使う機会が与えられるとして評価されています。 2014年度内に、CDC運営委員会は6回、CDC実行委員会予算分科会は5回会合を開きました。CDCの保育料からの収入を全体の3分の1まで増収する目的を達成するため、2014年1月より保育料の値上げ実施を運営委員会が決定しました。同委員会はCDCの運営タイムライン、運営予算、適人の保育士の採用、及び児童の健康・安全の確保に関わる業務全般を統括しています。 	A

	目標	取組	指標	業績(2014.4.1～2015.3.31)	自己評価
		(学生支援) ・ 学生に対し、良好な社会的・心理的な環境を提供するため、福利厚生を含む様々な支援活動を推進します。(再掲。1.1参照)		<ul style="list-style-type: none"> ・ (再掲)恩納小学校にてインターナショナル・クラスの実施を継続することにより、地元児童の英語能力および文化的意識の向上に引き続き貢献しました。英語での読み聞かせプログラムを同校で新たに実施しました。 ・ 英語講師を1名新規で雇用しました。今年度OISTでは、9つの英語コースが提供され、総受講者数は231名でした。研究科との協力のもと開催されたサイエンス・チャレンジ・ワークショップでは、補完的コースとして22名の学部生に対し英語のトレーニングを提供しました。また、渡米を控えた名護高校の生徒3名に対し、プレゼンテーション技能の向上に役立つ授業を行いました。その他にも、完ぺきなEメールの書き方(Write Perfect Email)を教授する研修セミナーを2度開催し、80名が参加しました。日本語クラスの2014年度の総受講者数は248名でした。日本語クラスは1～4月、5～8月、9～12月の3期に分けられ、初級が6クラス、中級が2クラス、上級が1クラスの他、サバイバルコース、漢字クラス、ストーリーライティングのコースが提供されました。11月から新しい講師が加わり、日本語プログラムは現在3名の講師がそれぞれコースを担当しています。 	
19	5.3 安全の確保及び環境への配慮 リスクマネジメントの取組を行うとともに、災害から教職員、学生、訪問者等を守るため、必要な防災対策を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、大学運営に関する様々なリスクに対応するためのリスクマネジメント計画を策定します。 ・ 職員や学生に対し、安全に関する必要な研修を実施します。 ・ 恩納村とも協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画の改正を行い、防火・避難訓練が実施されました。 ・ 施設運用セクションおよび施設管理セクションの職員に対し、研修を実施しました。 ・ 防災用品の見直しを行いました。 	A
20	環境に配慮しながら事業を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル製品の使用を推進します。 ・ 引き続き、温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、その抑制に努めます。 ・ 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努めます。また併せて地下水への影響が無いようにします。 ・ 施設整備に伴う各種建設工事においては、濁水プラント施設を設置するなど、赤土流出対策を十分に行います。 ・ 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地の管理を行います。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物や建築材料のリサイクルを引き続き行いました。 ・ 1人当たり、エネルギー消費量を4%、水道使用量を6.4%、また重油の使用量を10.2%削減しました。 ・ 包括的な対策がとられ、その場で水処理が行われた結果、最終的な排水のBOD(生物化学的酸素要求量)は5ppmとなりました。 ・ 請負業者には濁水処理施設の提供が義務付けられ、OISTが雇用した環境コンサルタントが同施設を監視しました。平成26年度には事故はありませんでした。 ・ 固有植物種を用いて、新設の施設の周囲に広範囲な植栽を行いました。 	A

平成26年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File #	資料名
1	#1.1-1	博士課程学生情報
2	#1.2-1	平成26年度 OIST論文・発表数
3	#1.4-1	学術交流協定一覧
4	#1.5-1	共同研究及びイベント
5	#1.5-2	特許状況
6	#2.4-1	職位毎の職員数
7	#2.4-2	職員の給与水準
8	#2.4-3	研修の受講職員数
9	#3-1	外部資金・寄附金獲得表

List of Attachment Documents to the FY2014 Performance Report

No.	File #	(English Document Name)
1	#1.1-1	Students Information
2	#1.2-1	OIST Publications and Presentations FY2014
3	#1.4-1	Academic Exchange Agreements List
4	#1.5-1	List of collaborative projects
5	#1.5-2	Patent Status
6	#2.4-1	Number of employees
7	#2.4-2	Salary Level of Employee
8	#2.4-3	Number of employees taking training programs
9	#3-1	External Grants and Donations Table

博士課程学生情報

クラス	志願者数	入学者数	年齢構成 (平均)	出身国・地域	出身大学等
第一期生 (2012)	208	34	21 - 39 (ave 26.3)	日本 5 中国 5 ドイツ 4 米国 3 インド 2、アイルランド 2、エジプト 2、 バングラデシュ 1、リトアニア 1、 フィリピン 1、台湾 1、エストニア 1、 パキスタン 1、マレーシア 1、 ナイジェリア 1、パレスチナ 1、 英国 1、ザンビア 1	アレクサンドリア大学 1、アメリカン大学 1、アン・ナージャー国立大学 1、 アナ大学 1、GIK科学技術大 1、情報科学芸術大学院大学 1、 インド工科大学カラグルプル校 1、ジェイコブズ大学 1、慶應義塾大学 1、 京都大学 1、名桜大学 1、南京大学 1、国立東華大学大学 1、 シンガポール国立大学 1、ロチェスター工科大学 1、琉球大学 1、 セント・アンドルーズ大学 1、ドレスデン工科大学 1、 ユニバーシティ・カレッジ・コーク 2、カリフォルニア大学サンタクルーズ校 1、 オスナブリュック大学 2、マンチェスター大学 1、タルトゥ大学 1、東京大学 1、 中国科学技術大学 1、ウォーリック大学 1、早稲田大学 1、廈門大学 1、 新疆大学 1、中国科学院西双版纳热带植物园 1、エール大学 1
第二期生 (2013)	398	20	22 - 39 (ave 26.2)	日本 5 台湾 3 中国 2 ニュージーランド 2 カザフスタン 1、米国 1、フランス 1、 キプロス 1、ベルギー 1、ドイツ 1、 インド 1、バングラデシュ 1	カリフォルニア州立大学 ロングビーチ校 1、コーネル大学 1、 Jahangirnagar大学 1、北里大学 1、モスクワ大学 1、南京大学 1、 国立台湾大学 1、国立台湾大学 1、国立交通大学 1、 ノースウエスタン大学 1、ドレスデン工科大学 1、ジョージ・ワシントン大学 1、 東京大学 1、パリ第11大学 1、オークランド大学 1、エジンバラ大学 1、 グラスゴー大学 1、リエージュ大学 1、オタゴ大学 1、チューリッヒ大学 1
第三期生 (2014)	231	27	21 - 31 (Ave 24.9)	米国 6 日本 6 インド 4 ドイツ 3 中国 2 エジプト 1、エストニア 1、英国 1、 モーリシャス 1、台湾 1、イスラエル 1	エイン・シャムズ大学1、オーバーン大学1、カリフォルニア工科大学1、 コーチン科学技術大学1、インド科学教育研究所カルカッタ 2、 神戸大学 1、南京大学2、奈良先端科学技術大学院大学 1、 国立陽明大学 1、お茶の水女子大学 1、大阪大学 1、 南イリノイ大学カーボンデール校 1、SRM大学1、ストーニーブルック大学 1、 首都大学東京1、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 1、 カリフォルニア大学バークレー校 1、ケンブリッジ大学1、エセックス大学 1、 マドラス大学 1、マサチューセッツ大学 1、オスナブリュック大学2、 ウィスコンシン大学マディソン校 1、ワイツマン科学研究所 1
合計		81			

平成26年度 OIST 論文・発表数

添付資料#1.2-1

平成26年度 各研究ユニットの研究成果

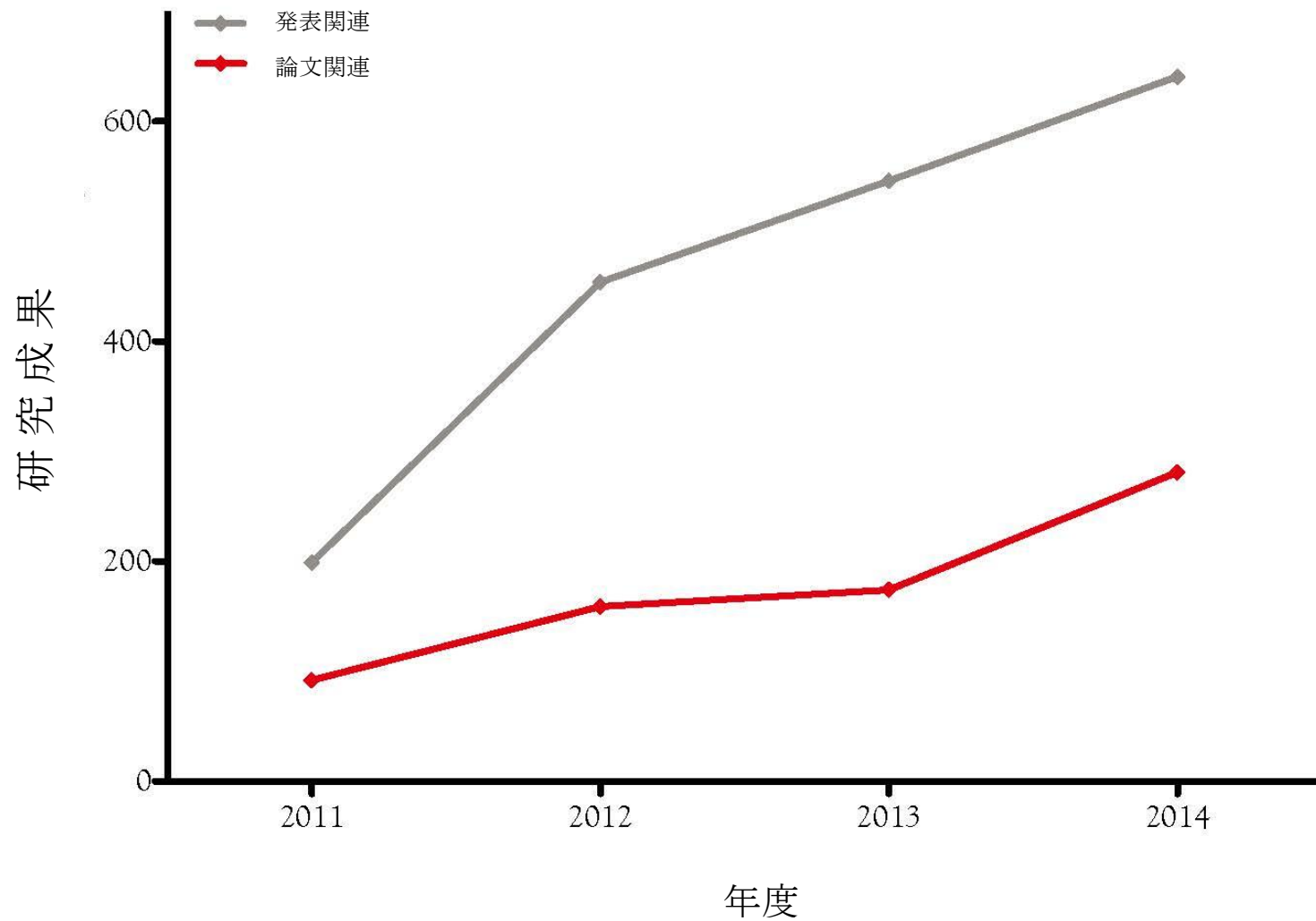
	著書	論文関連	発表関連	その他	ユニット合計
アーバスノット	0	5	11	0	16
バンディ	0	1	18	0	19
ブレナー	0	2	0	0	2
ブッシュ	0	13	16	0	29
チャクラボルティ	0	2	12	0	14
ダニ	0	5	25	0	30
デシュッター	0	9	26	1	36
銅谷	0	12	57	0	69
エコノモ	0	8	9	0	17
フリード	0	16	12	0	28
ジョイア	0	1	12	0	13
ゴリヤニン	0	1	5	0	6
氷上	0	0	5	1	6
石川	0	0	1	0	1
イエンケコダマ	0	2	4	0	6
北野	1	20	38	10	69
コンスタンチノフ	0	2	18	0	20
クン	0	5	19	0	24
ラスカム	0	4	2	0	6
マルケスラゴ	0	7	1	0	8
丸山	0	3	7	0	10
政井	0	4	13	0	17
ミケエブ	0	9	11	0	20
ミラー	0	1	2	0	3
御手洗	0	14	10	0	24

平成26年度 各研究ユニットの研究成果

	著書	論文関連	発表関連	その他	ユニット合計
ニコーマック	0	13	29	0	42
ブライス	0	0	1	0	1
チー	0	14	26	4	44
ロクサー	0	1	1	0	2
サマテ	0	2	0	0	2
佐藤	0	27	48	0	75
佐瀬	0	2	14	0	16
シャノン	0	5	30	1	36
シェン	0	12	25	0	37
新竹	0	2	8	0	10
シンクレア	0	5	2	0	7
スコグランド	0	1	5	1	7
ソーワン	0	17	15	1	33
スティープンス	0	1	10	0	11
高橋	0	2	11	0	13
田中	0	6	15	1	22
トリップ	0	0	3	0	3
ヴァンヴァクター	0	1	3	0	4
ウィッケンス	0	2	12	0	14
ウルフ	0	1	3	0	4
山本	0	5	21	0	26
柳田	0	12	17	1	30
杉山(矢崎)	0	1	7	0	8
横林	0	2	0	0	2
リサーチサポート・ディビジョン	0	5	2	0	7
サイエンステクノロジーグループ	0	7	15	0	22
合計	1	292	657	21	971

平成 26 年度 OIST 論文・発表数

OIST journal publications and presentations by year since FY2011



Journal Articles Published by OIST in FY2014

- 1 Abdurakhimov, L. V. *et al.* Bidirectional energy cascade in surface capillary waves. *Physical Review E* **91**, doi:ARTN 023021, DOI 10.1103/PhysRevE.91.023021 (2015).
 - 2 Agrawal, A., Sarkar, C., Dwivedi, S. K., Dhasmana, N. & Jalan, S. Quantifying randomness in protein-protein interaction networks of different species: A random matrix approach. *Physica A Statistical Mechanics and Its Applications* **404**, 359-367, doi:10.1016/j.physa.2013.12.005 (2014).
 - 3 Akai, Y. *et al.* ATPase-dependent auto-phosphorylation of the open condensin hinge diminishes DNA binding. *Open Biology*, doi:10.1098/rsob.140193 (2014).
 - 4 Akter, F. & Yokobayashi, Y. RNA Signal Amplifier Circuit with Integrated Fluorescence Output. *ACS Synthetic Biology*, doi:10.1021/sb500314r (2014).
 - 5 Anwar, H. *et al.* Dendritic diameters affect the spatial variability of intracellular calcium dynamics in computer models. *Frontiers in Cellular Neuroscience* **8**, doi:10.3389/fncel.2014.00168 (2014).
 - 6 Arbuthnott, G. W. Thalamostriatal synapses-another substrate for dopamine action? *Prog Brain Res* **211**, 1-11, doi:Doi 10.1016/B978-0-444-63425-2.00001-5 (2014).
 - 7 Ariel, I. I., Budiman, C., Jenie, B. S., Andreas, E. & Yuneni, A. Plantaricin IIA-1A5 from *Lactobacillus plantarum* IIA-1A5 displays bactericidal activity against *Staphylococcus aureus*. *Benef Microbes*, 1-11, doi:10.3920/BM2014.0064 (2015).
 - 8 Asai, Y. *et al.* Versatile Platform for Multilevel Modeling of Physiological Systems: SBML-PHML Hybrid Modeling and Simulation. *Advanced Biomedical Engineering* **3**, 50-58 (2014).
 - 9 Asai, Y., Nomura, T. & Kitano, H. in *Journal of the Society of Instrument and Control Engineers* Vol. 53 計測と制御 (2014).
 - 10 Asato, K. *et al.* Subchorionic hematoma occurs more frequently in in vitro fertilization pregnancy. *European journal of obstetrics, gynecology, and reproductive biology* **181**, 41-44, doi:10.1016/j.ejogrb.2014.07.014 (2014).
 - 11 Asato, K. *et al.* Subchorionic hematoma occurs more frequently in in vitro fertilization pregnancy. *Eur J Obstet Gyn R B* **181**, 41-44, doi:DOI 10.1016/j.ejogrb.2014.07.014 (2014).
 - 12 Augustinaite, S., Kuhn, B., Helm, P. J. & Heggelund, P. NMDA Spike/Plateau Potentials in Dendrites of Thalamocortical Neurons. *Journal of Neuroscience* **34**, 10892-10905, doi:10.1523/JNEUROSCI.1205-13.2014 (2014).
 - 13 Badrutdinov, A. O., Abdurakhimov, L. V. & Konstantinov, D. Cyclotron resonant photoresponse of a multisubband two-dimensional electron system on liquid helium. *Physical Review B* **90**, 75305 (2014).
 - 14 Barker, C. S., Meshcheryakova, I. V., Inoue, T. & Samatey, F. A. Assembling Flagella in Salmonella Mutant Strains Producing a Type III Export Apparatus without FliO. *Journal of bacteriology* **196**, 4001-4011, doi:Doi 10.1128/Jb.02184-14 (2014).
 - 15 Barker, C. S. *et al.* Randomly selected suppressor mutations in genes for NADH: quinone oxidoreductase-1, which rescue motility of a
-

- Salmonella ubiquinone-biosynthesis mutant strain. *Microbiology (Reading, England)* **160**, 1075-1086, doi:10.1099/mic.0.075945-0 (2014).
- 16 Baughman, K. *et al.* Genomic organization of Hox and ParaHox clusters in the echinoderm, *Acanthaster planci*. *Genesis* **52**, 952-958, doi:doi: 10.1002/dvg.22840 (2014).
- 17 Beesabathuni, S., Lindberg, S., Caggioni, M., Wesner, C. & Shen, A. Q. Getting in shape: molten wax drop deformation and solidification at an immiscible liquid interface. *Journal of Colloid and Interface Science* **445**, 231-242, doi:10.1016/j.jcis (2015).
- 18 Benelmekki, M. *et al.* On the formation of ternary metallic-dielectric multicore-shell nanoparticles by inert-gas condensation method. *Materials Chemistry and Physics* **151**, 275-281, doi:10.1016/j.matchemphys.2014.11.066 (2014).
- 19 Biria, A. & Fried, E. Buckling of a soap film spanning a flexible loop resistant to bending and twisting. *P Roy Soc a-Math Phy* **470**, doi:ARTN 20140368, DOI 10.1098/rspa.2014.0368 (2014).
- 20 Bohra, M. *et al.* Influence of packaging on the surface oxidation and magnetic properties of cobalt nanocrystals. *Journal of Physics D: Applied Physics* **47**, doi:10.1088/0022-3727/47/30/305002 (2014).
- 21 Bohra, M. *et al.* Influence of Packaging on the Surface Oxidation and Magnetic Properties of Cobalt Nanocrystals. *Journal of Physics D: Applied Physics* **47**, doi:10. 1088/0022-3727/47/30/305002 (2014).
- 22 Bosch, T. C. G. *et al.* How do environmental factors influence life cycles and development? An experimental framework for early-diverging metazoans. *Bioessays* **36**, 1185-1194, doi:DOI: 10.1002/bies.201400065 (2014).
- 23 Campbell, S., Garcia-March, M. A., Fogarty, T. & Busch, T. Quenching small quantum gases: Genesis of the orthogonality catastrophe. *Physical Review A* **90**, 013617, doi:10.1103/PhysRevA.90.013617 (2014).
- 24 Capper, R. L., Wright, A. M. & Mikheyev, A. Coalescent theory reconstructs the known history of experimentally evolving yeast populations. *Integrative and Comparative Biology* **54**, E249-E249 (2014).
- 25 Cardiel, J., Zhao, Y., Tonggu, L., Chung, J. & Shen, A. Flow-induced immobilization of glucose oxidase in nonionic micellar nanogels for glucose sensing. *Lab Chip* **14**, 3912-3916, doi:10.1039/c4lc00610k (2014).
- 26 Cardiel, J. J., Zhao, Y., De La Iglesia, P., Pozzo, L., D. Pozzo & Shen, A. Q. Turning up the heat on wormlike micelles with a hydrotopic salt in microfluidics. *Soft Matter* **10**, 9300-9312, doi:10.1039/C4SM01920B (2014).
- 27 Cardiel, J. J., Zhao, Y., Kim, J., Chung, J. & Shen, A. Q. Electro-conductive porous scaffold with single-walled carbon nanotubes in wormlike micellar networks. *Carbon* **80**, 203-212, doi:10.1016/j.carbon.2014.08.057 (2014).
- 28 Cardiel, J. J., Zhao, Y., Kim, J., Chung, J. & Shen, A. Q. Microscaffolds with single-walled carbon nanotubes for pH sensing. *Carbon* **80**, 203 (2014).
- 29 Cardiel, J. J., Zhao, Y., Kim, J.-H., Chung, J.-H. & Shen, A. Q. Electro-conductive porous scaffold with single-walled carbon nanotubes in wormlike micellar networks. *Carbon* **80**, 203-212, doi:10.1016/j.carbon.2014.08.057 (2014).
- 30 Cardiel, J. J. *et al.* Flow-induced immobilization of glucose oxidase in nonionic micellar nanogels for glucose sensing. *Lab on a Chip* **14**, 3912-3916, doi:10.1039/c4lc00610k (2014).
- 31 Cassidy, C. *et al.* Endotaxially stabilized B2-FeSi nanodots in Si (100) via ion beam co-sputtering. *Applied Physics Letters* **104** Number 16

- (2014).
- 32 Castelnovo, M. *et al.* Role of histone modifications and early termination in pervasive transcription and antisense-mediated gene silencing in yeast. *Nucleic Acids Research* **42**, 4348-4362, doi:10.1093/nar/gku100 (2014).
- 33 Chaleckis, R. *et al.* Unexpected similarities between the *Schizosaccharomyces* and human blood metabolomes, and novel human metabolites. *Mol Biosyst*, doi:10.1039/C4MB00346B (2014).
- 34 Chandrashekar, C. M. & Busch, T. Noise-enhanced quantum transport on a closed loop using quantum walks. *Quantum Information Processing* **13**, 1313-1329, doi:10.1007/s11128-014-0730-1 (2014).
- 35 Chandrashekar, C. M. & Busch, T. Quantum percolation and transition point of a directed discrete-time quantum walk. *Scientific Reports* **4**, doi:ARTN 6583, DOI 10.1038/srep06583 (2014).
- 36 Chandrashekar, C. M., Melville, S. & Busch, T. Single photons in an imperfect array of beam-splitters: interplay between percolation, backscattering and transient localization. *Journal of Physics B: Atomic Molecular and Optical Physics* **47**, doi:10.1088/0953-4075/47/8/085502 (2014).
- 37 Chen, W. & De Schutter, E. Python-based geometry preparation and simulation visualization toolkits for STEPS. *Frontiers in Neuroinformatics* **8**, 37, doi:10.3389/fninf.2014.00037 (2014).
- 38 Chen, Y.-C., Fosdick, R. & Fried, E. Representation for a Smooth Isometric Mapping from a Connected Planar Domain to a Surface. *J Elast* **119**, 335-350, doi:10.1007/s10659-015-9521-x (2015).
- 39 Chouthaiwale, P. V. & Tanaka, F. Reactions of pyruvates: organocatalytic synthesis of functionalized dihydropyrans in one pot and further transformations to functionalized carbocycles and heterocycles. *Chem. Comm* **50**, 14881-14884, doi:10.1039/c4cc06035k. (2014).
- 40 Clouse, R. M. *et al.* Molecular phylogeny of Indo-Pacific carpenter ants (Hymenoptera : Formicidae, Camponotus) reveals waves of dispersal and colonization from diverse source areas. *Cladistics*, 1-14, doi:10.1111/cla.12099 (2014).
- 41 Coldea, A. I. *et al.* Cascade of field-induced magnetic transitions in a frustrated antiferromagnetic metal. *Physical Review B* **90**, doi:10.1103/PhysRevB.90.020401 (2014).
- 42 Couto, J., Linaro, D., De Schutter, E. & Giugliano, M. On the firing rate dependency of the phase response curve of rat purkinje neurons in vitro. *PLoS Computational Biology* **11** (2015).
- 43 Cui, H.-L. & Tanaka, F. One-pot synthesis of polysubstituted 3-acylpyrroles by cooperative catalysis. *Organic & Biomolecular Chemistry* **12**, 5822-5826, doi:10.1039/c4ob01019a (2014).
- 44 Daly, M., Truong, V. G., Phelan, C. F., Deasy, K. & Nic Chormaic, S. Nanostructured optical nanofibres for atom trapping. *New Journal of Physics* **16**, doi:10.1088/1367-2630/16/5/053052 (2014).
- 45 David, O. *et al.* Dopamine-induced tyrosine phosphorylation of NR2B (Tyr1472) is essential for ERK1/2 activation and processing of novel taste information. *Frontiers in molecular neuroscience* **7**, 66, doi:10.3389/fnmol.2014.00066 (2014).
- 46 Dimou, O. *et al.* Optimisation of scale-up of microbial fuel cell for sustainable wastewater treatment with positive net energy generation. *New Biotechnol* **31**, S213-S213, doi:DOI 10.1016/j.nbt.2014.05.998 (2014).

- 47 Doya, K. Toward the neurophysiology of mental simulation. *Int J Psychophysiol* **94**, 120-121, doi:DOI 10.1016/j.ijpsycho.2014.08.588 (2014).
- 48 Doya, K. in *Japanese Journal of Molecular Psychiatry* Vol. 15 分子精神医学 1(1) (2015).
- 49 Ebchuqin, E. *et al.* Evidence for participation of GCS1 in fertilization of the starlet sea anemone *Nematostella vectensis*: Implication of a common mechanism of sperm-egg fusion in plants and animals. *Biochem Biophys Res Commun* **451**, 522-528, doi:doi: 10.1016/j.bbrc.2014.08.006. (2014).
- 50 Ebchuqin, E. *et al.* Evidence for participation of GCS1 in fertilization of the starlet sea anemone *Nematostella vectensis*: Implication of a common mechanism of sperm-egg fusion in plants and animals. *Biochemical and Biophysical Research Communications* **451**, 522-528, doi:DOI 10.1016/j.bbrc.2014.08.006 (2014).
- 51 Economo, E. P. *et al.* Global phylogenetic structure of the hyperdiverse ant genus *Pheidole* reveals the repeated evolution of macroecological patterns. *Proceedings of the Royal Society Series B* **282**, 1-10, doi:10.1098/rspb.2014.1416 (2014).
- 52 Edmunds, P. J. *et al.* Geographic variation in long-term trajectories of change in coral recruitment: a global-to-local perspective. *Marine and Freshwater Research*, doi:http://dx.doi.org/10.1071/MF14139 (2015).
- 53 Eguchi, H. *et al.* A magnetic anti-cancer compound for magnet-guided delivery and magnetic resonance imaging. *Sci Rep* **5**, 9194, doi:10.1038/srep09194 (2015).
- 54 Elfwing, S. & Doya, K. Emergence of Polymorphic Mating Strategies in Robot Colonies. *PLoS One*, doi:10.1371/journal.pone.0093622 (2014).
- 55 Elfwing, S., Uchibe, E. & Doya, K. Expected energy-based restricted Boltzmann machine for classification. *Neural Networks Online* **28 September**, doi:10.1016/j.neunet.2014.09.006 (2014).
- 56 Engerer, P., Yoshimatsu, T., Suzuki, S. C. & Godinho, L. CentrinFish Permit the Visualization of Centrosome Dynamics in a Cellular Context In Vivo. *Zebrafish* **11**, 586-587, doi:DOI 10.1089/zeb.2014.1503 (2014).
- 57 Erukonda, J., Katsuyama, I., Zhang, D., Johnson, S. & Tanaka, F. Aldol reactions of 1,2-diketones catalyzed by amines to afford furanose derivatives. *Tetrahedron Lett.* **56**, 735-738, doi:10.1016/j.tetlet.2014.12.094. (2015).
- 58 Essafi, K., Kownacki, J. P. & Mouhanna, D. First-order phase transitions in polymerized phantom membranes. *Physical Review E* **89**, doi:10.1103/PhysRevE.89.042101 (2014).
- 59 Frawley, M. C., Gusachenko, I., Truong, V. G., Sergides, M. & Nic Chormaic, S. Selective particle trapping and optical binding in the evanescent field of an optical nanofiber. *Optics Express* **22**, 16322-16334, doi:10.1364/oe.22.016322 (2014).
- 60 Fried, E. & Jabbour, M. Sessile drops: spreading versus evaporation–condensation. *Z. Angew. Math. Phys.*, 1-23, doi:10.1007/s00033-014-0424-7 (2014).
- 61 Fuchs, B. *et al.* Regulation of Polyp-to-Jellyfish Transition in *Aurelia aurita*. *Curr Biol* **24**, 263-273, doi:DOI 10.1016/j.cub.2013.12.003 (2014).
- 62 Funamizu, A. & Doya, K. in *Seitaino Kagaku* Vol. 66 生体の科学 33-37 (2015).

- 63 Gao, K. & Miller, J. Human-chimpanzee alignment: ortholog exponentials and paralog power laws. *Computational biology and chemistry* **53 Pt A**, 59-70, doi:10.1016/j.compbiolchem.2014.08.010 (2014).
- 64 García-March, M. A. *et al.* Quantum correlations and spatial localization in one-dimensional ultracold bosonic mixtures. *New Journal of Physics* **16**, 103004, doi:10.1088/1367-2630/16/10/103004 (2014).
- 65 Garcia-Munoz, M., Lopez-Huerta, V. G., Carrillo-Reid, L. & Arbutnott, G. W. Extrasynaptic glutamate NMDA receptors: key players in striatal function. *Neuropharmacology* **89**, 54-63, doi:10.1016/j.neuropharm.2014.09.013 (2015).
- 66 Ghosh, A., Leier, A. & Marquez-Lago, T. T. The Spatial Chemical Langevin Equation and Reaction Diffusion Master Equations: moments and qualitative solutions. *Theoretical Biology and Medical Modelling* **12**, doi:10.1186/s12976-015-0001-6 (2015).
- 67 Giusteri, G. G. & Fried, E. Slender-body theory for viscous flow via dimensional reduction and hyperviscous regularization. *Meccanica* **49**, 2153-2167, doi:10.1007/s11012-014-9890-4 (2014).
- 68 Grammatikopoulos, P., Cassidy, C., Singh, V., Benelmekki, M. & Sowwan, M. Coalescence behaviour of amorphous and crystalline tantalum nanoparticles: a molecular dynamics study. *Journal of Materials Science* **49**, 3890-3897, doi:DOI 10.1007/s10853-013-7893-5 (2014).
- 69 Grammatikopoulos, P., Cassidy, C., Singh, V. & Sowwan, M. Coalescence-induced crystallisation wave in Pd nanoparticles. *Scientific Reports* **4** **5778**, doi:10.1038/srep05779 (2014).
- 70 Grammatikopoulos, P. & Nordlund, K. Molecular dynamics simulation of Cr-precipitate demixing in FeCr alloys. *Radiation Effects and Defects in Solids* **169**, 646-654, doi:10.1080/10420150.2014.920020 (2014).
- 71 Grammatikopoulos, P., Toulkeridou, E., Nordlund, K. & Sowwan, M. Simple analytical model of nanocluster coalescence for porous thin film design. *Modelling and Simulation in Materials Science and Engineering* **23**, doi:10.1088/0965-0393/23/1/015008 (2014).
- 72 Grossmann, M., Gallager, S. & Mitarai, S. Continuous monitoring of near-bottom mesoplankton communities in the East China Sea during a series of typhoons. *J Oceanogr*, 1-10, doi:10.1007/s10872-014-0268-y (2014).
- 73 Grossmann, M. M., Collins, A. G. & Lindsay, D. J. Description of the eudoxid stages of *Lensia havock* and *Lensia leloupi* (Cnidaria: Siphonophora: Calycophorae), with a review of all known *Lensia* eudoxid bracts. *Systematics and Biodiversity* **12**, 163-180, doi:10.1080/14772000.2014.902867 (2014).
- 74 Grossmann, M. M., Gallager, S. M. & Mitarai, S. Continuous monitoring of near-bottom mesoplankton communities in the East China Sea during a series of typhoons. *J Oceanogr* **71**, 115-124, doi:10.1007/s10872-014-0268-y (2015).
- 75 Grossmann, M. M., Nishikawa, J. & Lindsay, D. J. Diversity and community structure of pelagic cnidarians in the Celebes and Sulu Seas, southeast Asian tropical marginal seas. *Deep Sea Research Part I: Oceanographic Research Papers* **100**, 54-63, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.dsr.2015.02.005 (2015).
- 76 Guenard, B., Cardinal-De Casas, A. & Dunn, R. R. High diversity in an urban habitat: are some animal assemblages resilient to long-term anthropogenic change? *Urban Ecosystems*, doi:10.1007/s11252-014-0406-8 (2014).
- 77 Guillaud, L. *et al.* Role of Tropomodulin's Leucine Rich Repeat Domain in the Formation of Neurite-like Processes. *Biochemistry* **53**, 2689-

- 2700, doi:10.1021/bi401431k (2014).
- 78 Gusachenko, I., Sergides, M., Truong, V. G. & Nic Chormaic, S. Optical nanofiber integrated into an optical tweezers for particle manipulation and in-situ fiber probing *Proc. SPIE 9164, Optical Trapping & Optical Manipulation XI, 91642X* **9164**, 91642X-91641-91647, doi:10.1117/12.2061442 (2014).
- 79 Gusachenko, I., Sergides, M., Truong, V. G. & Nic Chormaic, S. Towards polarization-sensitive trapping of nanoparticles in nanoring apertures. *Proc. SPIE 9164, Optical Trapping and Optical Micromanipulation XI, 91642Y* **9164**, 91642Y-91641-91645, doi:10.1117/12.2061521 (2014).
- 80 Gusev, O. *et al.* Comparative genome sequencing reveals genomic signature of extreme desiccation tolerance in the anhydrobiotic midge. *Nature Communications* **5**, 4784, doi:DOI: 10.1038/ncomms5784 (2014).
- 81 Gyoja, F. A genome-wide survey of bHLH transcription factors in the Placozoan *Trichoplax adhaerens* reveals the ancient repertoire of this gene family in metazoan. *Gene* **542**, 29-37, doi:10.1016/j.gene.2014.03.024 (2014).
- 82 Hale, P. J. *et al.* 20 THz broadband generation using semi-insulating GaAs interdigitated photoconductive antennas. *Optics Express* **22**, 26358-26364, doi:http://dx.doi.org/10.1364/OE.22.026358 (2014).
- 83 Hamner, C. *et al.* Dicke-type phase transition in a spin-orbit-coupled Bose-Einstein condensate. *Nature Communications* **5**, 4023, doi:10.1038/ncomms5023 (2014).
- 84 Hamner, C., Zhang, Y., Khomehchi, M. A., Davis, M. J. & Engels, P. Spin-Orbit-Coupled Bose-Einstein Condensates in a One-Dimensional Optical Lattice. *Physical Review Letters* **114**, 070401, doi:10.1103/PhysRevLett.114.070401 (2015).
- 85 Hao, X. *et al.* Novel cathode buffer layer of Ag-doped bathocuproine for small molecule organic solar cell with inverted structure. *Organic Electronics* **15**, 1773-1779, doi:DOI 10.1016/j.orgel.2014.04.030 (2014).
- 86 Harding, J. L. *et al.* Small RNA profiling of *Xenopus* embryos reveals novel miRNAs and a new class of small RNAs derived from intronic transposable elements. *Genome research* **24**, 96-106, doi:10.1101/gr.144469.112 (2014).
- 87 Haroon, A. *et al.* Dendritic diameters affect the spatial variability of intracellular calcium dynamics in computer models. *Frontiers in Cellular Neuroscience*, doi:10.3389/fncel.2014.00168 (2014).
- 88 Harper, K. L., Nazarenko, S. V., Medvedev, S. B. & Connaughton, C. Wave turbulence in the two-layer ocean model. *Journal of Fluid Mechanics* **756**, 309-327, doi:10.1017/jfm.2014.465 (2014).
- 89 Haruki, E. *et al.* A magnetic anti-cancer compound for magnet-guided delivery and magnetic resonance imaging. *Scientific Reports* **9194**, doi:10.1038/srep09194 (2015).
- 90 Hawash, Z., Ono, L. K., Raga, S. R., Lee, M. V. & Qi, Y. Air-Exposure Induced Dopant Re-distribution and Energy Level Shifts in Spin Coated Spiro-MeOTAD Films. *Chemistry of Materials*, doi:10.1021/cm504022q (2014).
- 91 Hayashi, T. *et al.* *Schizosaccharomyces pombe* centromere protein Mis19 links Mis16 and Mis18 to recruit CENP-A through interacting with NMD factors and the SWI/SNF complex. *Genes to Cells*, doi:10.1111/gtc.12152 (2014).
- 92 Hennessy, T. & Busch, T. Detecting atoms trapped in an optical lattice using a tapered optical nanofiber. *Optics Express* **22**, 32509-32519,

- doi:Doi 10.1364/Oe.22.032509 (2014).
- 93 Hildman, J., Kavousanaki, E. G., Burkard, G. & Ribeiro, H. Quantum limit for nuclear spin polarization in semiconductor quantum dots. *Physical Review B* **89**, 1-10 (2014).
- 94 Hinz, D. F. & Fried, E. Translation of Michael Sadowsky's Paper "The Differential Equations of the Möbius Band". *J Elast*, 1-4, doi:10.1007/s10659-014-9491-4 (2014).
- 95 Hinz, D. F. & Fried, E. Translation of Michael Sadowsky's Paper "An Elementary Proof for the Existence of a Developable Möbius Band and the Attribution of the Geometric Problem to a Variational Problem. *J Elast*, 1-4, doi:10.1007/s10659-014-9490-5 (2014).
- 96 Hinz, D. F. & Fried, E. Translation and Interpretation of Michael Sadowsky's Paper "Theory of Elastically Bendable Inextensible Bands with Applications to the Möbius Band". *J Elast*, 1-11, doi:10.1007/s10659-014-9492-3 (2014).
- 97 Hinz, D. F., Panchenko, A., Kim, T. Y. & Fried, E. Motility versus fluctuations in mixtures of self-motile and passive agents. *Soft Matter* **10**, 9082-9089, doi:DOI 10.1039/c4sm01562b (2014).
- 98 Hita Garcia, F., Sarnat, E. M. & Economo, E. P. Revision of the ant genus *Proceratium* Roger (Hymenoptera, Proceratiinae) in Fiji. *Zookeys*, 97-112, doi:10.3897/zookeys.475.8761 (2015).
- 99 Hjelm, A. *et al.* Autotransporter-based antigen display in bacterial ghosts. *Applied and environmental microbiology* **81**, 726-735, doi:10.1128/AEM.02733-14 (2015).
- 100 Ho, N. T. *et al.* Reliability improvement of bulk-heterojunction organic solar cell by using reduced graphene oxide as hole-transport layer. *Phys. Status Solidi A* **211**, 1873-1876, doi:10.1002/pssa.201330611 (2014).
- 101 Iitsuka, T. *et al.* Transposon-mediated targeted and specific knockdown of maternally expressed transcripts in the ascidian *Ciona intestinalis*. *Scientific Reports* **4**, doi:doi:10.1038/srep05050 (2014).
- 102 Ikeda, T. *et al.* Where to deliver baits for deworming urban red foxes for *Echinococcus multilocularis* control: new protocol for micro-habitat modeling of fox denning requirements. *Parasites & Vectors* **7**, 1-17, doi:10.1186/1756-3305-7-357 (2014).
- 103 Imai, F. *et al.* Stem-loop binding protein is required for retinal cell proliferation, neurogenesis, and intraretinal axon pathfinding in zebrafish. *Developmental Biology* **394**, 94-109, doi:10.1016/j.ydbio.2014.07.020 (2014).
- 104 Inoue, T. *et al.* LMTK3 deficiency causes pronounced locomotor hyperactivity and impairs endocytic trafficking. *Journal of Neuroscience* **34**, 5927-5937, doi:10.1523/JNEUROSCI.1621-13.2014 (2014).
- 105 Ito, M. & Doya, K. Distinct Neural Representation in the Dorsolateral, Dorsomedial, and Ventral Parts of the Striatum during Fixed- and Free-Choice Tasks. *Journal of Neuroscience* **35**, 3499-3514, doi: doi: 10.1523/JNEUROSCI.1962-14.2015. (2015).
- 106 Ito-Kureha, T. *et al.* Tropomodulin 1 Expression Driven by NF-kappaB Enhances Breast Cancer Growth. *Cancer research* **75**, 62-72, doi:10.1158/0008-5472.CAN-13-3455 (2015).
- 107 Izumikawa, M. *et al.* Novel thioviridamide derivative-JBIR-140: heterologous expression of the gene cluster for thioviridamide biosynthesis. *J Antibiot (Tokyo)*, doi:10.1038/ja.2015.20 (2015).
- 108 Jithender, E., Katsuyama, I., Zhang, D. X., Johnson, S. & Tanaka, F. J. Aldol reactions of 1,2-diketones catalyzed by amines to afford

- furanose derivatives. *Tetrahedron Letters* **56**, 735-738, doi:DOI 10.1016/j.tetlet.2014.12.094 (2015).
- 109 Jung, M.-C. *et al.* Flat-lying semiconductor-insulator interfacial layer in DNTT thin films. *ACS Applied Materials & Interfaces*, doi:10.1021/am507528e (2014).
- 110 Jung, M.-C. *et al.* Ultrathin polycrystalline 6,13-Bis(triisopropylsilylethynyl)-pentacene films. *Journal of Vacuum Science & Technology A* **33**, doi:10.1116/1.4904063 (2014).
- 111 Jung, M. C., Lee, Y. M. & Kim, K. Effects of carbon doping on chemical states of amorphous Ge₂Sb₂Te₅, measured with synchrotron radiation. *Current Applied Physics* **14**, 1421-1423, doi:10.1016/j.cap.2014.08.014 (2014).
- 112 Kamide, T. *et al.* Oscillation of cAMP and Ca²⁺ in cardiac myocytes: a systems biology approach. *Journal of Physiological Sciences* **65**, 195-200, doi:DOI 10.1007/s12576-014-0354-3 (2015).
- 113 Katsuyama, I., Chouthaiwale, P. V., Akama, H., Cui, H.-L. & Tanaka, F. Fluorogenic probes for aldol reactions: tuning of fluorescence using pi-conjugation systems. *Tetrahedron Letters* **55**, 74-78, doi:10.1016/j.tetlet.2013.10.122 (2014).
- 114 Kavousanaki, E. & Dani, K. M. Optically induced magnetic moments in symmetric graphene quantum dots. *Physical Review B* **91**, 35433, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.91.035433 (2015).
- 115 Khamsehchi, M. A., Zhang, Y., Hamner, C., Busch, T. & Engels, P. Measurement of collective excitations in a spin-orbit-coupled Bose-Einstein condensate. *Physical Review A* **90**, 063624, doi:10.1103/PhysRevA.90.063624 (2014).
- 116 Kim, J.-H., Bohra, M., Singh, V., Cassidy, C. & Sowwan, M. Smart Composite Nanosheets with Adaptive Optical Properties. *ACS Applied Materials & Interfaces* **6(16)**, 13339-13343, doi:10.1021/am5041708 (2014).
- 117 Kim, T.-Y., Dunca, A. A., Rebholz, L. G. & Fried, E. Energy analysis and improved regularity estimates for multiscale deconvolution models of incompressible flows. *Mathematical Methods in the Applied Sciences*, doi:10.1002/mma.3358 (2015).
- 118 Kim, T. Y., Chen, X. M., Dolbow, J. E. & Fried, E. Going to new lengths: Studying the navier stokes-alpha beta equations using the strained spiral vortex model. *Discrete Cont Dyn-B* **19**, 2207-2225, doi:DOI 10.3934/dcdsb.2014.19.2207 (2014).
- 119 Kim, T. Y., Iliescu, T. & Fried, E. B-spline based finite-element method for the stationary quasi-geostrophic equations of the ocean. *Comput Method Appl M* **286**, 168-191, doi:DOI 10.1016/j.cma.2014.12.024 (2015).
- 120 Kirby, N. O. & Fried, E. Gamma-Limit of a Model for the Elastic Energy of an Inextensible Ribbon. *J Elast*, 1-13, doi:10.1007/s10659-014-9475-4 (2014).
- 121 Kitano, H. in *Experimental Medicine/ Vol. 32 実験医学* 1288-1294 (2014).
- 122 Kitano, H. in *SURGERY FRONTIER Vol. 2014-6 SURGERY FRONTIER* 72-74 (188-190) (2014).
- 123 Kitano, H. in *Experimental Medicine Vol. 32 実験医学* 1797-1802 (2014).
- 124 Kitano, H. in *Experimental Medicine Vol. 32 実験医学* 2302-2311 (2014).
- 125 Kitano, H. in *QIAGEN eyes Vol. 10 QIAGEN eyes* 7-9 (2014).
- 126 Kitano, H. in *Drug Delivery System Vol. 29 Drug Delivery System* 386-396 (2014).

- 127 Kitano, H. in *Experimental Medicine* Vol. 32 実験医学 2981-2988 (2014).
- 128 Kitano, H. in *QIAGEN eyes* Vol. 11 *QIAGEN eyes* 7-9 (2014).
- 129 Kitano, H. Building Cities to Withstand the Worst. . *Scientific American / Pour La Science Innovation special issue*, 36-37 (2015).
- 130 Kitano, H. in *Experimental Medicine* Vol. 33 実験医学 100-108 (2015).
- 131 Kitano, H. *et al.* in *Solar Energy 2014* Vol. 40 太陽エネルギー (2014).
- 132 Knox, R. *et al.* NR2B Phosphorylation at Tyrosine 1472 Contributes to Brain Injury in a Rodent Model of Neonatal Hypoxia-Ischemia. *Stroke* **45**, 3040-3047, doi:Doi 10.1161/Strokeaha.114.006170 (2014).
- 133 Kobori, S., Nomura, Y., Miu, A. & Yokobayashi, Y. High-throughput assay and engineering of self-cleaving ribozymes by sequencing. *Nucleic Acids Res*, doi:10.1093/nar/gkv265 (2015).
- 134 Kumar, R. *et al.* Interaction of laser-cooled 87Rb atoms with higher order modes of an optical nanofibre. *New Journal of Physics* **17**, doi:10.1088/1367-2630/17/1/013026 (2015).
- 135 Kumar, S. The effect of elevated pressure, temperature and particles morphology on the carbon dioxide capture using zinc oxide. *J Co2 Util* **8**, 60-66, doi:DOI 10.1016/j.jcou.2014.07.002 (2014).
- 136 Kunkel, S. *et al.* Spiking network simulation code for petascale computers. *Frontiers in Neuroinformatics* **8** (2014).
- 137 Lapasar, E. H. *et al.* Two-Qubit Gate Operation on Selected Nearest-Neighbor Neutral Atom Qubits. *Journal of the Physical Society of Japan* **83**, doi:10.7566/jpsj.83.044005 (2014).
- 138 Laudanski, J., Torben-Nielsen, B., Segev, I. & Shamma, S. Spatially distributed dendritic resonance selectively filters synaptic input. *PLoS Comput Biol* **10**, e1003775, doi:10.1371/journal.pcbi.1003775 (2014).
- 139 Le, N. T., Miyazaki, Y., Takuno, S. & Saze, H. Epigenetic regulation of intragenic transposable elements impacts gene transcription in *Arabidopsis thaliana*. *The 126th meeting of Japanese Society of Breeding*, doi:10.1093/nar/gkv258 (2014).
- 140 Lee, H., Qi, Y., Kwon, S., Salmeron, M. & Park, J. Y. Large changes of graphene conductance as a function of lattice orientation between stacked layers. *Nanotechnology* **22**, doi:10.1088/0957-4484/26/1/015702 (2014).
- 141 Lee, Y. M. *et al.* Only the chemical state of Indium changes in Mn-doped In₃Sb₁Te₂ (Mn: 10 at.%) during multi-level resistance changes. *Scientific Reports* **4**, 4702, doi:10.1038/srep04702 (2014).
- 142 Leier, A., Barrio, M. & Marquez-Lago, T. Exact model reduction with delays: closed-form distributions and extensions to fully bi-directional monomolecular reactions. *Journal of the Royal Society Interface* **11**, 11, doi:10.1098/ (2014).
- 143 Leyden, M. R. *et al.* High Performance Perovskite Solar Cells by Hybrid Chemical Vapor Deposition. *Journal of Material Chemistry A* **in press**, doi:10.1039/C4TA04385E (2014).
- 144 Lindsay, D. J., Grossmann, M. M., Nishikawa, J., Bentlage, B. & Collins, A. G. DNA barcoding of pelagic cnidarians: current status and future prospects. *Bulletin of Plankton Society of Japan* **62**, 39-43 (2015).
- 145 Liu, C. *et al.* New records of ant species from Yunnan, China. *Zookeys*, 17-78, doi:10.3897/zookeys.477.8775 (2015).

- 146 Lopez-Caamal, F. & Marquez-Lago, T. Exact Probability Distributions of Selected Species in Stochastic Chemical Reaction Networks. . *Bulletin of Mathematical Biology* **76**, pp 2334-2361, doi:DOI 10.1007/s11538-014-9985-z (2014).
- 147 Lopez-Caamal, F. & Marquez-Lago, T. Order Reduction of the Chemical Master Equation via Balanced Realisation. *PLoS One* **9**, 13, doi:10.1371/journal.pone.0103521 (2014).
- 148 Lopez-Herta, V. G. *et al.* The neostriatum: two entities, one structure? *Brain Structure and Function*, doi:10.1007/s00429-015-1000-4 (2015).
- 149 Lu, C. S. *et al.* MicroRNA-8 promotes robust motor axon targeting by coordinate regulation of cell adhesion molecules during synapse development. *Philosophical Transactions of the Royal Society B-Biological Sciences* **369**, doi:10.1098/rstb.2013.0517 (2014).
- 150 M, G.-M., V, L.-H., Luis, C.-R. & Arbuthnott, G. W. Extrasynaptic glutamate NMDA receptors: Key players in striatal function. *Neuropharmacology* **89**, 54-63, doi:10.1016/j.neuropharm.2014.09.013 (2015).
- 151 M, N. *et al.* Life history traits of *Lepetodrilus nux* in the Okinawa Trough, based upon gametogenesis, shell size, and genetic variability. *Marine Ecology Progress Series* **505**, 119-130, doi:10.3354/meps10779 (2014).
- 152 Maeda, K. *Stiphodon niraikanaiensis*, a new species of sicydiine goby from Okinawa Island (Gobiidae: Sicydiinae). *Ichthyological Research* **61**, 99-107, doi:10.1007/s10228-013-0379-2 (2014).
- 153 Maeda, K. & Tachihara, K. Larval fish fauna of a sandy beach and an estuary on Okinawa Island, focusing on larval habitat utilization by the suborder Gobioidae. *Fisheries Science* **80**, 1215-1229, doi:DOI: 10.1007/s12562-014-0800-4 (2014).
- 154 Maimaiti, A., Truong, V. G., Sergides, M., Gusachenko, I. & Nic Chormaic, S. Higher order microfibre modes for dielectric particle trapping and propulsion. *Scientific Reports* **5**, doi:10.1038/srep09077 (2015).
- 155 Mann, K. & Edsinger, E. The *Lottia gigantea* shell matrix proteome: re-analysis including MaxQuant iBAQ quantitation and phosphoproteome analysis. *Proteome Sci* **12**, 28, doi:10.1186/1477-5956-12-28 (2014).
- 156 Maruyama, I. N. Mechanisms of activation of receptor tyrosine kinases: monomers or dimers. *Cells* **3**, 304-330 (2014).
- 157 Maruyama, S., Shoguchi, E., Satoh, N. & Minagawa, J. Diversification of the Light-Harvesting Complex Gene Family via Intra- and Intergenic Duplications in the Coral Symbiotic Alga *Symbiodinium*. *PLOS one* **10**, e0119406, doi:DOI:10.1371/journal.pone.0119406 (2015).
- 158 Mehrotra, R. *et al.* Abscisic acid and abiotic stress tolerance - Different tiers of regulation. *Journal of Plant Physiology* **171**, 486-496, doi:10.1016/j.jplph.2013.12.007 (2014).
- 159 Mehrotra, R., Jain, V., Shekhar, C. & Mehrotra, S. Genome wide analysis of *Arabidopsis thaliana* reveals high frequency of AAAGN7CTTT motif. *Meta Gene* **2**, 606-615, doi:10.1016/j.mgene.2014.05.003 (2014).
- 160 Menchon-Enrich, R., McEndoo, S., Busch, T., Ahufinger, V. & Mompert, J. Single-atom interferometer based on two-dimensional spatial adiabatic passage *Physical Review A* **89**, 053611, doi:10.1103/PhysRevA.89.053611 (2014).
- 161 Meshcheryakov, V. A., Yoon, Y., Matsunami, H. & Wolf, M. Purification, crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of the flagellar accessory protein FlaH from the methanogenic archaeon *Methanocaldococcus jannaschii*. *Acta Crystallographica Section F: Structural Biology Communications* **70**, 1543-1545 (2014).
- 162 Mikheyev, A. S. & Linksvayer, T. A. Genes associated with ant social behavior show distinct transcriptional and evolutionary patterns. *eLife*

- 4, e04775, doi:10.7554/eLife.04775 (2015).
- 163 Mikheyev, A. S. & Tin, M. M.-Y. A first look at the Oxford Nanopore MinION sequencer. *Molecular Ecology Resources* (2014) **14**, 1097-1102, doi:10.1111/1755-0998.12324 (2014).
- 164 Mikheyev, A. S., Tin, M. M.-Y., Rheindt, F. E. & Cros, E. Degenerate adaptor sequences for detecting PCR duplicates in reduced representation sequencing data improve genotype calling accuracy. *Molecular Ecology Resources* (2014), doi:10.1111/1755-0998.12314 (2014).
- 165 Mise, T., Matsunami, H., Samatey, F. A. & Maruyama, N. I. Crystallization and preliminary X-ray diffraction analysis of the periplasmic domain of the Escherichia coli aspartate receptor Tar and its complex with aspartate. *Acta Crystallographica Section F-Structural Biology and Crystallization Communications* 1219-1223, doi: doi:10.1107/S2053230X14014733 (2014).
- 166 Miyakawa, M. O. & Mikheyev, A. S. Males are here to stay: fertilization enhances viable egg production by clonal queens of the little fire ant (*Wasmannia auropunctata*). *Naturwissenschaften* **102**, 15, doi:10.1007/s00114-015-1265-8 (2015).
- 167 Miyazaki, K. W., Miyazaki, K. & Doya, K. in *Seitaino Kagaku* Vol. 66 生体の科学 38-43 (2015).
- 168 Miyzaki, W. K. *et al.* Optogenetic Activation of Dorsal Raphe Serotonin Neurons Enhances Patience for Future Rewards. *Curr Biol*, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.cub.2014.07.041 (2014).
- 169 Mochizuki, T. & Masai, I. The lens equator: A platform for molecular machinery that regulates the switch from cell proliferation to differentiation in the vertebrate lens. *Development Growth & Differentiation* **56**, 387-401, doi:10.1111/dgd.12128 (2014).
- 170 Mochizuki, T., Suzuki, S. & Masai, I. Spatial pattern of cell geometry and cell-division orientation in zebrafish lens epithelium. *Biology open*, doi:10.1242/bio.20149563 (2014).
- 171 Moule, A. J. *et al.* Mixed interlayers at the interface between PEDOT:PSS and conjugated polymers provide charge transport control. *Journal of Materials Chemistry C* **3**, 2664-2676, doi:10.1039/c4tc02251c (2015).
- 172 Mungpakdee, S. *et al.* Massive gene transfer and extensive RNA editing of a symbiotic dinoflagellate plastid genome. *Genome Biol. Evol.* **6**, 1408-0422, doi:doi: 10.1093/gbe/evu109 (2014).
- 173 Murakami, I. *et al.* Metabolism of skin-absorbed resveratrol into its glucuronized form in mouse skin. *PLoS One* **9**, e115359, doi:10.1371/journal.pone.0115359 (2014).
- 174 Muramoto, Y. *et al.* Disease Severity Is Associated with Differential Gene Expression at the Early and Late Phases of Infection in Nonhuman Primates Infected with Different H5N1 Highly Pathogenic Avian Influenza Viruses. *Journal of Virology* **88**, 8981-8997, doi:10.1128/jvi.00907-14 (2014).
- 175 Murn, J. *et al.* Control of a neuronal morphology program by an RNA-binding zinc finger protein, Unkempt. *Genes Dev* **29**, 501-512, doi:10.1101/gad.258483.115 (2015).
- 176 Nah, G. S., Tay, B. H., Brenner, S., Osato, M. & Venkatesh, B. Characterization of the Runx gene family in a jawless vertebrate, the Japanese lamprey (*Lethenteron japonicum*). *PLoS One* **9**, e113445, doi:10.1371/journal.pone.0113445 (2014).
- 177 Nakajima, Y. *et al.* Cross-Species, Amplifiable Microsatellite Markers for Neoverrucid Barnacles from Deep-Sea Hydrothermal Vents

- Developed Using Next-Generation Sequencing. *International Journal of Molecular Sciences* **15**, 14364-14371, doi:[10.3390/ijms150814364](https://doi.org/10.3390/ijms150814364) (2014).
- 178 Nakamura, M., Chen, C. & Mitarai, S. Insights into life-history traits of Munidopsis spp. (Anomura: Munidopsidae) from hydrothermal vent fields in the Okinawa Trough, in comparison with the existing data. *Deep Sea Research Part I: Oceanographic Research Papers* **100**, 48-53, doi:<http://dx.doi.org/10.1016/j.dsr.2015.02.007> (2015).
- 179 Nakamura, M., Okaji, K., Higa, Y., Yamakawa, E. & Mitarai, S. Spatial and temporal population dynamics of the crown-of-thorns starfish, *Acanthaster planci*, over a 24-year period along the central west coast of Okinawa Island, Japan. *Marine Biology*, 1-10, doi:[10.1007/s00227-014-2524-5](https://doi.org/10.1007/s00227-014-2524-5) (2014).
- 180 Nakamura, M. *et al.* Life history traits of *Lepetodrilus nux* in the Okinawa Trough, based upon gametogenesis, shell size, and genetic variability. *Marine Ecology Progress Series* **505**, 119-130, doi:[10.3354/meps10779](https://doi.org/10.3354/meps10779) (2014).
- 181 Nakamura, Y. *et al.* Nanoscale Distribution of Presynaptic Ca²⁺ Channels and Its Impact on Vesicular Release during Development. *Neuron* **85**, 145-158, doi:[DOI 10.1016/j.neuron.2014.11.019](https://doi.org/10.1016/j.neuron.2014.11.019) (2015).
- 182 Nakano, T. *et al.* Mimicking subsecond neurotransmitter dynamics with femtosecond laser stimulated nanosystems. *Scientific Reports* **4**, 1-6, doi:[10.1038/srep05398](https://doi.org/10.1038/srep05398) (2014).
- 183 Nakano, T., Chin, C., Wickens, J. & Dani, K. M. A novel drug delivery method for neuropharmacological research, using liposomes and lasers. *Neurotransmitter* **1**, doi:<http://dx.doi.org/10.14800/nt.424> (2014).
- 184 Nakano, T., Otsuka, M., Yoshimoto, J. & Doya, K. A Spiking Neural Network Model of Model-Free Reinforcement Learning with High-Dimensional Sensory Input and Perceptual Ambiguity. *Plos One*, doi:[10.1371/journal.pone.0115620](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0115620) (2015).
- 185 Negrello, M. Valentino Braitenberg: From neuroanatomy to behavior and back. *Biological Cybernetics* **108**, 527-539, doi:[DOI 10.1007/s00422-012-0533-3](https://doi.org/10.1007/s00422-012-0533-3) (2014).
- 186 Nhu Thuy, H. *et al.* Reliability improvement of bulk-heterojunction organic solar cell by using reduced graphene oxide as hole-transport layer. *Physica Status Solidi a-Applications and Materials Science* **211**, 1873-1876, doi:[10.1002/pssa.201330611](https://doi.org/10.1002/pssa.201330611) (2014).
- 187 Obrochta, S. P., Yokoyama, Y., Moren, J. & Crowley, T. J. Conversion of GISP2-based sediment core age models to the GICC05 extended chronology. *Quaternary Geochronology* **20**, 1-7, doi:[10.1016/j.quageo.2013.09.001](https://doi.org/10.1016/j.quageo.2013.09.001) (2014).
- 188 Ohki, S., Morita, M., Kitanobo, S., Kowalska, A. A. & Kowalski, R. K. Cryopreservation of *Acropora digitifera* sperm with use of sucrose and methanol based solution. *Cryobiology* **69**, 134-139, doi:[10.1016/j.cryobiol.2014.06.005](https://doi.org/10.1016/j.cryobiol.2014.06.005) (2014).
- 189 Okada, G. *et al.* in *Seishin shinkeigaku zasshi = Psychiatria et neurologia Japonica* Vol. 116 精神神経学会雑誌 825-831 (2014).
- 190 Okamoto, M., Kobayashi, K., Hasegawa, E. & Ohkawara, K. Sexual and asexual reproduction of queens in a myrmicine ant, *Vollenhovia emeryi* (Hymenoptera: Formicidae). *Myrmecological News* **21**, 13-17 (2014).
- 191 Okuyama, T. *et al.* Accelerating ODE-Based Simulation of General and Heterogeneous Biophysical Models Using a GPU. *Ieee T Parallel Distr* **25**, 1966-1975, doi:[Doi 10.1109/TPds.2013.198](https://doi.org/10.1109/TPds.2013.198) (2014).
- 192 Ono, L. K., Raga, S. R., Wang, S., Kato, Y. & Qi, Y. Temperature-dependent hysteresis effects on perovskite-based solar cells. *Journal of*

- Materials Chemistry A* doi:10.1039/C4TA04969A (2014).
- 193 Ono, L. K., Wang, S., Kato, Y., Raga, S. R. & Qi, Y. Fabrication of Semi-Transparent Perovskite Films with Centimeter-scale Superior Uniformity by the Hybrid Deposition Method. *Energy Environmental Science* **in press**, doi:10.1039/C4EE02539C (2014).
- 194 Ozawa, R., Udagawa, M., Akagi, Y. & Motome, Y. Reconstruction of Chiral Edge States in a Magnetic Chern Insulator. *Journal of the Physical Society of Japan* **83**, doi:10.7566/jpsj.83.073706 (2014).
- 195 Perk, C. G., Wickens, J. R. & Hyland, B. I. Differing properties of putative fast-spiking interneurons in the striatum of two rat strains. *Neuroscience*, doi:10.1016/j.neuroscience.2015.02.051 (2015).
- 196 Pluskal, T., Ueno, M. & Yanagida, M. Genetic and Metabolomic Dissection of the Ergothioneine and Selenoneine Biosynthetic Pathway in the Fission Yeast, *S. pombe*, and Construction of an Overproduction System. *PLoS One* **9**, e97774, doi:10.1371/journal.pone.0097774 (2014).
- 197 Raga, S. R. *et al.* Influence of Air Annealing on High Efficiency Planar Structure Perovskite Solar Cells. *Chemistry of Materials* **27**, 1597–1603, doi:10.1021/cm5041997 (2015).
- 198 Rich, T. H. *et al.* Serendipaceratops arthurclarkei Rich & Vickers-Rich, 2003 is an Australian Early Cretaceous ceratopsian. *Alcheringa: An Australasian Journal of Palaeontology* **38**, doi:10.1080/03115518.2014.894809 (2014).
- 199 Roome, C. J. & Kuhn, B. Chronic cranial window with access port for repeated cellular manipulations, drug application, and electrophysiology. *Frontiers in Cellular Neuroscience* **8**, 379, doi:10.3389/fncel.2014.00379 (2014).
- 200 Saitoh, S. *et al.* Mechanisms of expression and translocation of major fission yeast glucose transporters regulated by CaMKK/phosphatases, nuclear shuttling and TOR. *Mol Biol Cell*, doi:10.1091/mbc.E14-11-1503 (2014).
- 201 Saitoh, S. & Yanagida, M. Does a shift to limited glucose activate checkpoint control in fission yeast? *FEBS letters*, doi:10.1016/j.febslet.2014.04.047 (2014).
- 202 Samanta, D. *et al.* Scaling of Near-Wall Flows in Quasi-Two-Dimensional Turbulent Channels. *Physical Review Letters* **113**, doi:10.1103/PhysRevLett.113.024504 (2014).
- 203 Sánchez-Garduño, F., Miramontes, P. & Marquez-Lago, T. T. Role reversal in a predator–prey interaction. *Royal Society Open Science* **1**: **140186.**, doi:10.1098/rsos.140186 (2014).
- 204 Sarnat, E. M., Rabeling, C., Economo, E. P. & Wilson, E. O. First record of a species from the New World Pheidole flavens-complex (Hymenoptera: Formicidae) introduced to the southwestern Pacific. *BioInvasions Records* **3**, 301-307, doi:http://dx.doi.org/10.3391/bir.2014.3.4.13 (2014).
- 205 Sassa, T., Murayama, T. & Maruyama, I. Decision making in *C. elegans* chemotaxis to alkaline pH. *Faseb Journal* **28** (2014).
- 206 Satoh, N., Rokhsar, D. S. & Nishikawa, T. Chordate evolution and the three-phylum system. *Proceedings of The Royal Society B* **281**, 20141729, doi:10.1098/rspb.2014.1729 (2014).
- 207 Satoh, N. *et al.* On a Possible Evolutionary Link of the Stomochord of Hemichordates to Pharyngeal Organs of Chordates. *Genesis* **52**, 925-934, doi:DOI: 10.1002/dvg.22831 (2014).
- 208 Satou, Y. *et al.* Sustained Heterozygosity Across a Self-Incompatibility Locus in an Inbred Ascidian. *Molecular Biology and Evolution*,

- doi:doi: 10.1093/molbev/msu268 (2014).
- 209 Seemann, K. M. & Kuhn, B. Multi-photon excited luminescence of magnetic FePt core-shell nanoparticles. *Biomedical Optics Express* **5**, 2446-2457, doi:10.1364/boe.5.002446 (2014).
- 210 Seguin, B. & Fried, E. Roughening it — evolving irregular domains and transport theorems. *Mathematical Models and Methods in Applied Sciences* **24**, 1729-1779, doi:doi:10.1142/S0218202514500067 (2014).
- 211 Seguin, B. & Fried, E. Stable and unstable helices: soap films in cylindrical tubes. *Calculus of Variations and Partial Differential Equations*, doi:10.1007/s00526-014-0813-y (2015).
- 212 Seguin, B., Hinz, D. F. & Fried, E. Extending the Transport Theorem to Rough Domains of Integration. *Applied Mechanics Reviews* **66**, 050802-050802, doi:10.1115/1.4026910 (2014).
- 213 Sharma, V. *et al.* The rheology of aqueous solutions of ethyl hydroxy-ethyl cellulose (EHEC) and its hydrophobically modified analogue (hmEHEC): extensional flow response in capillary break-up, jetting (ROJER) and in a cross-slot extensional rheometer. *Soft Matter Advanced Article*, NA, doi:10.1039/C4SM01661K (2015).
- 214 Shinzato, C., Mungpakdee, S., Satoh, N. & Shoguchi, E. A genomic approach to coral-dinoflagellate symbiosis: studies of *Acropora digitifera* and *Symbiodinium minutum*. *Frontiers in Microbiology* **5**, doi:10.3389/fmicb.2014.00336 (2014).
- 215 Shinzato, C. *et al.* Development of novel, cross-species microsatellite markers for *Acropora* corals using next-generation sequencing technology. *Frontiers in Marine Science* **1**, 1-5, doi:10.3389/fmars.2014.00011 (2014).
- 216 Shinzato, C. *et al.* Development of novel, cross-species microsatellite markers for *Acropora* Corals using next-generation sequencing technology. *Frontiers in Marine Science* **1**, doi:doi: 10.3389/fmars.2014.00011 (2014).
- 217 Shirai, Y. T., Suzuki, T., Morita, M., Takahashi, A. & Yamamoto, T. Multifunctional roles of the mammalian CCR4-NOT complex in physiological phenomena. *Front Genet* **5**, 286, doi:10.3389/fgene.2014.00286 (2014).
- 218 Shirasawa, K. & Shintake, T. in *Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan* Vol. 68 日本海水学会誌 PP 282-286 (2014).
- 219 Shoguchi, E. in *The Japanese Journal of Protozoology* Vol. 47 原生動物学雑誌 (2014).
- 220 Simon, C. M., Hepburn, I., Chen, W. & De Schutter, E. The role of dendritic spine morphology in the compartmentalization and delivery of surface receptors. *Journal of Computational Neuroscience* **36**, 483-497, doi:10.1007/s10827-013-0482-4 (2014).
- 221 Sinclair, R. Do rational numbers play a role in selection for stochasticity? *Frontiers in Computational Neuroscience* **8**, Article 113, doi:10.3389/fncom.2014.00113 (2014).
- 222 Sinclair, R. M. Do rational numbers play a role in selection for stochasticity? *Frontiers in Computational Neuroscience* **8**, doi:10.3389 (2014).
- 223 Sinclair, R. M. Persistence in the shadow of killers. *Frontiers in Microbiology* **5**, doi:10.3389 (2014).
- 224 Sindona, A., Goold, J., Lo Gullo, N. & Plastina, F. Statistics of the work distribution for a quenched Fermi gas. *New Journal of Physics* **16**, doi:10.1088/1367-2630/16/4/045013 (2014).
- 225 Singh, V. *et al.* Heterogeneous Gas-Phase Synthesis and Molecular Dynamics Modeling of Janus and Core-Satellite Si-Ag Nanoparticles.

- Journal of Physical Chemistry C* **118(25)**, 13869-13875, doi:10.1021/jp500684y (2014).
- 226 Singh, V. *et al.* Assembly of tantalum porous films with graded oxidation profile from size-selected nanoparticles. *Journal of Nanoparticle Research* **16**, 1-10, doi:10.1007/s11051-014-2373-7 (2014).
- 227 Singh, V., Ram, S. & Srinivas, V. Ferromagnetic nickel filled in borate shell by controlled oxidation-crystallization of boride in air. *Journal of Alloys and Compounds* **610**, 100-106, doi:10.1016/j.jallcom.2014.04.163 (2014).
- 228 Sugimoto, Y. *et al.* hiCLIP reveals the in vivo atlas of mRNA secondary structures recognized by Staufen 1. *Nature* **519**, 491-494, doi:10.1038/nature14280 (2015).
- 229 Sugiyama, H. & Chandler, D. E. Sperm guidance to the egg finds calcium at the helm. *Protoplasma* **251(3)**, 461-475, doi:10.1007/s00709-013-0550-7 (2014).
- 230 Tagawa, K. *et al.* A cDNA Resource for Gene Expression Studies of a Hemichordate, *Ptychodera flava*. *Zoological Science* **31**, 414-420, doi:10.2108/zs130262 (2014).
- 231 Taillefumier, M., Robert, J., Henley, C. L., Moessner, R. & Canals, B. Semiclassical spin dynamics of the antiferromagnetic Heisenberg model on the kagome lattice. *Physical Review B* **90**, doi:10.1103/PhysRevB.90.064419 (2014).
- 232 Takahashi, A., Lee, R. X., Iwasato, T., Itohara, S., Arima, H., Bettler, B., Miczek, K. A., & Koide, T. . Glutamate input in the dorsal raphe nucleus as a determinant of escalated aggression in male mice. *The Journal of Neuroscience* (2015).
- 233 Taketani, B. G., Fogarty, T., Kajari, E., Busch, T. & Morigi, G. Quantum reservoirs with ion chains. *Physical Review A* **90**, 012312, doi:10.1103/PhysRevA.90.012312 (2014).
- 234 Takeuchi, T. in *Chemistry and Biology* Vol. 52 化学と生物 424-425 (2014).
- 235 Tanaka, F. in *MEXT Grant Advanced Molecular Transformations by Organocatalysts News Letter* Vol. No. 39 有機分子触媒による未来型分子変換 *News Letter* (2015).
- 236 Tin, M. M.-Y., Economo, E. P. & Mikheyev, A. S. Sequencing Degraded DNA from Non-Destructively Sampled Museum Specimens for RAD-Tagging and Low-Coverage Shotgun Phylogenetics. *PLoS One* **9**, doi:10.1371/journal.pone.0096793 (2014).
- 237 Tin, M. M. Y., Rheindt, F. E., Cros, E. & Mikheyev, A. S. Degenerate adaptor sequences for detecting PCR duplicates in reduced representation sequencing data improve genotype calling accuracy. *Mol Ecol Resour* **15**, 329-336, doi:Doi 10.1111/1755-0998.12314 (2015).
- 238 Todres, R. E. Translation of W. Wunderlich's "On a Developable Möbius Band". *J Elast*, 1-12, doi:10.1007/s10659-014-9489-y (2014).
- 239 Torben-Nielsen, B. An efficient and extendable python library to analyze neuronal morphologies. *Neuroinformatics* **12**, 619-622, doi:10.1007/s12021-014-9232-7 (2014).
- 240 Torben-Nielsen, B. & De Schutter, E. Context-aware modeling of neuronal morphologies. *Frontiers in Neuroanatomy* **8**, doi:10.3389/fnana.2014.00092 (2014).
- 241 Tsumoru, S. Building a Sustainable World. *Scientific American* 41 (2015).
- 242 Tu N. Le, Yuji Miyazaki¹, Shohei Takuno & Saze, H. Epigenetic regulation of intragenic transposable elements impacts gene transcription in *Arabidopsis thaliana*. doi:10.1093/nar/gkv258 (2014).

- 243 Ueda, H. T. Magnetic Phase Diagram Slightly below the Saturation Field in the Stacked J1–J2 Model in the Square Lattice with the JC Interlayer Coupling. *Journal of the Physical Society of Japan* **84**, 23601, doi:10.7566/JPSJ.84.023601 (2015).
- 244 Vernieres, J. *et al.* Single-step gas phase synthesis of stable iron aluminide nanoparticles with soft magnetic properties. *APL Materials* **2**, doi:10.1063/1.4901345 (2014).
- 245 Wakeman, K. C., Reimer, J. D., Jenke-Kodama, H. & Leander, B. S. Molecular Phylogeny and Ultrastructure of *Calicium glossobalani* n. gen. et sp (Apicomplexa) from a Pacific *Glossobalanus minutus* (Hemichordata) Confounds the Relationships Between Marine and Terrestrial Gregarines. *Journal of Eukaryotic Microbiology* **61**, 343-353, doi:10.1111/jeu.12114 (2014).
- 246 Wakeman, K. C., Yamaguchi, A., Roy, M. C. & Jenke-Kodama, H. Morphology, phylogeny and novel chemical compounds from *Coolia malayensis* (Dinophyceae) from Okinawa, Japan. *Harmful Algae* **44**, 8-19, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.hal.2015.02.009 (2015).
- 247 Wang, P. *et al.* Lead-silicate glass optical microbubble resonator. *Applied Physics Letters* **106**, 061101, doi:10.1063/1.4908054 (2015).
- 248 Wang, Q. *et al.* X-ray Visible and Uniform Alginate Microspheres Loaded with in Situ Synthesized BaSO₄ Nanoparticles for in Vivo Transcatheter Arterial Embolization. *Biomacromolecules Article ASAP*, 5b00027, doi:10.1021/acs.biomac.5b00027 (2015).
- 249 Ward, J. M., Dhasmana, N. & Nic Chormaic, S. Hollow core, whispering gallery resonator sensors. *The European Physical Journal Special Topics* **223**, 1917-1935, doi:10.1140/epjst/e2014-02236-5 (2014).
- 250 Ward, J. M., Madugani, R., Yang, Y. & Nic Chormaic, S. Asymmetric response function of the transduction spectrum for a microsphere pendulum. *SPIE Proceedings, Laser Resonators, Microresonators, and Beam Control XVII* **9343**, 1-6, doi:10.1117/12.2077323 (2015).
- 251 Ward, J. M., Maimaiti, A., Le, V. H. & Nic Chormaic, S. Optical micro- and nanofiber pulling rig. *Review of Scientific Instruments* **85**, 1-10, doi:10.1063/1.4901098 (2014).
- 252 Ward, J. M., Yang, Y. & Nic Chormaic, S. PDMS quasi-droplet microbubble resonator. *SPIE Proceedings, Laser Resonators, Microresonators, and Beam Control XVII* **9343**, 1-7, doi:10.1117/12.2078658 (2015).
- 253 Watanabe, T. *et al.* Influenza virus-host interactome screen as a platform for antiviral drug development. *Cell host & microbe* **16**, 795-805, doi:10.1016/j.chom.2014.11.002 (2014).
- 254 Wepfer, P. H. & Linder, H. P. The taxonomy of Flagellaria (Flagellariaceae). *Aust Syst Bot* **27**, 159-179, doi:Doi 10.1071/Sb13048 (2014).
- 255 White, A. C., Anderson, B. P. & Bagnato, V. S. Vortices and turbulence in trapped atomic condensates. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* **111**, 4719-4726, doi:DOI 10.1073/pnas.1312737110 (2014).
- 256 Wong, G. W. *et al.* Ancient origin of mast cells. *Biochem Biophys Res Commun* **451**, 314-318, doi:doi: 10.1016/j.bbrc.2014.07.124. (2014).
- 257 Xu, L. *et al.* Synthesis of copper nanoparticles by a T-shaped microfluidic device. *RSC Advances* **4**, 25155-25159, doi:10.1039/c4ra04247f (2014).
- 258 Xu, X., Nakazawa, N. & Yanagida, M. Condensin HEAT Subunits Required for DNA Repair, Kinetochores/Centromere Function and Ploidy Maintenance in Fission Yeast. *PLoS One* **10**, e0119347 (2015).
- 259 Yanagida, M. The Role of Model Organisms in the History of Mitosis Research. *Csh Perspect Biol* **6**, doi:ARTN a015768, DOI 10.1101/cshperspect.a015768 (2014).

- 260 Yasuoka, Y. *et al.* Occupancy of tissue-specific cis-regulatory modules by Otx2 and TLE/Groucho for embryonic head specification. *Nature Communications* **5**, doi:10.1038/ncomms5322 (2014).
- 261 Yazaki-Sugiyama, Y., Yanagihara, S., Fuller, P. M. & Lazarus, M. Acute inhibition of a cortical motor area impairs vocal control in singing zebra finches. *Eur J Neurosci* **41**, 97-108, doi:10.1111/ejn.12757 (2015).
- 262 Zamalloa, C. Z., Ng, H., Chi-Hin, H., Chakraborty, P. & Gioia, G. Spectral analogues of the law of the wall, the defect law and the log law. *Journal of Fluid Mechanics* **757**, 498-513, doi:http://dx.doi.org/10.1017/jfm.2014.497 (2014).
- 263 Zavala, E. & Marquez-Lago, T. T. The Long and Viscous Road: Uncovering Nuclear Diffusion Barriers in Closed Mitosis. *PLoS Computational Biology* **10**, doi:10.1371/journal.pcbi.1003725 (2014).
- 264 Zavala, E. & Marquez-Lago, T. T. Stochastic Discrete Effects in a Simple Gene Circuit with Delayed Negative Feedback. *Biophysical journal* **106**, 376a-376a (2014).
- 265 Zayasu, Y., Miyazaki, K., Lien, Y.-T. L. & Okubo, N. Direct evidence of sexual reproduction in the zebra coral, *Oulastrea crispata* (Anthozoa, Scleractinia), in Japan. *Invertebrate Reproduction & Development*, doi:DOI:10.1080/07924259.2015.1006340 (2015).
- 266 Zhang, D., Johnson, S., Cui, H.-L. & Tanaka, F. Synthesis of furanose spirooxindoles via 1,8-Diazabicyclo[5.4.0]undec-7-ene (DBU)-catalyzed aldol reactions of a pyruvic aldehyde derivative. *Asian Journal of Organic Chemistry* **3**, 391-394, doi:10.1002/ajoc.201400016 (2014).
- 267 Zhang, H. & Sinclair, R. Namibian fairy circles and epithelial cells share emergent geometric order. *Ecological Complexity* **22**, 32-35, doi:10.1016/j.ecocom.2015.02.001 (2015).
- 268 Zhao, J. *et al.* Physical Crystallization of silicon nanoclusters with inert gas temperature control. *The American Physical Society* **91**, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.91.035419 (2015).
- 269 Zhao, Y., Bai, T., Shao, Q., Jiang, S. & Shen, A. Q. Thermoresponsive self-assembled NiPAm-zwitterion copolymers. *Polymer Chemistry* **6**, 1066-1077, doi:10.1039/C4PY01553C (2015).
- 270 Zhao, Y., Cheung, P. & Shen, A. Q. Microfluidic flows of wormlike micellar solutions. *Advances in Colloid and Interface Science*, doi:10.1016/j.cis.2014.05.005 (2014).

学術交流協定リスト(平成27年1月11日現在)

No.	大学・機関	国	締結日	満了日	協定のタイプ
1	同志社大学	日本	2009/4/1	2012/3/31	教育・研究に関する協定書
2	奈良先端科学技術大学院大学	日本	2009/4/1	2012/3/31	学術交流協定書
3	京都大学大学院・情報学研究科	日本	2010/3/31		連携協力に関する協定書
4	エジンバラ大学	英国	2010/3/31	2015/3/31	科学協力に関する覚書
5	オタワ大学	カナダ			覚書
6	アントワープ大学	ベルギー	2010/6/24	2012/3/31	覚書
7	エルサレム大学	パレスチナ自治政府	2011/3/5	2016/3/4	科学・学術協力に関する覚書
8	ユニバーシティ・カレッジ・コーク	アイルランド	2011/10/20	2016/10/19	科学・学術協力に関する覚書
9	琉球大学	日本	2012/4/1	2017/3/31	連携協力に関する協定書
10	沖縄工業高等専門学校	日本	2012/5/22	2017/5/21	連携協力に関する協定書
11	ウッズホール海洋生物学研究所	米国	2012/5/19	2017/5/18	科学協力に関する協定書
12	ウッズホール海洋研究所	米国	2012/6/11	2017/6/10	科学協力に関する協定書
13	オタゴ大学	ニュージーランド	2011/10/2	2016/10/1	覚書
14	北海道大学大学院理学院	日本	2012/8/1	2017/7/31	履修に関する協定書
15	九州大学・博士課程リーディングプログラム	日本	2012/10/22	2019/10/21	覚書
16	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科	日本	2012/9/1	2015/3/31	特別研究学生
17	大阪大学大学院医学系研究科	日本	2012/9/1	2015/3/31	特別研究学生
18	京都大学大学院情報学研究科	日本	2013/4/1	2018/3/31	特別研究学生
19	東京大学医科学研究所	日本	2013/7/2	2018/7/1	学術交流協定
20	沖縄美ら島財団	日本	2013/8/29	2018/8/28	科学・学術協力に関する基本協定書
21	カリフォルニア大学 ・ パークレー校	米国	2013/10/11	2018/10/10	科学・学術協力に関する基本協定書
22	国立台湾大学	台湾	2014/1/17	2019/1/16	科学・学術協力に関する基本協定書
23	東京大学	日本	2014/1/28	2019/1/27	科学・学術協力に関する基本協定書
24	東京大学 ・ 理学部	日本	2014/1/28	2019/1/27	学生交流に関する覚書
25	テキサス テック 大学	米国	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
26	テキサス テック 大学 ・ 環境・トキシコロジー学部	米国	2013/4/1	2018/3/31	学生交流に関する覚書 特別研究学生
27	アレキサンドリア大学	エジプト	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
28	アレキサンドリア大学 ・ 理学部	エジプト	2014/2/1	2019/1/31	学生交流に関する覚書 特別研究学生
29	ザ・フリーステイト大学	南アフリカ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
30	クレタ大学	ギリシャ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
31	クレタ大学 ・ 理学・工学部	ギリシャ	2013/10/1	2018/9/30	学生交流に関する覚書 特別研究学生

No	事業名	新規・継続	委託者・交付元	連携機関	事業内容	備考
1	知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業(沖縄県)	継続	沖縄科学技術振興センター	琉球大学, Meiji Seika ファルマ, AVSS, OPバイオファクトリ	沖縄の生物資源とネットワークを活用した医薬品探索研究	田中富士枝 准教授
2	バイオ産業活性化支援事業(沖縄県)	継続	沖縄 TLO トロピカルテクノセンター	沖縄県環境科学センター 沖縄県環境技術管理センター クリエイトES	微生物燃料電池を用いた新規排水処理技術の開発	イゴール・ゴリヤニン 教授
3	亜熱帯・島しょエネルギー基盤技術研究事業(沖縄県)	継続	ソニーCSL	沖創工 SBO	分散型DC給配電システムの構築	北野宏明 教授
4	知的産業クラスター形成に向けた研究拠点構築事業(沖縄県)	継続	NIAC		生活習慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発	佐瀬英俊 准教授
5	大学発新産業創出拠点プロジェクト(START)	継続	文科省	バイオ・サイト・キャピタル株式会社	分子分解電子線トモグラフィーによる巨大分子の3次元可視化	ウルフ・スコグラント 教授
6	知的産業クラスター形成推進事業(ベンチャー創出支援事業)	新規	沖縄高等工業専門学校		シビランの免疫調節機構を活用した健康食品及び医薬品の開発・事業化	山本雅 教授
7	受託研究等(産学連携)	継続		環境系企業A	Confidential	佐藤矩行 教授
8	受託研究等(産学連携)	継続		自動車メーカーA	Confidential	銅谷賢治 教授
9	受託研究等(産学連携)	継続		医薬品共同開発組合C	Confidential	佐藤矩行 教授
10	受託研究等(産学連携)	継続		環境系企業B	Confidential	御手洗哲司 准教授
11	マテリアルトランスファー契約 2社	新規		製薬企業	Confidential	マティアス・ウォルフ 准教授 石川裕規 准教授
12	秘密保持契約 5社	新規		診断薬、情報関連他	Confidential	
13	機関連携協定	新規		住宅メーカー	Confidential	機関として
14	その他国内助成金 2件	新規	沖縄県		産学連携支援	機関として

イベント

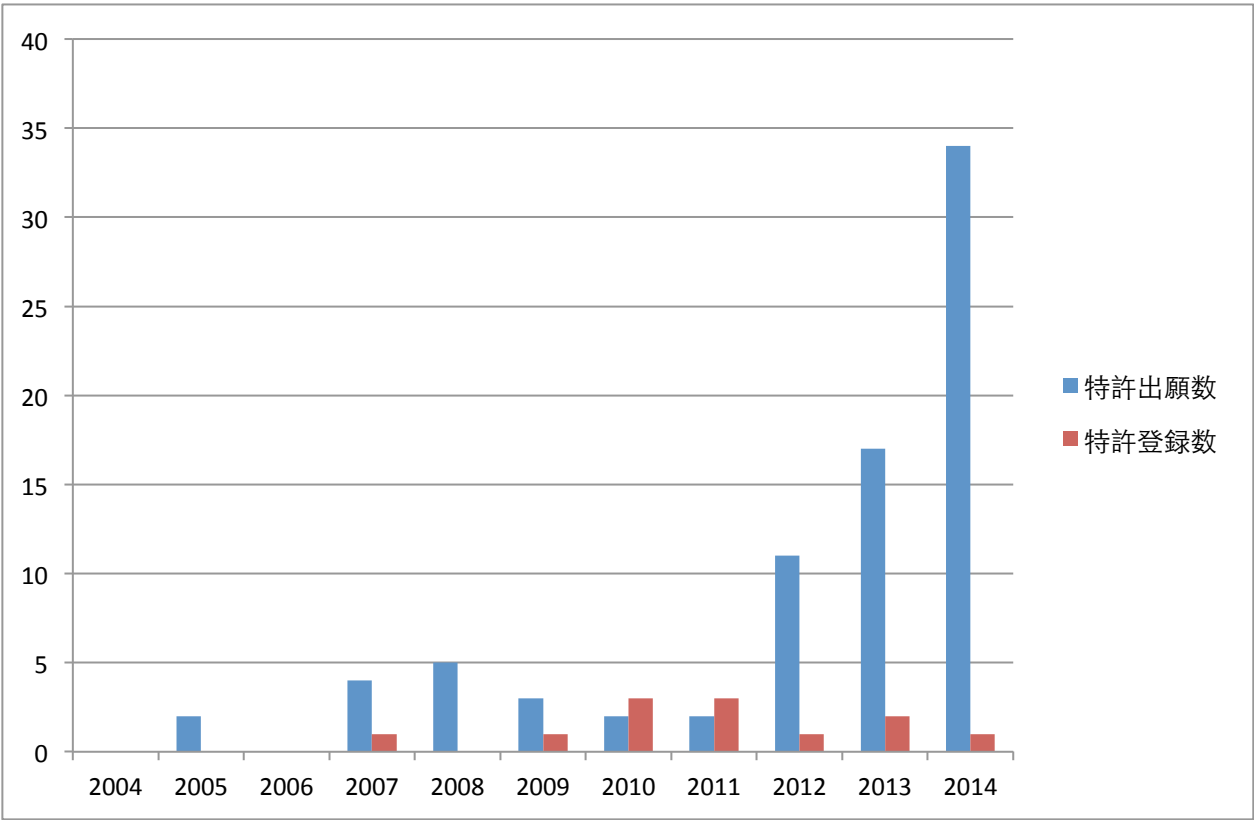
No	事業名	開催日	場所	主催	内容	備考
1	CPhI Japan 2014 国際医療品原料・中間体展	2014/4/9-11	東京ビッグサイト	CPhI Japan 運営事務局	ブース展示およびスタッフによる講演	
2	BioJapan 2014	2014/10/15-17	パシフィコ横浜	バイオジャパン実行委員会	ブース展示	
3	Nanotech 2015 第14回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議	2015/1/28-30	東京ビッグサイト	nanotech実行委員会	ブースの展示	

特許の評価会議開催回数 13 回

知的財産関連セミナー

No	演題	開催日	講演者
1	特許の基礎と実践: 大学研究者が知っておくべきこと	2014/9/11-12	小林明子
2	アカデミアおよび産業界における研究: 増大する影響力	2015/2/9-10	大津賀伝市郎

Calender Year	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
特許出願数	0	2	0	4	5	3	2	2	11	17	34
特許登録数	0	0	0	1	0	1	3	3	1	2	1



2015/3/31現在

○事務局職員(役職別・性別)

区分	定年制職員				任期制職員					派遣職員				非常勤職員				合計					
	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち出向者	うち外国人	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち出向者	うち外国人	
首席副学長					1		1		1				0				0	0	0	0	0	0	
学長特別顧問					1		1		0				0				0	1	0	1	0	0	
教員担当学監					1		1		1				0				0	1	0	1	0	1	
研究科長					1		1		1				0				0	1	0	1	0	1	
ビジティングプロフェッサー					1		1		1				0				0	1	0	1	0	1	
副学長					4	2	2	1	2				0				0	4	2	2	1	2	
准副学長					4	1	3	1	2				0				0	4	1	3	1	2	
副学長代理					1		1		0				0				0	1	0	1	0	0	
シニア・マネージャー	2			2	4		4	2	0				0				0	6	0	6	2	0	
マネージャー	7	1		6	9	4	5		3				0				0	16	5	11	0	3	
スペシャリスト					13	7	6		6				0				0	13	7	6	0	6	
アシスタント・マネージャー	3	1		2	9	5	4		2				0				0	12	6	6	0	2	
職員	5	4		1	118	91	27	2	18	28	25	3	10	20	12	8	2	171	132	39	2	30	
																		0	0	0	0	0	
合計	17	6		11	0	167	110	57	6	37	28	25	3	10	20	12	8	2	232	153	79	6	49

*研究科長は教員を兼任する

○リサーチサポート(役職別・性別)

区分	定年制職員			任期制職員				派遣職員		非常勤職員				合計			
	人数	女	男	人数	女	男	うち外国人	人数	女	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち外国人
シニア・マネージャー				2		2	0							0	0	0	0
マネージャー	1		1	4		4	0							5	0	5	0
アシスタント・マネージャー	1		1				0							1	0	1	0
スペシャリスト				1		1	1							1	0	1	1
職員	2	1	1	36	17	19	7	3	3	6	4	2	1	47	25	22	8
合計	4	1	3	43	17	26	8	3	3	6	4	2	1	56	25	31	9

○研究ユニット職員(役職別・性別)

区分	定年制職員		任期制職員				派遣職員				非常勤職員				合計			
	人数	女	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち外国人	人数	女	男	うち外国人
教員			50	8	42	34									50	8	42	34
サイエンス・テクノロジー・アソシエイト			11	7	4	9									11	7	4	9
リサーチスペシャリスト			2	1	1	2									2	1	1	2
スタッフサイエンティスト			81	17	64	33									81	17	64	33
ポストドクトラルスカラー			118	23	95	85									118	23	95	85
技術員			70	34	36	30	7	2	5	1	9	7	2	3	86	43	43	34
ラボラトリーアシスタント						0					7	7			7	7	0	0
リサーチアドミニストレーター	1	1	36	36		0					1	1			38	38	0	0
合計	1	1	368	126	242	193	7	2	5	1	17	15	2	3	393	144	249	197

2015/03/31現在

	国籍	アドミ	リサーチサポート	研究部門	合計
1	アイルランド	1	1	3	5
2	アメリカ	21	3	30	54
3	アルゼンチン			2	2
4	イギリス	5		16	21
5	イスラエル			1	1
6	イタリア	1	1	2	4
7	インド	3		22	25
8	インドネシア			1	1
9	ウクライナ			2	2
10	エジプト			2	2
11	オーストラリア	3		4	7
12	オーストリア			1	1
13	カナダ	1		1	2
14	キプロス			1	1
15	キリジャ			2	2
16	コスタリカ			1	1
17	コロンビア			1	1
18	ザンビア	1			1
19	シンガポール			1	1
20	スイス			1	1
21	スウェーデン			6	6
22	スペイン	1		5	6
23	スリランカ	1		1	2
24	タイ			2	2
25	チェコ			2	2
26	ドイツ			10	10
27	ニュージーランド	2		3	5
28	ネパール			1	1
29	パキスタン			1	1
30	パレスチナ	1		1	2
31	ハンガリー		1		1
32	バングラデシュ		1	1	2
33	フィリピン	1			1
34	フランス	2	1	11	14
35	ブルガリア	1		2	3
36	ベトナム			3	3
37	ベネズエラ	1			1
38	ベラルーシ			1	1
39	ベルギー			2	2
40	ポーランド	1			1
41	ポルトガル			1	1
42	メキシコ		1	6	7
43	リトアニア			2	2
44	ルーマニア			2	2
45	ロシア			12	12
46	韓国			5	5
47	香港			3	3
48	台湾			5	5
49	中国	1		15	16
50	日本	182	47	196	425
51	(未登録)	2			2
	合計	232	56	393	681

*研究科長は教員と重複する

学校法人沖繩科学技術大学院大学学園の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成25年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができるものとしている。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長 { 平成24年4月から2年間、常勤役員の総額約10%の給与削減を実施。
 理事 { 平成24年4月から2年間、常勤役員の総額約10%の給与削減を実施。
 理事(非常勤) { 改定なし
 監事 { 平成24年4月から2年間、常勤役員総額の総額約10%の給与削減を実施。
 監事(非常勤) { 改定なし

2 役員報酬等の支給状況

役名	平成25年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)		就任	退任	
法人の長	51,912	21,912	30,000 (特別調整手当)				
A理事	21,400	19,400	2,000 (特別調整手当)				
A理事(非常勤)	1,300	1,300	()				
B理事(非常勤)	980	980	()				
C理事(非常勤)	1,380	1,380	()				
D理事(非常勤)	1,380	1,380	()				
E理事(非常勤)	900	900	()				

F理事(非常勤)	580	580	()			
G理事(非常勤)	980	980	()			
H理事(非常勤)	1,380	1,380	()			
I理事(非常勤)	457	457	()		5月12日	
J理事(非常勤)	1,380	1,380	()			
K理事(非常勤)	729	729	()		10月1日	
L理事(非常勤)	54	54	()		5月10日	
M理事(非常勤)	1,400	1,400	()			
N理事(非常勤)	500	500	()			
O理事(非常勤)	1,380	1,380	()			
P理事(非常勤)	980	980	()			
A監事	3,494	3,469	25 (通勤手当)		6月27日	◇
B監事	10,768	10,557	211 (通勤手当)		6月28日	◇
A監事(非常勤)	1,704		()			

注1:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。
 退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。
 注2:「特別調整手当」とは、国際的に卓越した科学技術に関する研究開発等に係る経験、職務の困難度、実績等を勘案して特に必要と認める場合に支給されるものである。

3 役員退職手当の支給状況(平成25年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績励励率	摘要	前職
法人の長		年 月			該当者なし	
理事A		年 月			該当者なし	
監事A		年 月			該当者なし	

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

運営費等の大部分を国の財政支援によりまかなわれる法人として、総人件費の抑制に努めるとともに、職員の給与水準は納税者の理解が得られる合理的な水準とし、それらに関する説明責任を果たす。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映した給与水準を決定する。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与等に反映させる。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
本給	年度ごとに実施される人事評価制度において、前年度の勤務成績及び能力の双方に関して5段階で評価し、更に総合評価を行って、一定の範囲内で昇給を決定している。

ウ 平成25年度における給与制度の主な改正点

職種・職層毎に定められている年俸に関し、一部の職種について、年俸レンジの下限額を引き下げた。

引き続き、平成24年秋の給与再精査を踏まえ、以下の措置を講じた。

(1) 給与水準の適正化

業績評価を徹底し、昇給への反映を厳格化するとともに、今後、定年制職員を採用する場合において、能力に遜色ないときは、若年層から積極的に採用する。なお、通勤手当と住宅手当は、国家公務員と同水準である。

(2) 法人全体の職員の給与水準の抑制

上記(1)の取組に加え、任期制職員についても、新卒者や若年層の採用を促進し、法人全体の給与水準の抑制を図る。

特例法に基づく国家公務員の見直しに関連して、以下の措置を講ずることとした。

(職員について)

平成24年4月から2年間、昇給を停止。

(役員について)

平成24年4月から2年間、常勤役員の総額約10%の給与削減を実施。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成25年度の年間給与(平均)		
			総額	うち所定内	うち賞与
常勤職員	22	42.2	7,960	7,960	112
事務・技術	22	42.2	7,960	7,960	112
任期付職員	385	39.9	6,863	6,863	88
教員	39	49.7	13,260	13,260	51
研究職種	147	37.7	6,604	6,604	61
事務・技術	199	39.6	5,800	5,800	116

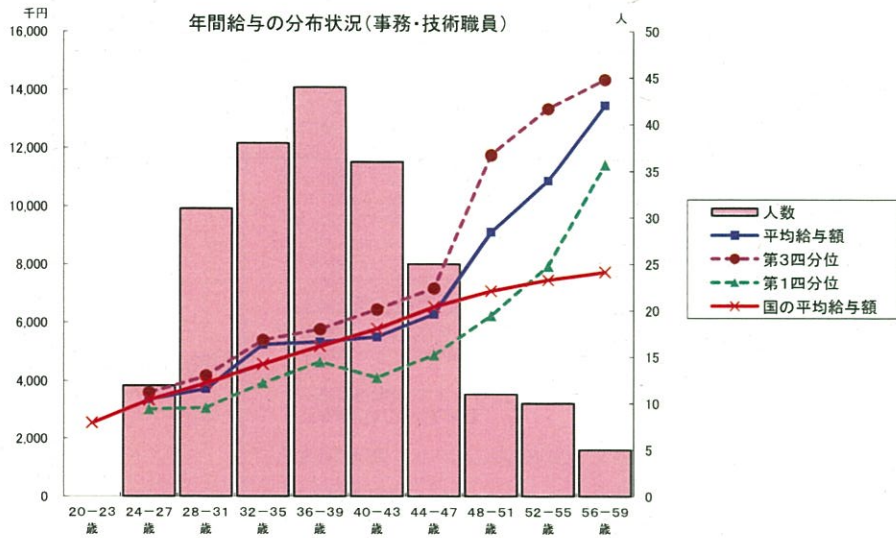
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略した。

注3: 在外職員、再任用職員及び非常勤は該当者なし。

注4: 常勤職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。〕



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位		平均	四分位
			第1分位	第3分位		
代表的職位	人	歳	千円	千円	千円	千円
・部長相当	14	51	11,321	14,242	18,207	
・課長相当	20	49	8,944	10,253	11,415	
・課長補佐相当	14	40	6,108	6,633	7,380	
・主任相当	59	42	5,005	5,767	6,475	
・係員	114	36	3,384	4,090	4,638	

③ 職級別在職状況等(平成26年4月1日現在)(事務・技術職員)

区分	計	7	6	5	4	3	2	1
標準的な職位		副学長	シニアマネージャー	マネージャー	アシスタントマネージャー	スペシャリスト(技術職)	スタッフ II(技術職)	スタッフ I(技術職)
人員(割合)	22	人	人	人	人	人	人	人
年齢(最高～最低)		歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
所定内給与年額(最高～最低)		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
年間給与額(最高～最低)		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

※注:該当者が1人の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

年俸制かつ任期付

区分	計	7	6	5	4	3	2	1
標準的な職位		副学長	シニアマネージャー	マネージャー	アシスタントマネージャー	スペシャリスト(技術職)	スタッフ II(技術職)	スタッフ I(技術職)
人員(割合)	199	人	人	人	人	人	人	人
年齢(最高～最低)		歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
所定内給与年額(最高～最低)		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
年間給与額(最高～最低)		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

注:給与レンジに基づく年俸制を採用しており、職種と職層により、7つの範囲に区分される。

④ 賞与(平成25年度)における査定部分の比率(事務・技術職員)

管理職員	一律支給分(期末相当)	～	～	～
	査定支給分(勤続相当)(平均)	～	～	～
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	～	～	～
	査定支給分(勤続相当)(平均)	～	～	～
	最高～最低	～	～	～

注:給与レンジに基づく年俸制を採用しており、賞与の支給は行っていない。

⑤ 職員と国家公務員との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))

108.5

注: 当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容	
指数の状況	対国家公務員 108.5	
	参考	地域助案 119.1 学歴助案 106.9 地域・学歴助案 118.6
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	<p>本学園は、沖縄科学技術大学院大学(以下、「大学院大学」という)において国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うことを目的とする学校法人である。</p> <p>大学院大学においては研究・教育は英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、①沖縄の振興と自立的発展と②世界の科学技術の向上に資するため、世界最高水準の教育研究を行う研究者の支援等を担う職員が採用されている。すなわち事務職員にも高度な専門性及び高い英語能力を求められているため、指数が高くなる傾向にある。</p> <p>(参考:比較対象職員(221名)の専門能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士以上76名(34%)、うち博士27名(12%) ・大学卒以上171名(77%) (国家公務員(行(一))):54.1%) ・英語の読み書きに関しては全職員がビジネスレベル以上 <p>また、本学園の全職員は、国家公務員の地域手当非支給地である沖縄県に勤務していることから、地域助案指数は高くなっていると考えられる。</p>	
給与水準の適切性の検証	<p>【支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 96.7%】 (国からの財政支出額 15,093百万円、支出予算の総額 15,601百万円:平成25年度予算)</p> <p>【黒積欠損額 0円(平成24年度決算)】</p> <p>【管理職の割合 15.4%】 (比較対象職員221名中34名)</p> <p>【大学卒以上の高学歴者の割合 77%】 (比較対象職員221名中171名)</p> <p>【主務大臣の検証結果】 学園においては研究・教育が英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、そのような研究者の支援等を担う事務職員にも高度な専門性を有することが求められ、優秀な人材の確保を必要としていると認識している。こうした中、学園の給与水準の適正化のための取組を行っており、これらの取組が、着実に実施されるよう、今後とも適切に指導・監督していく。</p>	
講ずる措置	<p>今後、引き続き、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①能力に選色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ②業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化を行うことで、平成26年度の給与水準については、本年度より低くなる見込みである。 	

○比較対象職員の状況

・事務・技術

①表(職種別支給状況)の常勤職員欄の22人及び任期付職員欄の199人 計221人
221人の平均年齢39.9歳、平均年間給与額6,015千円

III 総人件費について

区分	当年度 (平成25年度)	前年度 (平成24年度)	比較増△減	
	千円	千円	千円	(%)
給与、報酬等支給総額 (A)	3,755,654	2,965,884	789,770	(26.6)
退職手当支給額 (B)	0	23,098	△23,098	(△100.0)
非常勤役職員等給与 (C)	67,209	50,268	16,941	(33.7)
福利厚生費 (D)	375,151	284,925	90,226	(31.7)
最広義人件費 (A+B+C+D)	4,198,014	3,324,175	873,839	(26.3)

総人件費について参考となる事項

平成24年9月の開学に伴い、研究ユニットや研究支援部門を中心に人員(前年度比で研究ユニット67名、研究支援部門17名)が増加したため総人件費が増額になっている。

IV 法人が必要と認める事項

ア.「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年9月まで98/100、平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額した。

2014年度 職員研修 FY2014 Staff Training

【実施計画】

新規 New	実施日 Date	研修項目 Item of Training/Course	対象人数 Target Audience	登録者数 Registrations	出席者数 Participants
	4/10	新入職員研修 (New Graduate Training)	6	6	6
	9/2	新入職員研修 II (New Graduate Training II)	4	4	4
○	6/20	接客マナー研修 (Customer Manner Training)	15	14	12
○	6/25	接客マナー研修 (Customer Manner Training II)	15	14	11
	7/7	7つの習慣(日本語講演会) 7 Habits of Highly Effective People/Introduction Session	100	85	75
	7/7	7 habits (seminar) 7つの習慣(英語講習会)	50	38	26
○	6/24	Microsoft Training (PC Beginner) (初心者向け)	10	3	3
	6/26	Microsoft Training (Word) 基礎	10	2	2
	7/10	Microsoft Training (Word) 応用	25	18	13
	8/13	Microsoft Training (Word) 実務	20	16	13
	7/25	Microsoft Training (Excel) 基礎 (Basic)	10	10	7
	7月~8月	7つの習慣 (7 Habits of Highly Effective People)	6	16	11
	9/11	Microsoft Training (Excel) 応用 (Intermediate)	25	25	21
	9/25		25	25	19
	10/24	Microsoft Training (Excel) 実務 (Advanced)	15	18	12
	11/21	Microsoft Training (Excel) 実習 (Practical Application)	20	6	6
	7/18	Microsoft Training (PowerPoint) 基礎 (Basic)	15	7	6
	8/27	Microsoft Training (Power Point) 応用 (Intermediate)	20	10	5
	9/10	Microsoft Training (Power Point) 実習 (Advanced)	20	1	1
	7/17	Microsoft Training (Access) 初級 (Fundamentals)	20	15	11
	7/29	Microsoft Training (Access) 基礎 (Basic)	20	18	14
	10/10	Microsoft Training (Access) 応用 (intermediate)	20	7	3
	10/29		20	7	3
	11/14	Microsoft Training (Access) 実務 (Advanced)	20	6	4
	11/28	Microsoft Training (Access) 実習 (Practical Application)	20	7	7
	12/10	Microsoft Training (Access) 実習B (Practical Application)	20	6	6
	12/24		20	7	6
○	8/21	ロジカルコミュニケーションセミナー (Logical Communication Seminar)	50	27	17
○	8/21	Logical Communication Seminar (ロジカルコミュニケーションセミナー)	50	17	11

新規 New	実施日 Date	研修項目 Item of Training/Course	対象人数 Target Audience	登録者数 Registrations	出席者数 Participants	
○	8/22	ロジカルライティングセミナー (Logical Writing)	50	31	22	
○	8/25	ビジネス文書 (Business Writing)	25	25	21	
○	9/5	わかりやすい図解資料の作り方 (Making Easy to Understand Documents)	25	17	11	
	9/19	Sexual Harassment Prevention Training (セクハラ研修・学生向け)	43	43	39	
○	10/17	健康診断の見方 (Understanding Health Checkup Documents)	10	10	8	
○		エクササイズ (Exercise for Health)	10	11	5	
○	11/7	最適な栄養バランスを考える (Thinking about the Best Nutrition Balance)	10	10	8	
○		ウォーキング (Walking for Health)	10	7	4	
○	10/20	マニュアル作成研修 (Making Manuals)	25	19	14	
	10/21	新人フォローアップ研修 (Follow up Manner Training for New Grads)	10		10	
○	12/12	Write Perfect Emails (完璧な英文メール)	40	40	39	
	1/30	Scientific Writing Seminar (科学論文の書き方)	100	89	66	
	2/17	確定申告セミナー (Japanese Income Tax Filing Seminar)	50	9	6	
	2/17	Japanese Income Tax Filing Seminar (確定申告セミナー)	50	10	9	
	2/20	Write Perfect English (The 2nd Session) (完璧な英文メール)	45	41	39	
	5/21	ベーシックプラスコース (Basic Plus Life Saving Training)	6	6	6	
	7/16		6	6	6	
	8/20		6	3	3	
	9/17		6	4	3	
	11/19		6	4	3	
	1/21		6	5	3	
	6/4		Basic Plus Course (ベーシックプラスコース)	6	6	4
	8/6			6	6	6
	10/1	6		3	2	
	12/3	6		5	3	
	2/4	6		5	5	
	3/18	Care Plus Course (ケアプラスコース)	6	6	6	
6		合計 Total:	1,226	849	686	

FY2014 に開催した研修・セミナー

【研究安全】

セミナー・会議・コース	開催数	参加者数
一般オリエンテーション	オンラインプログラム	45
専門オリエンテーション	オンラインプログラム	106
安全に実験をするための基本的な考え方と基礎知識	オンラインプログラム	54
化学物質	オンラインプログラム	24
廃棄物	オンラインプログラム	58
バイオセーフティ	オンラインプログラム	30
安全保障輸出管理	オンラインプログラム	52
レーザー安全	オンラインプログラム	48
人対象研究	オンラインプログラム	4
研究安全全般に係るアップデートセッション	オンラインプログラム	136
血液感染性病原体	オンラインプログラム	7
責任ある研究行為	オンラインプログラム	6

セミナー・会議・コース	対象者(記入例: アドミ、研究者、業者等)	参加者数
安全講習会	取引業者等	194
人対象審査研修	人対象研究審査委員会委員	9
安全保障輸出管理	全教職員	54
放射線障害予防に係る法定教育訓練	放射線業務従事者	39
「生物の多様性に関する条約の遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」に係るセミナー	関連専門職員	5

労災保険セミナー	全教職員	89
緊急連絡手順に関する説明会	OBM 職員	13
防災センター職員向け安全講習会	OBM 職員	7

【DNA シーケンシング】

セミナー・会議・コース	対象者(記入例: アドミ、研究者、業者等)	参加者数
リアルタイム PCR システム StepOne Plus の取り扱い説明会	研究者	6
自動 DNA 断片ゲル抽出装置 Blue Pippin の取り扱い説明会	研究者	8
パーソナル次世代シーケンサーMiSeq の取り扱い個別トレーニング	研究者	2

【サイエンティフィックコンピューティングセッション】

セミナー・会議・コース	対象者(記入例: アドミ、研究者、業者等)	参加者数
MATLAB セミナー(マスワークスジャパン)	研究者、学生	13
LabVIEW セミナー(ナショナルインスツルメンツ)	研究者、学生	8
Mathematica セミナー(ウルフラムリサーチ)	研究者、学生	9
Amira セミナー(FEI)	アドミ、研究者、学生	15
HPC and Scientific Computing at OIST (ベーシックトレーニング): part 1	研究者、学生	39
HPC and Scientific Computing at OIST (ベーシックトレーニング): part 2	研究者、学生	30
Web portal for HPC services (SysFeraDS)	研究者	12

【実験動物支援セクション】

セミナー・会議・コース（開催回数）	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加者数
動物実験開始前オリエンテーション(14)	研究者、学生、アドミニ	36
実験動物施設入室前オリエンテーション（1）	アドミ	2
マウスの取り扱い・投与・採血・灌流トレーニング（6）	研究者、学生	4
ラットの取り扱い・投与（7）	学生	1
講演：動物福祉	研究者、学生、アドミ	38
MRI 講習会（3）	研究者、学生	3
MRI 操作トレーニング（33）	研究者、学生、アドミ	3
セミナー：光音響イメージング	研究者、学生	8

【生物研究支援】

セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加者数
タンパク質結晶用 UV 顕微鏡（Jan Scientific）	研究者、事務職員	6
X 線 CT 顕微鏡: Xradia 510 Versa (Zeiss)	研究者、事務職員	5
質量分析計: Q exactive (Thermo)	研究者、事務職員	7
分子量測定システム (Waters & Wyatt)	研究者、事務職員	4
セルソーター: FACSAria III (Beckton Dickinson)	研究者、事務職員	3
連続断面観察走査電子顕微鏡 (FEI)	研究者、事務職員	8
粗大粒子用ソーター: BioSorter (Union Biometrica)	研究者、事務職員	2
示差走査熱量計 (Malvern)	研究者、事務職員	3

【外部研究資金】

セミナー・会議・コース	対象者(記入例: アドミ、研究者、業者等)	参加者数
CREST/PRESTO 説明会	研究者、事務職員	21
科研費事務処理説明会	研究者、事務職員	45
科研費概要説明会	研究者、事務職員	27
科研費申請書書き方セミナー	研究者、事務職員	50
MTA セミナー	研究者、事務職員	45

【物理研究支援】

セミナー・会議・コース	対象者(記入例: アドミ、研究者、業者等)	参加者数
物理セミナー (2)	研究者	25
技術セミナー／展示会 (3)	研究者	35
電子ビームリソグラフィシステムトレーニング (2)	研究者	2
原子間力顕微鏡ユーザートレーニング (3)	研究者	3
真空オープンユーザートレーニング (2)	研究者	2
ワイヤーボンダー ユーザートレーニング (2)	研究者	2
電子ビーム蒸着装置ユーザートレーニング (10)	研究者	10
マスクレス紫外線リソグラフィシステムユーザートレーニング (6)	研究者	6
ダイサーユーザートレーニング (2)	研究者	2
プラズマクリーナーユーザートレーニング (2)	研究者	2
4端子プローブシステムユーザートレーニング (2)	研究者	2
3Dプリンターユーザートレーニング (15)	研究者	15
ラマン分光計ユーザートレーニング (5)	研究者	5

スパッターデポジションユーザートレーニング (4)	研究者	4
誘導プラズマエッチング装置ユーザートレーニング (5)	研究者	5
プローブステーションユーザートレーニング (2)	研究者	2
走査電子顕微鏡ユーザートレーニング (14)	研究者	20
エネルギー分散型X線分光器ユーザートレーニング (1)	研究者	2
X線回折装置ユーザートレーニング (5)	研究者	11
X線光電子分光装置ユーザートレーニング (5)	研究者	14
集光イオンビーム電子顕微鏡ユーザートレーニング (2)	研究者	17
蛍光X線分析ユーザートレーニング (1)	研究者	1
物理測定装置ユーザートレーニング (2)	研究者	12
環境型透過電子顕微鏡ユーザートレーニング (2)	研究者	3
機械加工ユーザートレーニング (5)	研究者	9

【海洋研究支援】

セミナー・会議・コース	対象者(記入例:アドミ、研究者、業者等)	参加者数
海洋安全トレーニング1	研究者、事務職員	33
海洋安全トレーニング2	研究者、事務職員	14
海洋安全トレーニング3	研究者、事務職員	8

外部資金獲得状況/External Funding

新分類 New categories	H26(2014)	
	金額	件数
科研費 Kakenhi	165,266,341	54
受託研究等 (学術系) Academic grants	104,967,000	5
受託研究等 (産学連携系) Industry related grants	69,994,690	10
その他国内助成金 Other domestic grants	22,635,500	11
海外助成金等 Overseas grants	27,166,059	3
寄附金 Donation	1,065,960	6
合計/Total	391,095,550	

旧分類 Old categories	H26(2014)	
	金額	件数
科研費/Kakenhi	165,266,341	54
受託研究/Sponsored Research	175,703,490	12
その他補助金/Other Subsidy	10,027,200	3
共同研究/Joint Research	3,900,000	3
民間・財団等/Private or Foundations et	35,132,559	11
寄附金/Donation	1,065,960	6
合計/Total	391,095,550	

外部資金獲得状況/External Funding

	H18(2006)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)		H24(2012)		H25(2013)		H26(2014)	
	金額	金額	金額	金額	金額	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
科研費/Kakenhi	3,800,000	10,293,000	17,225,000	58,923,142	68,281,464	160,041,305	26	185,570,000	30	168,017,777	40	165,266,341	54
受託研究/Sponsored Research	0	0	0	16,200,000	42,751,000	110,261,800	11	151,397,660	14	133,566,955	13	175,703,490	12
その他補助金/Other Subsidy	0	0	0	0	0	0	0	19,120,000	2	39,161,300	3	10,027,200	3
共同研究/Joint Research	0	28,500,000	8,268,750	8,357,625	8,000,000	6,500,000	1	9,781,000	2	8,190,000	3	3,900,000	3
民間・財団等/Private or Foundations etc.	0	0	0	162,000	0	23,969,000	3	19,720,574	3	35,811,969	10	35,132,559	11
寄附金/Donation	0	0	0	0	0	10,822,000	6	14,793,155	11	8,353,825	12	1,065,960	6
合計/Total	3,800,000	38,793,000	25,493,750	83,642,767	119,032,464	311,594,105		400,382,389		393,101,826		391,095,550	

